

現代生活学部 人間栄養学科
栄養教諭一種免許状

授業科目名	学校栄養教育指導法I		サブタイトル	授業番号	NW301
担当教員名	岡崎 恵子				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】 栄養教諭制度創設の経緯を十分に把握した上で、法制度や栄養教諭の職務内容について講義する。児童生徒の発達段階に応じた給食時の指導案の立案・資料等を作成し、模擬授業を実践する。学校・家庭・地域との連携や協働・調整の具体を説明する。栄養教諭として必要な食に関する指導および給食管理について総合的に学修する。					
【到達目標】 ・栄養教諭制度の創設の経緯を把握し、栄養教諭としての社会的使命や職務内容を理解することができるようにする。 ・児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導について理解し、考えることができるようにする。 ・学校給食を教材とし、給食時の食に関する指導の指導案等を作成することができるようにする。 ・学校給食の管理・運営ができる能力を養うことができるようにする。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。					
【授業計画】					
【授業計画 備考】 授業形態は講義、演習になる					
第1回：栄養教諭の制度と役割 学校栄養職員の見学、栄養教諭創設の経緯、栄養教諭の職務内容を正しく理解し、果たすべき役割をとらえる。 第2回：学校組織と栄養教諭 学校組織と栄養教諭の位置づけについて理解し、学校組織の中で栄養教諭が具体的にどのような働きをしていくかについて理解する。 第3回：学校給食と日本人の食生活 学校給食は地産産物を活用し、郷土料理や行事食を提供するなど、地域の文化や伝統に対する理解と関心を深めることで教育的効果をもつ教材としての役割を担っていることを理解する。また、学校給食の歴史を理解する。 第4回：子どもの発達と食生活 児童生徒の体位、体力、健康状態、栄養摂取状況、食生活の実態を把握し、成人期までの成長を見通した食育を実施できるように、学校における給食の位置づけと食育の重要性を理解する。 第5回：学習指導要領の意義と食育の在り方 学校において食育を推進するにあたっては、学習指導要領の趣旨や内容などをよく理解した上で、教育課程に位置づけ、組織的・計画的な取り組みを行う大切さを理解する。 第6回：食に関する指導の全体計画 食に関する指導の全体計画の必要性や考え方、そして、計画に盛り込むべき内容の作成の手順について理解する。 第7回：食に関する指導の展開 食に関する指導の全体計画を踏まえて子どもの実態に応じてどのように指導計画を作成すればよいか、教科や特別活動などと関連付けた指導をどのように行えばよいかについて理解を深める。 第8回：食に関する指導と小学生用食育教材 文部科学省「食育教材」を教材に、発達段階の合わせた食に関する指導の具体的な内容を把握し、食に関する指導について理解する。 第9回：給食の時間における食に関する指導 学校給食を教材として、給食の時間における食に関する指導の特徴や進め方、指導の留意点について理解する。 第10回：給食の時間における食に関する指導案・板書計画・細案作成・実践 給食の時間の「食に関する指導」の指導案、板書計画、細案の作成を行う。 第11回：給食の時間における食に関する指導の実践、ディスカッション アクティブラーニングを取り入れ、給食時間の「食に関する指導」を実践する。 第12回：教科等における食に関する指導（小学校「家庭科」・中学校「技術・家庭科」、生活科、総合的な学習の時間、体育科・保健体育科、道徳、特別活動、総合的な学習時間） 食に関する指導に関連付けられている教科等について学習内容や指導の考えかたを知り、理解を深める。 第13回：個別栄養相談指導の意義と方法 肥満、痩せ、食物アレルギー、生活習慣の予防、さらに食品や料理の選択、食べ方などが著しく偏っている児童生徒への個別栄養相談指導について理解し考える。 第14回：家庭・地域との連携、給食だよりの作成・説明 学校と家庭・地域社会との連携を図ることは、児童生徒が地域の良さを理解するとともに、食事の重油性やsh九時を大切にすることを育てる上で効果があることを理解する。 第15回：学校給食の管理・運営、まとめ、ディスカッション 学校給食の管理・運営、特に衛生管理についてより理解を深める。					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な授業態度、討議への参加、予習・復習の状況によって評価する。		
	レポート				
	小テスト	10%	各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。		
	その他	10%	給食時の指導案、給食だよりの等、提出物		
自由記載					
【受講の心得】 各回が独立して、15回で1つの流れとなつてつなげる授業であることから、毎回しっかり学修する態度で事前・事後学修に励み出席すること。栄養教諭を目指す気持ちを確立させてほしい。					
【授業外学修】 ・授業予定一覧に沿って、使用テキストを利用した予習・復習をすること。 ・指導案や資料等の作成、教材の準備をすること。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	四訂 栄養教諭論－理論と実際－	金田雅代 編著	建帛社	2, 800+税	978-4-7679-2116-7
	食に関する指導の手引 第二次改訂版	文部科学省	健学社	1, 300+税	978-4-7797-0496-3
	小学校学習指導要領解説 家庭編	文部科学省	東洋館出版社	95+税	978-4-491-03466-9
	小学校教科書「私たちの家庭科5・6」		開隆堂		
	学校給食調理従事者研修マニュアル	文部科学省スポーツ・青少年局学校健康課	株式会社 学建書院	1, 800+税	978-4-7624-0884-7
	自由記載				
参考書	自由記載	「食育教材」文部科学省			
【その他】 適宜紹介する。					
【備考】 令和5年度改訂					
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の実務経験】 管理栄養士：公立小学校・中学校，学校給食センター，教育行政，福祉					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 栄養教諭に必要な現代的課題等への対応等について，実践的な指導をする。					

授業科目名	学校栄養教育指導法II		サブタイトル		授業番号	NW302
担当教員名	岡崎 恵子 森寺 勝之					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】 学校栄養教育指導法Iで学んだ内容について、実践演習を行う。栄養教諭としての効果的な食に関する指導の学習指導案の作成、模擬授業、ロールプレイング、アクティブラーニングを取り入れ、実践的指導力のスキルの育成を行う。						
【到達目標】 ・児童生徒の心身の発達段階に応じた1単位時間の「食に関する指導」の内容を理解することができるようにする。 ・食に関する指導の指導案の立案、模擬授業等を行うことができるようにする。 ・栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキル等を身に付けることを目標とする。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回 学校栄養教育指導法Iを踏まえて（食に関する指導、給食管理） ○特別活動、給食時間、学級活動における食に関する指導について、発達段階に合わせた題材を知り、自ら考え理解を深める。						
第2回 学校給食の衛生管理基準 ○食に関する指導の題材となる学校給食の衛生管理(学校給食衛生管理基準、食物アレルギー、危機管理)について、具体的な例を知ることで、より一層理解を深める。						
第3回～4回 実践演習（1） 1単位時間の学習指導案の作成の基本 ○学級活動 1単位時間の学習指導案の作成の基礎を知り、理解を深め作成する。						
第5回 教育現場に勤務するプロとしての栄養教諭 ○現場で働く栄養教諭について理解を深める。(特別講師)						
第6～8回 実践演習（2） 食に関する指導の学習指導案の作成、指導案の発表、相互批評、指導効果の評価、検討 ○学級活動での食に関する指導案等(指導案、板書計画、ワークシート、事前事後の調査)を作成し、模擬授業をする。相互評価をして指導技能を高める。						
第9～14回 実践演習（3） 学習指導案の作成、指導案の発表、相互批評、指導効果の評価、検討 ○給食時間・学級活動の食に関する指導案等を作成し、模擬授業を行いディスカッションすることで、改善することで、よりよい指導案に仕上げる。						
第15回 学校栄養教育実習の説明、全体のまとめ ○学校栄養教育実習に向けて、事前訪問・学校栄養教育実習書等について理解を深める。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	70%	演習内容、課題への取組を評価する。意欲的な受講態度、ディスカッションへの参加状況によって評価する。			
	レポート	10%	食に関する指導についての理解度を評価する。			
	小テスト	20%	栄養教諭の職務についての理解度を評価する。			
	定期試験					
	その他					
【受講の心得】 グループでの活動が多いので、この機会をとらえてコミュニケーション能力を養うよう意欲的な態度で臨むこと。学習指導案の立案の際、各自で事前・事後学習に励むこと。						
【授業外学修】 ・学校栄養教育指導法Iで使用したテキストを熟読して、予習・復習をすること。 ・教材研究をしておくこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。 ・小中学校の公開時を捉え、授業を参観する。						
使用テキスト	自由記載	学校栄養教育指導法Iで使用したテキスト、必要に応じて資料を用意する。				
参考書	自由記載	担当教員が提示する。				
【備考】 令和5年度改訂						
【担当教員の実務経験の有無】 有						
【担当教員の実務経験】 ○管理栄養士：公立小学校・中学校、学校給食センター、教育行政、福祉 ○小中高教員、岡山県教育委員会専門的教育職員、小学校教頭・校長						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						
【実務経験をいかした教育内容】 教育現場での職務の実際及び「食に関する指導」の授業実践から、栄養教諭に必要なとされる技能を修得させる。						

授業科目名	教育原理		サブタイトル		授業番号	NV102
担当教員名	森寺 勝之					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】 講義形式で、現代社会における教育課題を踏まえ、これらの問題解決の一助となるよう、今一度、教育という営みの根源に立ち返ることを目的とする。 そのため、将来、教育に携わる者が、最低限、知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について学修する。 また、教育の基本的な事項について学修していく。特に、教育とは何かという根源的な問いと、教育行政や学校教育制度といった、児童・生徒の立場からは察し得ない事象に重点を置いて講義する。						
【到達目標】 教育の基本的な事項について学び、将来、教育に携わる者が、最低限、知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について理解できるようになる。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>の修得に貢献する。 教育の目的や教育の歴史、教職という仕事、日本の教育問題等について問題を見出し、解決方法を探究し、次の問題の発見・解決につなげることができるようになることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：子どもの発達と教育の目的 第2回：教育とは何か 第3回：教育の歴史(1) 学校の歴史 第4回：教育の歴史(2) 海外の教育 第5回：教育の歴史(3) 海外の教育史(近代の教育思想) 第6回：教育の歴史(4) 海外の教育史(近代教育学の成立) 第7回：教育の歴史(5) 日本の教育史 第8回：「教える」という仕事(1) 教育課程と授業の計画 第9回：「教える」という仕事(2) 教育課程と授業実践 第10回：「教える」という仕事(3) 教育評価 第11回：「教える」という仕事(4) 学校・学級経営 第12回：学び続ける教員となるために 第13回：社会教育と生涯学習 第14回：地域社会と学校 第15回：現代日本の教育問題						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、発表の有無、ノート整理、予習復習の状況等によって評価する。			
	レポート	30%	課題に対して、意欲的に取り組んでいるか、自分の考えがまとめられているか等で評価する。			
	小テスト					
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 教育公務員・栄養教諭の教員免許取得の基礎単位であることから、受講に際しては、教育公務員を志願するにふさわしい、言動の在り方を常に考えるとともに、現在の学校教育の課題と教育公務員(栄養教諭)の社会的使命について真剣に考えること。 テキストを事前に読み、疑問点をあらかじめ調べたりすること。また、学修したことをノートに整理したりすること。						
【授業外学修】 週当たり4時間以上、テキストを読むこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	教育原理		島田和幸・高宮正真	ミネルヴァ書房	2200	978-4-623-08176-9
	自由記載					
参考書	自由記載	『教育六法』（どの出版社のものでも良い）				
【担当教員の実務経験の有無】 有						
【担当教員の実務経験】 小中高教員、岡山県教育委員会専門的教育職員、小学校教頭・校長						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						
【実務経験をいかした教育内容】 学校や教育行政、小学校長としての経験をもとに、教育の歴史や制度等の基本的な事項について、具体例をもとに、できるだけわかりやすい講座としたい。						

授業科目名	教職概論		サブタイトル		授業番号	NV101
担当教員名	森寺 勝之					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】 教職概論では、教職の意義と内容について学ぶことを目的としている。栄養教諭の免許取得のための最低限の職業論（教職の全体像をつかむとともに、教職に関する基礎的な知識）を学習する。						
【到達目標】 教育公務員・栄養教諭の役割や職務内容等について、制度的、実体的側面から理解するとともに、必要な法令遵守、社会規範や教職・教育に対する使命、モラル、マナー等を自覚し、実践する態度を身に付ける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：子どもの生活と学校 第2回：学習指導 第3回：生徒指導・進路指導 第4回：教育相談 第5回：学級経営 第6回：教師に何を求めてきたか、いま何が求められているか 第7回：児童生徒と教師—学ぶことと教えること 第8回：教員養成の制度 第9回：教職課程の仕組みと内容 第10回：教員の採用 第11回：教員の研修 第12回：教員の地位と身分 第13回：教員の待遇と勤務条件 第14回：学校制度 第15回：学校管理・運営体制						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、発表の有無、ノート整理、予習復習の状況によって評価する。			
	レポート	30%	課題に対して意欲的に取り組んでいるか、自分の考えでまとめられているか等で評価する			
	小テスト					
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 教育公務員(栄養教諭)の教員免許取得の基礎単位であることから、受講に際しては、教育公務員を志願するにふさわしい言動の在り方を常に考えるとともに、現在の学校教育の課題や教育職員の社会的使命について真剣に考えること。						
【授業外学修】 1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点をあらかじめ調べたりしておく。 2. 復習として、課題のレポートやノート整理をする。 3. 発展的学習として、教育に関するニュース収集をし、自分の見解を述べられるようにする。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	教職入門 教師への道		藤本典裕	図書文化	1800	978-4-8100-9720-7
	自由記載					
参考書	自由記載	授業において随時紹介する。				
【担当教員の実務経験の有無】 有						
【担当教員の実務経験】 小中高教員、岡山県教育委員会専門的教育職員、小学校教頭・校長						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						
【実務経験をいかした教育内容】 教職に関する基礎的な事柄について、教員や学校長、県教育委員会専門的教育職員としての実践をもとに、より具体的な講義を行う。						

授業科目名	教育心理学		サブタイトル		授業番号	NV103
担当教員名	國田 祥子					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】 教育心理学とは、学び手としての子どもを心理学の視点から理解し、支援するための科学である。 この授業では、子どもの学びと適応の支援という視点から、教育に関する心理学的知見を広く扱う。						
【到達目標】 実際に教育現場に立つ際、児童・生徒の理解を助けるために必要となる、心理学的な視点の基礎を、講義を通じて身につけることを目指す。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：教育心理学とは 第2回：乳幼児期の発達 第3回：児童期・青年期の発達 第4回：学習と知識獲得 第5回：認知的情報処理 第6回：動機づけと学習 第7回：認知発達と学習支援 第8回：中間のまとめ 第9回：学級集団と学習支援 第10回：個人差と学習支援 第11回：教育評価 第12回：障害児の理解と配慮 第13回：障害児への支援 第14回：教育を取り巻く諸問題 第15回：期末のまとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	100%	理解度を評価する。			
	その他 自由記載					
【受講の心得】 積極的な受講態度を期待します。						
【授業外学修】 毎回の授業の前にテキストを読み、4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる！教職エクササイズ2 教育心理学		田爪宏二（編著）	ミネルヴァ書房	2200円	978-4-623-08177-6
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						

授業科目名	特別支援教育概論		サブタイトル		授業番号	NV208
担当教員名	中 典子 池谷 航介					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】 講義形式で、特別支援教育の基本的なことについて学習していく。 特に、特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の理解、教育課程、支援の方法を学ぶ中で、学校と関係機関との連携のあり方について講義する。						
【到達目標】 保育者・教育者は通常学級において特別な配慮をする必要のある幼児や児童生徒が学習に参加する中で将来の自立に向けて支援していく必要がある。本講義では、幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な知識や支援の方法を理解することを目的とする。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
<p>第1回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性について理解する。 ※（担当池谷航介）</p> <p>第2回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の心身の発達 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒一人一人の心身の発達に関するアセスメントの方法を理解する。 ※（担当池谷航介）</p> <p>第3回：特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 障害者総合支援法、発達障害者総合支援法の内容を理解する。 ※（担当池谷航介）</p> <p>第4回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ 授業をするうえで必要とされる配慮を理解する。 ※（担当池谷航介）</p> <p>第5回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の教育課程 特別支援教育における教育課程について理解する。 ※（担当池谷航介）</p> <p>第6回：発達障害をはじめとする障害のある子どもへの配慮 合理的配慮について理解する。 ※（担当中 典子）</p> <p>第7回：「通級指導」と「自立活動」の教育課程上の位置づけ 特別支援教育における指導技術について理解する。 ※（担当池谷航介）</p> <p>第8回：「個別指導計画」と「個別教育支援計画」の意義と方法 「個別指導計画」と「個別教育支援計画」を実際に記載し、その意義と方法を理解する。 ※（担当池谷航介）</p> <p>第9回：学校と家庭との連携のあり方 個別の教育支援計画を作り、暮らしにおいて必要な社会資源を理解する。 ※（担当中 典子）</p> <p>第10回：学校と地域の関係機関との連携のあり方 学校をとりまく社会資源についての情報を収集し、連携の方法を理解する。 ※（担当中 典子）</p> <p>第11回：多文化の幼児や児童生徒に対する学習や生活のしづらさ 多文化の幼児や児童生徒が置かれている状況を理解する。 ※（担当中 典子）</p> <p>第12回：多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方 多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方を理解する。 ※（担当中 典子）</p> <p>第13回：貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ 子どもの貧困について理解する。 ※（担当中 典子）</p> <p>第14回：貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒支援のあり方 学習環境を整えるための支援について理解する。 ※（担当中 典子）</p> <p>第15回：多文化や貧困問題により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習支援 幼児や児童生徒に対して学習保障をするためにどのような対応が必要か理解する。 ※（担当中 典子）</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート	50%	課題に対して具体的に述べていること。課題についてはコメントを記入して返却する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	50%	毎回提示する課題に対し具体的に述べていること。課題に対してはコメントを記入して返却する。			
自由記載						
【受講の心得】 授業内容の理解を深めるため、授業開始前までに事前に配付する資料の内容を読んでおくこと。						

【授業外学修】

授業開始前までに、事前に配付する資料の内容を読んでおくこと。(1時間)

授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げしておくこと。(2時間)

授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。(1時間)

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	
【担当教員の実務経験の有無】 有		
【担当教員の实務経験】 小学校教諭，特別支援学校教諭(池谷航介)		
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無		
【実務経験をいかした教育内容】 小学校教諭及び特別支援学校教諭の経験をいかし，様々な障がいをもつ児童・生徒への対応について指導する。(池谷航介)		

授業科目名	教育課程総論	サブタイトル		授業番号	NV204
担当教員名	森寺 勝之				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】
教育課程の意義・編成の方法について学修するとともに、教育課程に関する法令や学習指導要領総則等について学修する。

【到達目標】
・教育課程関係の法令や学習指導要領総則について学び、求められる教育課程について理解する。
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。
・教育課程の意義・編成の方法について問題を見出し、解決方法を探究し、解決につなげることができるようになることを目的とする。
なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：現代における教育方法の歴史と発展
第2回：学習指導の方法
第3回：学習集団の編成と指導方法
第4回：教育課程の意義と定義
教育課程の法的根拠
第5回：学習指導要領の変遷
第6回：「総合的な学習の時間」創設とその経緯
総合的な学習の歴史
第7回：「総合的な学習の時間」の実践例
第8回：カリキュラム・マネジメントの意義と定義
第9回：カリキュラム・マネジメントに関する研究動向
第10回：学校経営のサイクルとカリキュラム・マネジメント
カリキュラム・マネジメントの各プロセス
第11回：カリキュラムの評価における留意点と主要観点の具体例
第12回：カリキュラム・マネジメントの活性化とその方策
カリキュラム・マネジメントの重要目標としての学力向上に関する施策の経緯
第13回：アクティブ・ラーニングの定義と導入の教育行政的経緯
アクティブ・ラーニングとカリキュラム・マネジメントの連動
第14回：「社会に開かれた教育課程」の理念とその背景
「社会に開かれた教育課程」とカリキュラム・マネジメント
第15回：「開かれた学校づくり」の概念との違い
カリキュラム・マネジメントの重要性

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、発表への有無、ノート整理、予習復習の状況等によって評価する。
レポート	30%	課題に対して、意欲的に取り組んでいるか、自分の考えでまとめられているか等で評価する。	
小テスト			
定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。	
その他			
自由記載			

【受講の心得】
これからの時代に求められる新たな教育環境を創るために、教育課程からカリキュラム・マネジメントまで学びます。
教育課程がわかると学校の教育活動の全体構造を知ることができます。しっかりと学んで下さい。
配付するプリント・資料などはファイルにとじ、整理すること。

【授業外学修】
1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
2 復習として、課題のレポートやノートを整理する。
3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	教育課程論	山崎保寿	学陽書房	2600	978-61143-6 C1037
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校指導要領解説 総則編	文部科学省	東洋館出版社	155	978-4-491- 03461-4
	自由記載				

【担当教員の実務経験の有無】 有
【担当教員の実務経験】 小中学校教員 岡山県教育委員会専門的教育職員 小学校教頭・校長
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無
【実務経験をいかした教育内容】 学校教育における教育課程の編成やカリキュラムマネジメントについて、教員や学校長、専門的教育職員としての実践をもとにした講義を行うこなう

授業科目名	総合的な学習の時間及び特別活動の指導法		サブタイトル		授業番号	NV209
担当教員名	佐々木 弘記					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科		単位数	2単位		
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 小学校・中学校の教育課程の編成について概観し、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の目標、内容を学習指導要領解説に基づき概説する。また、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の現代的意義を論議する。さらに、小学校・中学校校における学習活動としての道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の重要性について理解を深め、各内容の実践的課題を整理する。						
【到達目標】 学習指導要領に示された道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について理解する。〈知識・理解〉 小学校・中学校の教師として、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動（学級・ホームルーム活動や学校行事等）における諸問題に対応できる問題解決力を身に付ける。〈思考・問題解決能力〉 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：道徳教育の意義と目標・内容 第2回：道徳教育の歴史と現代社会における道徳教育の課題 第3回：道徳性の発達 第4回：総合的な学習の時間の意義と目標・内容 第5回：総合的な学習の時間の指導計画 第6回：総合的な学習の時間の学習指導案 第7回：総合的な学習の時間の指導と各教科等との関連 第8回：総合的な学習の時間の指導の手立て 第9回：総合的な学習の時間の評価 第10回：特別活動の意義と目標 第11回：特別活動と各教科等との関連 第12回：特別活動の内容 第13回：特別活動の指導と評価 第14回：特別活動の学習指導案 第15回：特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	10%	課題について、要点や自分の考えを述べたレポートによって評価する。			
	小テスト	20%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。			
	定期試験	60%	最終的な知識や理解の度合いを評価する。			
	その他 自由記載					
【受講の心得】 毎回、授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。また、返却された小テストは、ノートに貼付し、復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。						
【授業外学修】 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	小学校学習指導要領解説 道徳編	文部科学省				
	小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編	文部科学省				
	小学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省				
	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省				
自由記載						
参考書	自由記載	『新しい特別活動指導論』、高旗正人・倉田侃司 編著、ミネルヴァ書房、2004年				
【その他】 毎回、授業ノートを提出するので、ルーズリーフのノートを用意すること。						
【担当教員の実務経験の有無】 有						

【担当教員の実務経験】 公立中学校理科教諭，県教育センター（佐々木弘記）
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無
【実務経験をいかした教育内容】 学校，教育センター等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

授業科目名	教育方法学		サブタイトル		授業番号	NV205
担当教員名	住野 好久					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】						
子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法、技術を教授するとともに、情報機器及び教材の活用について教授する。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法を理解する。 教育の目的に適した指導技術を理解し、身につける。 情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：教育の方法(1) 教育実践における教育の目的・目標、内容、方法、組織 ※ (担当住野) 第2回：教育の方法(2) 学習指導要領が求める教育の方法 ※ (担当住野) 第3回：教育の方法(3) 授業づくりの方法(1)教育の目標・内容の設定 ※ (担当住野) 第4回：教育の方法(4) 授業づくりの方法(2)教材開発 ※ (担当住野) 第5回：教育の方法(5) 授業づくりの方法(3)教授行為 ※ (担当住野) 第6回：情報機器及び教材の活用(1) 情報機器を活用した授業づくり ※ (担当住野) 第7回：情報機器及び教材の活用(2) 情報機器を活用した授業の実際 ※ (担当住野) 第8回：教育の方法 (6) すぐれた実践事例の分析 (1) ※ (担当住野) 第9回：教育の方法 (7) すぐれた実践事例の分析 (2) ※ (担当住野) 第10回：教育の技術(1) 模擬授業(1) 教材研究 ※ (担当住野) 第11回：教育の技術(2) 模擬授業(2) 指導案の作成 ※ (担当住野) 第12回：教育の技術(3) 模擬授業(3) 実践検討 (1) ※ (担当住野) 第13回：教育の技術(4) 模擬授業(4) 実践検討 (2) ※ (担当住野) 第14回：教育の技術(5) 模擬授業(5) 改善案の作成 ※ (担当住野) 第15回：まとめ ※ (担当住野)						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	40%	本科目で学習したことを理解し、論理的に叙述すること			
	小テスト	40%	各回の授業の終盤に提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。			
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】						
授業の最後に小テストを行うので、授業内容をしっかりと理解しようとし、不明な点は遠慮なく質問をすること。配付するプリント・資料などはファイルにとじ、整理しておくこと。						
【授業外学修】						
1 予習として、配付している資料をあらかじめ読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週辺り4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	授業の中でプリントを配布する。				
参考書	自由記載	適宜、授業の中で紹介する。				
【担当教員の実務経験の有無】						
無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】						
無						

授業科目名	生徒指導の理論と方法		サブタイトル		授業番号	NV206
担当教員名	保X1					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】 生徒指導の基本的な考え方や進め方、生徒指導に関する法制度、生徒指導上の諸問題への対応について講義する。						
【到達目標】 一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることを目指し、全教育活動を通して組織的・計画的に行われる生徒指導の基本的な考え方や進め方、生徒指導に関する法制度、問題行動等への組織的な対応について理解することができるようになる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：生徒指導の意義と教育課程における位置付け 第2回：集団指導と個別指導の意義と方法 第3回：生徒指導体制と教育相談体制 第4回：生徒指導の進め方(1) -学級担任としての役割- 第5回：生徒指導の進め方(2) -学年団等による組織的対応- 第6回：暴力行為・いじめ・不登校への対応 第7回：生徒指導に関する法制度 第8回：家庭・地域・関係機関等との連携						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	20%	課題についてまとめをするとともに、自分の考えを具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。			
	小テスト					
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。 2 課題についてレポートを書くこと。 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。 4 配付する資料を整理しておくこと。						
【授業外学修】 1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	生徒指導提要		文部科学省	教育図書	276円+税	978-4-87730-274-0
	自由記載					
参考書	自由記載	授業において随時紹介する。				

授業科目名	教育相談		サブタイトル		授業番号	NV207
担当教員名	國田 祥子					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】 この授業では、教育相談についてその理念や基本的な理論を紹介する。						
【到達目標】 教育相談で扱うさまざまな問題に対し、不適応状態にある子どもやその保護者に教師が対応していく際の考え方や方法について解説し、カウンセリング・マインドを身につける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：教育相談とは 第2回：カウンセリングの理論 第3回：カウンセリングの技法 第4回：いじめ・不登校への対応 第5回：学級崩壊・学級経営の問題への対応 第6回：虐待・いのちの教育への対応 第7回：非行・学校不適應への対応 第8回：中間のまとめ 第9回：発達障害への対応 第10回：心の病への対応 第11回：校内・他機関との連携 第12回：アセスメント：観察・面接 第13回：アセスメント：心理検査 第14回：過程の理解と保護者への支援 第15回：期末のまとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	100%	理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 積極的な受講態度を期待します。						
【授業外学修】 毎回の授業の前に、テキストに基づいて4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる！教職エクササイズ3 教育相談		森田健宏・吉田佐治子(編著)	ミネルヴァ書房	2200円	978-4-623-08178-3
	自由記載					
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						

授業科目名	学校栄養教育実習研究		サブタイトル		授業番号	NV410
担当教員名	岡崎 恵子 森寺 勝之					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	4年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】 小学校・中学校で行う学校栄養教育実習を有意義かつ充実した学習とするための演習を中心とした科目である。教育実習の実際について学び栄養教諭としての意識を高めるとともに、教材研究・模擬授業などの授業を通し教育実習に向けて実習課題の検討、準備を行う。						
【到達目標】 ・実際の教育現場に入るにあたって心構えができるようになる。 ・教育実習に向けて指導案・指導媒体の作成、授業の進め方等の技能を身に付け、準備することができるようになる。 ・より良い教育実習になるよう模擬授業を通して検討し考え、相互評価ができるようになる。 ・学校栄養教育実習に向けて、ふさわしい態度を養うことができるようになる。						
なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回 学校栄養教育実習の意義 ○プロとしての栄養教諭について、より理解を深める。						
第2回 学校栄養教育実習の事前指導 ○教育実習の概要・実習課題の検討・実習日誌の書き方・教育実習校との打合せ・連絡 ○教育実習に向けて、前向きに取り組む心構えや具体的な準備をする。						
第3回～4回 個別的な相談指導、クラス経営、学校経営 ○個人差への配慮・食物アレルギー、偏食、肥満・痩身傾向 等・教師の援助の仕方・考え方・小中学校教育・指導の特徴 ○栄養教諭として、子ども理解をするための基本的なことを再確認する。						
第5～9回 学校栄養教育実習の実際 ○教育実習校での食に関する指導の準備(教材研究、学習指導案の作成)、検討、ディスカッション						
第10～15回 実習校との打合せ、模擬授業、相互評価、媒体作り ○栄養教諭一種 教育実習に向けて、大学で学んできた知識・技能や心構えを再確認する。						
【授業計画 備考2】 授業形態は演習がメインになるが、教育実習に向けて講義もある。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加の状況によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	10%	栄養教諭の職務についての理解度を評価する。			
	定期試験					
	その他	70%	指導案、課題等の提出物の内容を評価する。			
	自由記載					
【受講の心得】 ・栄養教諭を目指す者としての目線に立ち、それぞれの状況を想定しながら積極的に授業に臨むこと。 ・学校栄養教育実習および学校栄養教育指導法IIと深く関連する科目であることを意識して授業に臨むこと。 ・教材研究においては、専門的な様々な知識を活かして臨むこと。 ・学校教育の様々な課題に関心をもち、栄養教諭の社会的使命について考えること。						
【授業外学修】 ・教育に関する時事問題に関心をもち、新聞やニュース等を把握しておくこと。 ・小中学校の教育現場を想定して、授業を進めるので課題やテキスト等の予習・復習を必ずしておくこと。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	「学校栄養教育実習書」、学校栄養教育指導法I, IIで使用したテキスト				
参考書	自由記載	担当教員が提示する。				
【備考】 令和5年度改訂						
【担当教員の実務経験の有無】 有						
【担当教員の实務経験】 ○管理栄養士：公立小学校・中学校、学校給食センター、教育行政、福祉 ○小中高教員、岡山県教育委員会専門的教育職員、小学校教頭・校長						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 有						
【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】 教育実習指導者（小学校・中学校・給食センター等 教職員）						
【実務経験をいかした教育内容】 ○食に関する指導について、現代的な諸課題・児童生徒の発達段階に合わせた内容・対応を指導する。（担当教員）						

授業科目名	学校栄養教育実習		サブタイトル		授業番号	NV411
担当教員名	岡崎 恵子					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	4年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	実習	
【授業の概要】						
<p>学校栄養教育実習は、大学等で学んだ理論を実践的な検証を通して、栄養教諭の職務の実際を知り理解を深める。教育実習校の現場で生徒指導、教育内容、指導方法を体験・研究する。教育実習中は、実習校の指導のもと食に関する指導について、特別活動や他教科との関連の実際を深く理解すると共に、実際に授業を展開し実践的指導力を身に付ける。大学は実習校と連携して学生の指導にあたる。原則、実習校は出身校とし、1週間（5授業日）以上の教育実習に取り組む。学校栄養教育実習後は、報告会を行う。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・教育現場の実際を知り、教育活動全般について理解を深めることができるようになる。 ・栄養教諭としてふさわしい態度を身に付けることができるようになる。 ・子ども理解を深めることができるようになる。 ・学習の基盤となる学習規律を踏まえ授業を進めることができるようになる。 ・自他の授業を検討し、食に関する指導に生かすことができるようになる。 <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<ol style="list-style-type: none"> 1 校長、教頭、教務主任による実習受入校での指導(学校経営、校務分掌の理解、服務) 2 給食主任、学級担任、栄養教諭(学校栄養職員)による実習受入校での指導 3 養護教諭による実習受け入れ校での指導 4 校内における連携、調整(校内研修会、職員会議等)の参観、補助 5 配属学級での授業観察を通して、(1)子どもの実態把握・子ども理解を深める、(2)指導案・授業での実際、(3)教師と子どもの関わりの実際を観察する。 6 児童生徒への教科・特別活動等における教育指導の実習 <ul style="list-style-type: none"> (1)学級活動及び給食時間における指導の参観、補助 (2)食に関する指導の実践(学級活動・給食時間など) (3)児童生徒集会、委員会活動等における指導の参観、補助 7 家庭・地域社会との連携・調整の実際 8 学校栄養教育実習後に報告会、ディスカッション 						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	学校栄養教育実習書 他			
	レポート	70%	教育実習校での評価			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】						
<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習生は、教育者としての責任の重大さを自覚し、使命感・責任感と情熱をもって実習に臨むこと。 2 意欲的、積極的な実習に取り組む。 教育実習は、いわば教育上のインターンシップともいべき色彩をもっている。様々なことに意欲と積極的な姿勢をもって取り組むこと。 3 研究的な実習に徹し、事前・事後学習に励む。 4 健康と安全に留意し、実りの多い実習となるように努力する。 5 本実習を受ける前には、必ず事前に実習受入校を訪問し、指導教諭等と打ち合わせをしておくこと。 6 教育実習生としての当然のエチケットとして、実習期間中お世話になった指導教諭や校長宛に礼状を出すことを忘れないようにすること。 						
【授業外学修】						
<ul style="list-style-type: none"> ・事前に実習受入校を訪問し学校長・指導担当者等との打ち合わせができるように準備すること。 ・実習校の指導に従って、教材研究等を行うこと。 ・指導案の作成や教材研究にあたっては、年間の授業計画も視野に入れ、他教科との関連についても考慮し準備を入念にしておく。 ・実習校がある区市町村教育振興基本計画等を調べておくこと。 <p>以上の内容を、週当たり5時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	自由記載	学校栄養教育実習書、学校栄養教育指導法Iで使用したテキスト、必要に応じて資料等を用意する				
参考書	自由記載					
【その他】						
特になし						
【備考】						
令和5年度改訂						
【担当教員の実務経験の有無】						
有						
【担当教員の実務経験】						
管理栄養士：公立小学校・中学校、給食センター、教育行政、						

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

○食に関する指導について、現代的な諸課題・児童生徒の発達段階に合わせた内容・対応を指導する。（担当教員）

○栄養教諭に必要な能力を身に付けるため、教育実習指導者の指導の下、学校教育や児童生徒への理解を深め食に関する指導ができる技能を修得させる。（教育実習指導者）

授業科目名	教職実践演習(栄養教諭)		サブタイトル	(栄養教諭)	授業番号	NV412
担当教員名	岡崎 恵子					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科		単位数	2単位		
開講年次	4年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】 栄養教諭として求められる資質・能力（使命感や責任感・教育的愛情，社会性や対人関係能力，児童生徒理解，食に関する指導力）が形成されたかを確認する教職課程最終科目である。主として教育実習のまとめを中心に相互検討及び評価し，課題解決のための演習・ディスカッション等を行い深めていく。また，栄養教諭の専門性に関することを再確認する。						
【到達目標】 ・大学の講義で知り得た教養的および専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を融合し，教員免許保有者としての望ましい資質をより一層高めることができるようになる。 ・教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ，社会人としての優れた識見や対人能力が培われ，豊かな人間性と思いやりを身に付けようとするができるようになる。 ・栄養教諭の専門性に関すること（給食管理・食に関する指導等）について考え，理解を深めることができるようになる。 ・学習指導の基本的事項(知識・技能など)，板書，話し方，表情など授業を行う上で基本的な表現力を身に付けていることができるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 演習を中心とするが，講義もある。						
第1回：教職実践演習の目的 「教職実践演習」の目的を知り，栄養教諭に求められる資質・能力について履修カルテを使用し自己評価を行う。 第2回：学校栄養教育実習での研究報告 ディスカッション 学校栄養教諭実習の振り返りを一人ひとり報告し，ディスカッションする。 第3回：学校栄養教育実習での研究報告 ディスカッション ※ (担当) 学校栄養教諭実習の振り返りを一人ひとり報告し，ディスカッションする。 第4回：栄養教諭に求められる資質能力 ディスカッション グループ討論等で栄養教諭に必要な必要最小限の資質・能力に関する課題について話し合うこと ※ (担当) で，自己の課題の解決方法等を明らかにする。 第5回：学校における食育の推進について ※ (担当) 学校における食育の推進のためには，具体的に何を必要なのか考える。 第6回：「学校栄養教育の現状とこれから」（特別講師） ※ (担当) 外部講師の講話「栄養教諭の現状とこれから」から，より具体的に自己の課題を考える。 第7回：指導案・ワークシート・細案の作成 栄養教育実習の経験をもとに，児童生徒の実態や発達段階に応じた「食に関する指導」の指導 ※ (担当) 案，ワークシート，板書計画，細案を作成する。 第8回：指導案・ワークシート・細案の作成 ※ (担当) 栄養教育実習の経験をもとに，児童生徒の実態や発達段階に応じた「食に関する指導」の指導 ※ (担当) 案，ワークシート，板書計画，細案を作成する。 第9回：模擬授業 ディスカッション ※ (担当) 作成した指導案等を用いて模擬授業，ディスカッションをすることで，教員としての表現力や授業力，児童生徒の反応を活かした食に関する授業づくり，効果的な指導法を確認する。 第10回：模擬授業 ディスカッション ※ (担当) 作成した指導案等を用いて模擬授業，ディスカッションをすることで，教員としての表現力や授業力，児童生徒の反応を活かした食に関する授業づくり，効果的な指導法を確認する。 第11回：指導料等の作成（授業，掲示物，家庭や地域への配布 など） ※ (担当) 家庭や地域への配付物（給食だより）・掲示物等を作成することで，具体的に連携の意義を再確認する。 第12回：学校現場で求められる家庭・地域との連携のあり方 ディスカッション ※ (担当) 栄養教諭は，専門性を活かして学校内外を通じ，食に関する教育のコーディネータとしての役割があることを再確認する。 第13回：社会性や対人関係能力について ディスカッション ※ (担当) 食に関する指導の全体計画，食物アレルギーを有する児童生徒が安全に楽しく学校生活を送るために必要なことについて討論する。 第14回：栄養教諭の専門性，学校給食における危機管理 ※ (担当) 学校給食実施基準を理解し，児童生徒の成長及び実態を把握した栄養管理ができることを再確認する。 学校給食衛生管理基準の内容を理解し，衛生管理の基本を身に付けていることを再確認する。 第15回：総合的まとめ ※ (担当) 大学で学んだこと・教育実習で学んだことを活かして栄養教諭の職務，資質・能力について再確認する。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度，討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。			
	レポート	40%	教育実習から見てきた課題と解決策について，自分の考えを具体的に述べていること。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他 自由記載	40%	学習指導案，模擬授業，提出物 他			
【受講の心得】 実習校で学んだ学校・学級経営の中での児童生徒に対する深い理解などを包含した報告や相互検討を行い，各自が将来に栄養教諭となるべく，お互いに高め合うような姿勢で事前・事後学習を十分に行い取り組むこと。						
【授業外学修】 大学で修得した知識技能と教育実習での学びを関連づけて，実践的な演習に臨めるように予習・復習をすること。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	学校栄養教育指導法Iで使用したテキスト，必要に応じて資料を用意する。				

参考書	自由記載	
【備考】 令和5年度改訂		
【担当教員の実務経験の有無】 有		
【担当教員の実務経験】 管理栄養士：公立小学校・中学校，学校給食センター，教育行政，福祉		
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無		
【実務経験をいかした教育内容】 学校栄養教育の現状と栄養教諭として果たすべき職務について理解を深め，栄養教諭としての資質能力を一層高めさせる。		

授業科目名	日本国憲法	サブタイトル	(身近な問題から憲法の役割を考える)	授業番号	NA206
担当教員名	俣野 英二				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】					
<p>本科目では、日本国憲法及び他国の憲法の沿革、様々な人々の人権について講義する。また、憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し、それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。</p> <p>具体的にはまず、学生に身近な憲法問題を取り上げ、それに関係する憲法の基本原理及び基礎知識について概説する。次に、各回における講義の学修目的に関する課題をグループで調査・考察する。次に、次回の講義で、各グループのグループワークの結果を紹介し、全体討議の後講評を行う。</p> <p>なお、新型コロナのまん延防止対策に伴ってオンライン授業となった場合には、MoodleあるいはGoogle Classroomを活用してグループワーク、講義における質疑を行う。</p>					
【到達目標】					
<p>憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し、それらを活用して身近な憲法問題を主体的に考えることができるようになることを目標とする。</p> <p>なお、本科目は、到達目標達成の前提として異なる価値観、文化、背景および相互関係を知り、深い認識と理解の修得を伴うことから、職業人としての高い倫理観と豊かな人間性と社会性の修得を必要とするので、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち<態度>の修得に貢献する。また、体系的な思考方法を学び、多面的に分析し、自らの見解を形成する能力の修得を目的とするので、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					
<p>第1回：ガイダンス、憲法とは何か</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学修の目標、評価方法などを説明する。 2 法律家の思考の特徴や憲法とは何かについて学修する。 <p>第2回：グループワーク1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 グループワークの仕方を説明する。 2 各グループに分かれて、課題選択、課題分析、リサーチを行う。 <p>第3回：グループワーク2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 グループワークのまとめ方を説明する。 2 各グループに分かれて、情報整理、報告書の作成を行う。 <p>第4回：国家機関としての天皇制</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 徳川時代、大日本帝国憲法下、日本国憲法下の天皇の地位について考える。 2 国民主権主義下における国家機関としての象徴天皇制について考える。 <p>第5回：憲法が目指す平和を守る仕組み——平和主義 1 ——</p> <p>非武装平和主義の採用の背景とその後について学修する。</p> <p>第6回：憲法が目指す平和を守る仕組み——平和主義 2 ——、人権を守るための組織——統治機構 1 ——</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 近年の安全保障をめぐる状況について学修する。 2 政治と国民、国会議員について学修する。 <p>第7回：人権を守るための組織——統治機構 2 ——</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 選挙、選挙制度、政党、国会について学修する。 2 内閣について学修する。 <p>第8回：人権を守るための組織——統治機構 3 ——</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地方自治について学修する。 2 裁判所について学修する。 <p>第9回：良心をもつ自由、貫く権利</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 良心の意義について学修する。 2 教師の良心を貫く権利について考える。 <p>第10回：表現の自由</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 表現の自由と名誉毀損・プライバシーの権利について考える。 2 マスメディアの自由と国民の知る権利やアクセス権について考える。 <p>第11回：営業の自由と消費者の権利</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 職業選択の自由、営業の自由と消費者の権利について学修する。 2 職業を規制することの合憲性の判断の仕方について考える。 <p>第12回：働く人の権利</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 勤労の権利や労働基本権について学修する。 2 女性や非正規労働者の問題について考える。 <p>第13回：困った時の権利、差別されている人たちへの配慮</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 憲法25条の歴史的社会的意味及び社会保障制度について学修する。 2 積極的な格差解消の取組みの合憲性の判断の仕方について考える。 <p>第14回：家庭と女性の権利</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 憲法における家庭と女性の権利について学修する。 2 同性愛者のカップルに婚姻と同じ保護を与える制度について考える。 <p>第15回：子どもの権利と学校における生徒の人権</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の教育を受ける権利、学校内外での権利について学修する。 2 いじめ問題を憲法から考える。 					

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	各講義における学修目的に関する基礎知識及び基本原理の理解、及び、意欲・関心を持ち、講義に積極的に参加する態度を評価する。
	レポート	30%	1回実施。基本原理、基礎知識の理解及び異なる意見の存在に配慮しつつ法律を使った問題解決の考え方ができているかを評価する。レポートにはコメント付して返却する。
	小テスト		
	定期試験	40%	記述式試験を実施。基本原理及び基礎知識の理解及びこれらを活用して身近な憲法問題に対して主体的かつ論理的に結論を導くことができているかを評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

- 1 講義は各章（ほぼ毎回）のグループワークを行いながら進めていくので、各自はテキスト・講義資料を予習しておくこと。
- 2 全体を通じて1回、任意に選択した発展学習をグループで調査・報告する。各自積極的に取り組むこと。
- 3 中間に1回中間レポートの課題（第7回頃レポート作成要項発表）がある。

【授業外学修】

- 1 事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み、意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。
- 2 事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め、ノートに整理して、期末テストに備える。また、発展的学習として選択した課題について、インターネット等で調査し、調査した情報や講義により修得した基本原理や情報を踏まえて、各自の情報や意見を整理する。さらに、グループワークに参加し、協力して必要事項を調査するとともに、課題に関してそれぞれの意見を交換し、グループ報告書にまとめる共同作業を行う。
- 3 中間レポート：自身の属するグループや他のグループのグループワーク報告書や質疑を整理し、疑問点を調査する。これまでの学修の結果を踏まえて課題を選択し、自分の意見を練り、レポートにまとめる。
事前学習及び事後学習を合わせて、1週間に4時間程度必要である。

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	憲法のちから—身近な問題から憲法の役割を考える—	中富公一編著	法律文化社	2400+税	978-4-589-04140-1
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	自信をもっていじめにNOと言うための本	中富公一	日本評論社	2300+税	978-4-535-52038-7
	自由記載	右崎正博・浦田一郎編『基本判例1 憲法 [第4版]』（法学書院，2014年）			

【備考】

令和5年度改訂

【担当教員の実務経験の有無】

有

【担当教員の実務経験】

県教育委員会，県（人権・同和政策課）

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。

授業科目名	体育講義		サブタイトル	(日常生活と健康)	授業番号	NE101
担当教員名	溝田 知茂					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】 現代社会においては、技術革新に伴う機械化・情報化が進み、日常生活における身体活動が減少するとともに、食生活のバランスの崩れも伴って、運動不足と生活習慣の乱れが深刻な問題となっている。こうした状況によって、我々の身体は危機的な状況にさえ陥っている場合もある。本講義では、からだと心の仕組みについて、身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身に付ける。						
【到達目標】 人間のからだと心の仕組みについて、日常生活で何気なく実践している事柄の意味について知ることを目的とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：「体力」について考える 第2回：「ホルモン」のはたらきについて考える 第3回：「自律神経」のはたらきについて考える 第4回：「背筋力」のはたらきについて考える 第5回：「免疫力」のはたらきについて考える 第6回：「睡眠」とスポーツ 第7回：身体形成と機能の発達 第8回：身体づくりとしての栄養・運動・スポーツ 第9回： 第10回： 第11回： 第12回： 第13回： 第14回： 第15回：						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	60%	理解度を評価する			
	その他 自由記載					
【受講の心得】 ・スポーツに関わる知識と理解を深め、スポーツ・運動への志向性を高めることを目指しているため、自らの生活と関連付けながら受講すること。						
【授業外学修】 ・「スポーツ」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し、興味関心を高める。 ・各回の授業内容に合わせた情報を収集したり、書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に使用しない。(作成資料を活用)				
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						

授業科目名	体育実技		サブタイトル	(スポーツに親しもう)	授業番号	NE102
担当教員名	溝田 知茂					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	実技	
【授業の概要】						
各チームの課題を基にメンバーで協力しながら、各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。						
【到達目標】						
健康的な生活を送るために、運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに、集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：バスケットボールI（ルールと基本技術の理解） 第2回：バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 第3回：バスケットボールIII（ゲームの展開） 第4回：バレーボールI（ルールと基本技術の理解） 第5回：バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 第6回：バレーボールIII（ゲームの展開） 第7回：バドミントンI（ルールと基本技術の理解） 第8回：バドミントンII（基本技術の習得とゲームの導入） 第9回：バドミントンIII（ゲームの展開） 第10回：ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解） 第11回：ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 第12回：ソフトバレーボールIII（ゲームの展開） 第13回：卓球I（ルールと基本技術の理解） 第14回：卓球II（基本技術の習得とゲームの導入） 第15回：卓球III（ゲームの展開）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり、自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している			
	レポート					
	小テスト	40%	各競技ごとに試合を実施する			
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】						
運動着を着用し、体育館シューズを使用する。 全員協力の上、準備・片付けをする。						
【授業外学修】						
・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め、日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。 ・各種目のルールやスキルアップを図るため、書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）				
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】						
無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】						
無						

授業科目名	英語I		サブタイトル	(栄養英語)		授業番号	ND101
担当教員名	松浦 加寿子						
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位		
開講年次	1年			開講期	前期		
必修・選択	必修			授業形態	演習		
【授業の概要】 本演習では、英語を通して食に関する知識を深めるとともに、既習の語彙や文法事項を再確認しながら食生活や栄養をテーマにした英文を読む。							
【到達目標】 読解を通して、食に関する語彙や英語表現について学び、基礎的な英語力の向上を目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。							
【授業計画】							
第1回：Unit 1 The ABCMVs of Eating 第2回：Unit 2 Determining Whether Your Diet is Adequate 第3回：Unit 3 Keeping Caloric Intake in Check 第4回：Unit 4 Spicing up Your Life with Variety 第5回：Unit 5 What's a Body Made of? 第6回：Unit 6 Knowing Your Nutrients 第7回：Unit 7 Energizing Nutrients: Proteins, Carbs, and Fats 第8回：Unit 8 Aiding in Body Function: Vitamins and Minerals 第9回：Unit 9 Water: The Most Important Nutrient 第10回：Unit 10 Binge Drinking: A Behavioral No-No 第11回：Unit 11 Digestion: One Step at a Time 第12回：Unit 12 Eating Disorders 第13回：Unit 13 Food Allergies 第14回：Unit 14 Controlling Food Contamination 第15回：Unit 15 The Father of All Vitamins: Casimir Funk / 科目授業全体のまとめ							
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。				
	レポート	20%	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。				
	小テスト	50%	各回の内容において英文の理解度を評価する。				
	定期試験						
	その他	10%	ノートの提出により、課題を評価する。				
自由記載							
【受講の心得】 ・予習を前提として進めていくので、テキストの本文を全訳し、練習問題を解いたうえで授業に臨むこと。 ・英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。ただし、授業中の携帯電話の辞書機能は使用不可。							
【授業外学修】 1. 予習として、テキストの本文を読み、未知の語句があれば辞書で調べて全訳をしておくこと。また、練習問題も解いておくこと。 2. 復習として、授業で学んだ文法事項と食に関する英語表現を理解し、知識として定着させること。以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。							
使用テキスト	書名		著者・編集者		出版社	定価	ISBN
	やさしい栄養英語		田中芳文・中里菜穂子・松浦加寿子		講談社	1,800円+税	978-4-06-513414-6
	自由記載						
参考書	自由記載	英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。ただし、授業中の携帯電話の辞書機能は使用不可。					
【担当教員の実務経験の有無】 無							
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無							

授業科目名	生活と情報処理		サブタイトル		授業番号	NC101
担当教員名	岸 誠一					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
【授業の概要】 現代の情報社会においては、パソコンは最も基礎的なツールの一つである。この情報の持つ様々な側面のうち情報と人間社会のかかわりを明らかにする。そのため、パソコンの基本的な使い方や仕組み、さらにはネットワークの基礎的な使用方法を学ぶ。						
【到達目標】 本授業も具体的な目標は、次の3点である。 (1) パソコンに関する基礎的知識を学ぶ。 (2) ネットを利用した情報収集、加工、発信の仕方を学ぶ。 (3) 情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて学ぶ。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：ガイダンス・パソコン操作についての基礎知識I 第2回：パソコン操作についての基礎知識II 第3回：ネット利用についての基礎知識I 第4回：ネット利用についての基礎知識II 第5回：ワードの基礎知識I 第6回：ワードの基礎知識II 第7回：ワードの基礎知識III 第8回：パワーポイントの基礎知識I 第9回：パワーポイントの基礎知識II 第10回：パワーポイントの基礎知識III 第11回：デジタルコンテンツの作成の仕方I 第12回：デジタルコンテンツの作成の仕方II 第13回：デジタルコンテンツの作成の仕方III 第14回：情報の倫理とセキュリティI 第15回：情報の倫理とセキュリティII						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%				
	レポート	80%				
	小テスト		各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験		最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 新聞やTV等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。 わからないことは質問すること。						
【授業外学修】 1. 予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い、考えてくること。 2. 復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり、適宜調べ学修や実践等を行い、学びを深めていく(探究する)こと。 以上の学修を、授業1回あたり4時間以上行うこと。 3.classroomを立ち上げ次回の授業の準備物等の連絡や授業の復習用動画を情報提供するので必ず視聴すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						

子ども学部 子ども学科

幼稚園教諭一種免許状

小学校教諭一種免許状

共通科目

授業科目名	教育原理		サブタイトル		授業番号	CP201
担当教員名	中田 周作					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 講義形式で、教育の基本的な事項について学習していく。 特に、教育とは何かという根源的な問いと、教育行政や学校教育制度といった、児童・生徒の立場からは察し得ない事象に重点を置いて講義する。						
【到達目標】 現代社会における教育問題は、極めて複雑な様相を呈している。歴史的に蓄積された社会構造的な問題もあるだろうし、教育の目指すべき方向を再構築しなければならない問題もあるだろう。 本講義では、こうした社会状況を踏まえつつ、これらの問題解決の一助となるよう、今一度、教育という営みの根源に立ち返ることを目的とする。 そのため、将来、教育に携わる者が、最低限、知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について学習する。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：現代の教育をめぐる諸問題 第2回：教育とは何か 第3回：教育の思想：西洋にみる教育の思想と実践 第4回：教育の思想：幼児教育の思想と実践 第5回：学校教育と学力、家庭 第6回：教員の養成、採用、研修 第7回：学校、放課後、家庭における子どもの日常生活 第8回：江戸期以前の家族と社会による教育 第9回：公教育制度の成立とその思想 第10回：学制と明治期の学校教育制度の成立と展開 第11回：大正期の学校教育制度の成立と展開 第12回：昭和期から現在にいたるの学校教育制度の成立と展開 第13回：教育に関係する主な法律 第14回：教育に関係する法令 第15回：現代社会における教育課題						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	授業への取り組み姿勢を考慮する。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	70%	基礎的事項の修得状況を確認する。			
	その他	20%	講義のとき、毎回、コメントペーパーを提出する。			
自由記載						
【受講の心得】 テキストを事前に読んでくること。最終レポートの課題を探しながら受講すること。						
【授業外学修】 週当たり4時間以上、テキストを読むこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	コンパス 教育原理		古賀一博ほか編著	建帛社	2090	978-4-7679-5130-0
	自由記載					
参考書	自由記載	『教育六法』（どの出版社のものでも良い）				
【担当教員の実務経験の有無】 無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						

授業科目名	教育史	サブタイトル		授業番号	CP202
担当教員名	梶井 一暁				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	4年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

本科目は、教職に関する科目のうちの「教育の基礎理論に関する科目」の「教育に関する歴史及び思想」に関する事項を含むものである。現代の教育（目的、制度、内容および方法）へと続く歴史の過程と変化について、主に講義形式により教授する。基本的に前半は西洋の教育史、後半は日本の教育史とその西洋との影響関係について考察する。

【到達目標】

以下の3つを到達目標とする。1.教育の歴史についての基本的な事項に関する知識を獲得する、2.獲得した知識にもとづいて教育の歴史に関する事象を説明する、3.獲得した知識にもとづいて現代の教育の課題について考察する。

なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：教育への歴史的視点[授業の目的、概要、計画など]
- 第2回：歴史のなかの教育[人間形成としての教育]
- 第3回：歴史のなかの学校[コメニウスと教科書]
- 第4回：歴史のなかの子ども[ルソーと「子ども」の発見]
- 第5回：教育対象としての子ども[ヘルバルトと教授学]
- 第6回：子どもを理解し、教育する[ペスタロッチーとフレーベル]
- 第7回：社会・経験・子ども[デューイの教育理論の示唆]
- 第8回：教育の発達の動向と回顧[課題の探求と発表]
- 第9回：教育の方法の変化（1）[個別と一斉]
- 第10回：教育の方法の変化（2）[教師中心と子ども中心]
- 第11回：教育の内容の変化[全般主義と実用主義]
- 第12回：教育改革の歴史と課題（1）[教育における権利と義務]
- 第13回：教育改革の歴史と課題（2）[教育における平等と自由]
- 第14回：教員養成の歴史と課題[専門職としての教員]
- 第15回：まとめ[教育の過去と現在]

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な授業態度、発表・討議への参加、コメント・シートにより評価する。
	レポート	40%	主要点の理解度を評価する。
	小テスト		
	定期試験	40%	最終的な理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

適宜、コメント・シート（感想、意見、関心など）を使い、授業を進める。自ら学ぶ姿勢を保持し、授業に臨んでほしい。

【授業外学修】

予習として、授業内容にかかわる人物や事項を調べる。

復習として、授業で配布したプリントを読み直す。

発展学修として、授業で紹介される参考文献を読む。

以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	西洋教育史	尾上 雅信	ミネルヴァ 書房	2200円	978-4623- 084166
	自由記載	必要に応じ、授業でプリント資料を配布する。なお、参考書を下記に示すので、読んで関心を広げることを推奨する。			
参考書	自由記載	1.尾上雅信他編『新・教職課程演習』教育史（第2巻）、協同出版、2022年。2.田中卓也他編『資料とアクティブラーニングで学ぶ初等・幼児教育』萌文書林、2022年。3.梶井一暁『映画のなかの学びのヒント』岐阜新聞社、2014年。			
【担当教員の実務経験の有無】					
無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					

授業科目名	教育社会学	サブタイトル		授業番号	CN213
担当教員名	中田 周作				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

子どもの発達には、これまで主として、心理学的アプローチにより解明が進められてきたといっても過言ではないだろう。しかし、大きな社会変動と多面的価値観が錯綜する現代社会において、子どもの発達を解明するためには、子どもを取り巻く社会的環境を注視する必要がある。そのため、特に社会化工ーエージェントに焦点をあてて講義する。

【到達目標】

子どもの発達を社会学的アプローチにより理解できる基礎的素養を習得する。特に、学校教育に関する社会的事項、学校と地域との連携、学校安全への対応に関する基礎的知識を修得し、子どもに関する問題を自ら分析し、解決に寄与できる能力を身につけることを目標とする。

なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：子どもの発達に対する社会学的アプローチとは
- 第2回：教育社会学の研究対象と研究方法
- 第3回：教育社会学の研究対象としての教育政策
- 第4回：教育社会学の研究対象としての諸国の教育事情
- 第5回：家族集団と子どもの社会化
- 第6回：仲間集団と子どもの社会化
- 第7回：地域社会と学校教育
- 第8回：地域社会と子どもの教育
- 第9回：学校集団の構造と組織
- 第10回：学校集団の社会化機能
- 第11回：学校安全の現状と課題
- 第12回：学校の安全と危機管理
- 第13回：子どもの社会化と逸脱行動
- 第14回：子どもの逸脱行動の現実
- 第15回：少年非行

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	授業への取り組み姿勢を考慮する。
レポート	70%	講義終了後に最終レポートを提出する。	
小テスト			
定期試験			
その他	20%	講義のとき、毎回、コメントペーパーを提出する。	
自由記載			

【受講の心得】

- 1) テキスト及び配付資料を事前に読んでくること。
- 2) 最終レポートの課題を探しながら受講すること。

【授業外学修】

事前にテキスト及び配付資料を読んでくることを、週当たり4時間以上行うこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	変動社会と子どもの発達	住田正樹・高島秀樹	北樹出版	2100	978-4-7793-0469-9
	自由記載				
参考書	自由記載	酒井朗・多賀太・中村高康編著『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房			
【担当教員の実務経験の有無】					
無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					

授業科目名	教育心理学		サブタイトル		授業番号	CP205
担当教員名	國田 祥子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】 教育心理学とは、学び手としての子どもを心理学の視点から理解し、支援するための科学である。 この授業では、子どもの学びと適応の支援という視点から、教育に関する心理学的知見を広く扱う。						
【到達目標】 実際に教育現場に立つ際、児童・生徒の理解を助けるために必要となる、心理学的な視点の基礎を、講義を通じて身につけることを目指す。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：教育心理学とは 第2回：乳幼児期の発達 第3回：児童期・青年期の発達 第4回：学習と知識獲得 第5回：認知情報処理と記憶 第6回：動機づけと学習 第7回：認知発達と学習支援 第8回：中間のまとめ 第9回：学級集団と学習支援 第10回：個性や個人差と学習支援 第11回：教育評価 第12回：障害の基本的理解 第13回：障害児への教育的支援 第14回：学校教育を取り巻く諸問題 第15回：期末のまとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	100%	理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 積極的な受講態度を期待します。						
【授業外学修】 毎回の授業の前にテキストを読み、4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる！教職エクササイズ2 教育心理学		田爪宏二（編著）	ミネルヴァ書房	2200円	978-4-623-08177-6
	自由記載					
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						

授業科目名	発達心理学		サブタイトル		授業番号	CN207
担当教員名	國田 祥子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	4年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】 この授業では、生涯発達の視点から人の一生を捉え、特に誕生から乳幼児期にかけての生理的・心理的発達について解説する。						
【到達目標】 子どもと接する上で必要な行動理解の基礎を身につける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：発達心理学とは 第2回：赤ちゃんはいかに有能か 第3回：人間発達の可塑性 第4回：母子相互作用の不思議 第5回：世界認識の始まりと個性の育ち 第6回：象徴機能の成立と言語発達 第7回：言語の機能と会話の発達 第8回：中間のまとめ 第9回：記憶し想像する心の発達 第10回：心の理論の成立 第11回：遊びの発達と遊びからの学び 第12回：思考と語りの成立過程 第13回：科学する心の芽生え 第14回：生活世界から学びの世界へ 第15回：期末のまとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	100%	理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 積極的な受講態度を期待します。						
【授業外学修】 毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ よくわかる乳幼児心理学	内田伸子（編）	ミネルヴァ書房	2400円	978-4-623-05000-0	
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						

授業科目名	特別支援教育		サブタイトル		授業番号	CP208
担当教員名	中 典子 西 千秋					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】 講義形式で、特別支援教育の基本的なことについて学習していく。 特に、特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の理解、教育課程、支援の方法を学ぶ中で、学校と関係機関との連携のあり方について講義する。						
【到達目標】 保育者・教育者は通常学級において特別な配慮をする必要のある幼児や児童生徒が学習に参加する中で将来の自立に向けて支援していく必要がある。本講義では、幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な知識や支援の方法を理解することを目的とする。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
<p>第1回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性について理解する。 ※（担当西千秋）</p> <p>第2回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の心身の発達 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒一人一人の心身の発達に関するアセスメントの方法を理解する。 ※（担当西千秋）</p> <p>第3回：特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 障害者総合支援法、発達障害者総合支援法の内容を理解する。 ※（担当西千秋）</p> <p>第4回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ 授業をするうえで必要とされる配慮を理解する。 ※（担当西千秋）</p> <p>第5回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の教育課程 特別支援教育における教育課程について理解する。 ※（担当西千秋）</p> <p>第6回：発達障害をはじめとする障害のある子どもへの合理的配慮 合理的配慮について理解する。 ※（担当中 典子）</p> <p>第7回：「通級指導」と「自立活動」の教育課程上の位置づけ 特別支援教育における指導技術について理解する。 ※（担当西千秋）</p> <p>第8回：「個別指導計画」と「個別教育支援計画」の意義と方法 「個別指導計画」と「個別教育支援計画」を実際に記載し、その意義と方法を理解する。 ※（担当西千秋）</p> <p>第9回：学校と家庭との連携のあり方 個別の教育支援計画を作り、暮らしにおいて必要な社会資源を理解する。 ※（担当中 典子）</p> <p>第10回：学校と地域の関係機関との連携のあり方 学校をとりまく社会資源についての情報を収集し、連携の方法を理解する。 ※（担当中 典子）</p> <p>第11回：多文化の幼児や児童生徒に対する学習や生活のしづらさ 多文化の幼児や児童生徒が置かれている状況を理解する。 ※（担当中 典子）</p> <p>第12回：多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方 多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方を理解する。 ※（担当中 典子）</p> <p>第13回：貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ 子どもの貧困について理解する。 ※（担当中 典子）</p> <p>第14回：貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒への教育保障 学習環境を整えるための支援について理解する。 ※（担当中 典子）</p> <p>第15回：多文化や貧困問題により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習支援 幼児や児童生徒に対して学習保障をするためにどのような対応が必要が理解する。 ※（担当中 典子）</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート	50%	課題に対して具体的に述べていること。課題についてはコメントを記入して返却する。			
	小テスト					
	定期試験		最終的な理解度を評価する。			
	その他	50%	毎回提示する課題に対し具体的に述べていること。課題に対してはコメントを記入して返却する。			
	自由記載					
【受講の心得】 授業内容の理解を深めるため、授業開始前までに配付する資料を読んでおくこと。						

【授業外学修】

授業開始前までに、配付資料の内容を読んでおくこと。(1時間)

授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。(2時間)

授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。(1時間)

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	
【備考】 令和5年度改訂		
【担当教員の実務経験の有無】 有		
【担当教員の実務経験】 小学校教諭，特別支援学校教諭(西千秋)		
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無		
【実務経験をいかした教育内容】 小学校教諭及び特別支援学校教諭の経験をいかし，様々な障がい有する児童・生徒への対応について指導する。(西千秋)		

授業科目名	教育・保育課程総論	サブタイトル		授業番号	CP206
担当教員名	佐々木 弘記 子X3				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】					
第1～7回においては、幼児期の子どもの発達段階に沿った保育・教育課程の在り方について、基本的理念や具体的展開にふれながら講義する。					
第8～15回においては、小学校期における学習指導とカリキュラムについて、歴史的展開をたどりながら教育的意義について講義する。					
【到達目標】					
・幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して理解している。〈知識・理解〉					
・児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特質を説明することができる。〈知識・理解〉					
なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：教育・保育について ※（担当（ ））					
第2回：教育課程とは ※（担当（ ））					
第3回：保育におけるカリキュラム ※（担当（ ））					
第4回：保育における記録 ※（担当（ ））					
第5回：保育における省察 ※（担当（ ））					
第6回：保育カンファレンス ※（担当（ ））					
第7回：保育におけるカリキュラム・マネジメント ※（担当（ ））					
第8回：学習指導とカリキュラム(1) 伝達観と助成観 ※（担当（佐々木））					
第9回：学習指導とカリキュラム(2) 形式陶冶と実質陶冶 ※（担当（佐々木））					
第10回：学習指導とカリキュラム(3) 経験主義と系統主義 ※（担当（佐々木））					
第11回：教育課程の変遷 ※（担当（佐々木））					
第12回：カリキュラムを支える学習指導法 ※（担当（佐々木））					
第13回：特色あるカリキュラム事例 ※（担当（佐々木））					
第14回：学習評価からカリキュラム評価へ ※（担当（佐々木））					
第15回：小学校におけるカリキュラム・マネジメント ※（担当（佐々木））					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。		
	レポート	10%	各回の終盤で提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。		
	小テスト	20%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。		
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載				
【受講の心得】					
第8～15回においては、授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。また、返却された小テストは、ノートに貼付し、復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。					

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。
- 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校学習指導要領解説 総則編	文部科学省			
	幼稚園教育要領解説	文部科学省			
	保育所保育指針	厚生労働省			
	自由記載	「小学校学習指導要領解説 総則編」文部科学省 「保育所指導指針・解説」厚生労働省 「幼稚園教育要領・解説」文部科学省			
参考書	自由記載	毎回、授業ノートを回収するので、ルーズリーフのノートを用意すること。			

【担当教員の実務経験の有無】

有

【担当教員の実務経験】

公立中学校理科教諭，県教育センター（佐々木弘記）

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

学校，教育センター等での経験を生かして，教育・保育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

授業科目名	教育方法学		サブタイトル		授業番号	CP203
担当教員名	住野 好久					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】						
子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法、技術を教授するとともに、情報機器及び教材の活用について教授する。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法を理解する。 教育の目的に適した指導技術を理解し、身につける。 情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：教育の方法(1) 教育実践における教育の目的・目標、内容、方法、組織 ※ (担当住野) 第2回：教育の方法(2) 学習指導要領が求める教育の方法 ※ (担当住野) 第3回：教育の方法(3) 授業づくりの方法(1)教育の目標・内容の設定 ※ (担当住野) 第4回：教育の方法(4) 授業づくりの方法(2)教材開発 ※ (担当住野) 第5回：教育の方法(5) 授業づくりの方法(3)教授行為 ※ (担当住野) 第6回：情報機器及び教材の活用(1) 情報機器を活用した授業づくり ※ (担当住野) 第7回：情報機器及び教材の活用(2) 情報機器を活用した授業の実際 ※ (担当住野) 第8回：教育の技術(1) 模擬授業(1) 教材研究 ※ (担当住野) 第9回：教育の技術(2) 模擬授業(2) 指導案の作成 ※ (担当住野) 第10回：教育の技術(3) 模擬授業(3) 実践検討(1) ※ (担当住野) 第11回：教育の技術(4) 模擬授業(4) 実践検討(2) ※ (担当住野) 第12回：教育の技術(5) 模擬授業(5) 改善案の作成 ※ (担当住野) 第13回：教育の方法(6) 学級づくりの方法(1)学級づくりとは ※ (担当住野) 第14回：教育の方法(7) 学級づくりの方法(2)学級づくりの方法 ※ (担当住野) 第15回：教育の方法(8) 学級づくりの方法(3)集団指導と個別指導 ※ (担当住野)						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	40%	各回の授業の終盤に提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。			
	定期試験	40%	最終的な目標到達度を評価する。			
	その他 自由記載					
【受講の心得】						
毎回、授業の最後に小テストを行うので、授業内容をしっかりと理解しようとし、不明な点は遠慮なく質問をすること。配付するプリント・資料などはファイルにとじ、整理しておくこと。						
【授業外学修】						
1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週辺り4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載	適宜、授業の中で紹介する。				
【担当教員の実務経験の有無】						
無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】						
無						

授業科目名	メディア教育演習	サブタイトル		授業番号	CP225
担当教員名	岸 誠一				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	1単位		
開講年次	4年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		

【授業の概要】

現代社会における教育や保育の現場において必要となるメディアの基礎的知識を習得するために、本演習では、特に教育メディアの特性とその活用法について学修する。

【到達目標】

教育メディアの特性を理解し、教育や保育の現場に応じて、有効なメディアを選択し、活用できる技能を修得する。なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉と〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：メディア教育とは
- 第2回：ネット社会を生きる子どもの現状と課題
- 第3回：情報モラルの指導案作りと模擬授業
- 第4回：教育メディアと著作権
- 第5回：画像処理とその活用I
- 第6回：画像処理とその活用II
- 第7回：動画編集とその活用I
- 第8回：動画編集とその活用II
- 第9回：動画編集とその活用III
- 第10回：プレゼンテーションの基本
- 第11回：プレゼンテーションソフトの活用
- 第12回：アクティブラーニングのためのICTの活用について
- 第13回：模擬授業のための教育メディア教材作成およびICT活用のための指導案（ICT活用レシピ）作成
- 第14回：教育メディアを活用した模擬授業とその評価I
- 第15回：教育メディアを活用した模擬授業とその評価II

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	70%	授業中出題する演習課題（課題解決を図るための基本的な技法を理解しているか）について評価する
	自由記載		

【受講の心得】

毎回出席し、課題をきちんと提出すること。分からないことは、質問すること。

【授業外学修】

1. 授業ごとに紹介する参考資料や、eラーニング教材（予習用の動画教材）を次回授業までに熟読したり、しっかり視聴したりして、よく予習をしておくこと。
2. PCの操作技能等を身につけるために、随時復習をすること。
3. 模擬授業のための学習指導案および最終レポートを作成すること。

1および2の内容については週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	適宜，提示する。
--------	------	----------

参考書	自由記載	適宜, 紹介する。
【その他】 パソコンを大切に使用すること。		
【担当教員の実務経験の有無】 無		
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無		

授業科目名	教育相談		サブタイトル	(カウンセリングを含む)		授業番号	CN215
担当教員名	國田 祥子						
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位			
開講年次	3年		開講期	前期			
必修・選択	選択		授業形態	講義			
【授業の概要】 この授業では、教育相談についてその理念や基本的な理論を紹介する。							
【到達目標】 教育相談で扱うさまざまな問題に対し、不適応状態にある子どもやその保護者に教師が対応していく際の考え方や方法について解説し、カウンセリング・マインドを身につける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。							
【授業計画】							
第1回：教育相談とは 第2回：カウンセリングの理論 第3回：カウンセリングの技法 第4回：いじめ・不登校への対応 第5回：学級崩壊・学級経営の問題への対応 第6回：虐待・いのちの教育への対応 第7回：非行・学校不応答への対応 第8回：中間のまとめ 第9回：発達障害への対応 第10回：心の病への対応 第11回：校内・他機関との連携 第12回：アセスメント：観察・面接 第13回：アセスメント：心理検査 第14回：過程の理解と保護者への支援 第15回：期末のまとめ							
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢／態度						
	レポート						
	小テスト						
	定期試験	100%	理解度を評価する。				
	その他						
	自由記載						
【受講の心得】 積極的な受講態度を期待します。							
【授業外学修】 毎回の授業の前に、テキストに基づいて4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。							
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	よくわかる！教職エクササイズ3 教育相談		森田健宏・吉田佐治子(編著)	ミネルヴァ書房	2200円	978-4-623-08178-3	
	自由記載						
参考書	自由記載						
【担当教員の実務経験の有無】 無							
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無							

授業科目名	教育実習研究A	サブタイトル		授業番号	CP329
担当教員名	齊藤 佳子 中 典子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	1単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	実習		

【授業の概要】

本科目は、教育実習（幼稚園実習）への自己課題を明確にするために、教育実習の意義、計画と事前準備、心構え、指導案の立案、実習日誌の書き方などを学び実習に備える。また、学校で学んだ様々な実践的知識を応用し、現場の実践へつなげる力を自分なりに明確にする。幼児理解の重要性を学び、様々な事柄を自分自身が感じたり、気づいたり、考えたりする力を身に付ける。

【到達目標】

下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。

1. 幼稚園教育の実際の場に入るにあたって、責任ある立場で子どもに接する者としての在り方を学ぶ。
2. 実習のために必要で有効な知識・技術を学び、それを生かして実習できるよう準備する。
3. 実習の学習課題を明確にする。
4. 実習の体験を踏まえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高める。

【授業計画】

- 第1回：教育実習の目的と意義
- 第2回：教育実習の計画と準備（実習に参加し学ぶ者としての態度と心得）
- 第3回：幼稚園とは（幼稚園の生活の流れと教師の役割）
- 第4回：幼稚園の生活（園長先生、先輩による事前指導）
- 第5回：実習日誌の書き方、実習へ向けて自己課題の作成
- 第6回：指導案の書き方・部分指導(1)
- 第7回：指導案の書き方・部分指導(2)
- 第8回：指導案の書き方・日案(1)
- 第9回：指導案の書き方・日案(2)
- 第10回：幼稚園における特別支援教育「気になる子ども」への指導
- 第11回：幼稚園における教師の役割（援助と環境構成）
- 第12回：幼稚園の役割（学級経営・園生活全般）
- 第13回：教育実習のまとめ(1) 実習を終えて反省と評価
- 第14回：教育実習のまとめ(2) テーマレポート、グループワーク、自己課題の反省と評価
- 第15回：教育実習のまとめ(3) 3～5歳クラスの遊びの特徴と教師の役割

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	授業で説明する実習の目的、意義について説明できる。また、実習に向けての心構えをつくる。
レポート	70%	実習前に事前学習する授業内容について事前学習ページに記載する。また、実習後には自己課題についてレポートを作成するとともに担当年齢の特徴や遊びの内容についてまとめる。	
小テスト			
定期試験			
その他			
自由記載			

【受講の心得】

日常生活の中で「人を育てる」職業に就くことを意識し、人間として必要な態度・習慣（挨拶・着衣の状況、食生活、生活リズム等）を考えて生活する。また、人間として生まれながらにもつ「五感」を働かせ、生活の中で様々な事柄を感じて過ごし、幼稚園教諭としての感覚を研ぎ澄ますよう努力する。

【授業外学修】

1. 授業で事前学習する内容（実習の目的，意義，実習の内容）について事前学習ページに記載する。
2. 実習に必要な教材準備を行う。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館

【担当教員の実務経験の有無】

無

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

授業科目名	教育実習研究B	サブタイトル		授業番号	CP331
担当教員名	姫野 俊幸 溝田 知茂 小川 孝司				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	1単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	実習		

【授業の概要】

小学校教育実習における中心的内容である授業の「設計－実施－評価」のサイクルの中で、授業設計にかかわる学習指導案を作成できるようになることを目標とする。そのための基礎的・基本的事項として、教育実習の意義と目的、計画と準備、心構え、実習記録簿の作成の仕方についての理解を図る。また、教材研究や児童理解に基づいた確かな学習指導案の立案を繰り返すとともに、立案した学習指導案を基に模擬授業を実施する。

【到達目標】

学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことができる。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：教育実習の意義と目的 制度的側面	※（担当姫野，溝田）
第2回：「教師の資質」とは何か	※（担当姫野，溝田）
第3回：「教職専門性」の基礎とは何か	※（担当姫野）
第4回：学習指導案の作成と授業展開の技術I	※（担当姫野）
第5回：学習指導案の作成と授業展開の技術II	※（担当姫野）
第6回：学習指導案の作成と授業展開の技術III	※（担当姫野）
第7回：「教職専門性」の総合的な向上I	※（担当姫野）
第8回：「教職専門性」の総合的な向上II	※（担当姫野）
第9回：「教職専門性」の総合的な向上III	※（担当姫野）
第10回：学校現場における喫緊の課題	※（担当小川）
第11回：学校と子どもたちの実態と実習の課題	※（担当小川）
第12回：教育実習に向けての抱負・決意	※（担当小川）
第13回：実習後の成果と課題（ふりかえり） 実習後の礼状の書き方	※（担当溝田）
第14回：小学校教育実習発表会の準備	※（担当溝田）
第15回：小学校教育実習発表会	※（担当溝田，姫野）

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	実習に向けて自己の力量を高めようという意欲的な態度の状況によって評価する。
	レポート	30%	教材研究，学習指導案の記載内容・到達度によって評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他	30%	模擬授業への準備，実施と振り返りの記録等によって評価する。
自由記載			

【受講の心得】

小学校教師を志望する強い気持ちで授業に参加すること

【授業外学修】

- 1 予習として、授業で配付される資料を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。
- 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	小学校教育実習日誌
--------	------	-----------

参考書	自由記載
<p>【その他】 4月当初から実習前までの期間に、補講を行う。一人一人が力を付けて自信をもって実習に臨めるようにする。</p>	
<p>【備考】 R44.1改訂</p>	
<p>【担当教員の実務経験の有無】 有</p>	
<p>【担当教員の実務経験】 公立小学校教諭，教頭，校長，教育委員会事務局（姫野俊幸）</p>	
<p>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無</p>	
<p>【実務経験をいかした教育内容】 学校，教育委員会事務局等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。</p>	

授業科目名	教育実習A		サブタイトル		授業番号	CP430
担当教員名	齊藤 佳子 中 典子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	4単位	
開講年次	3年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	実習	
【授業の概要】						
幼稚園での幼児の主体的な活動を基本とし、幼児がよりよい方向へ向かい発達していくことを援助する実際を体験し、幼児と心と心を通わせ、幼児の興味・関心・要求などを汲み取りながら「援助」の意味を実践・体験を通して学び、「自らの意志で学ぶこと」の重要性に気づく力を身につける。また、観察実習・参加実習・部分実習・責任実習で幼児の観察記録と指導案を詳細に記述することができ、実践における教師の役割と環境構成の重要性に気づける感性を養う。						
【到達目標】						
下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。本科目はディプロマ・ポリシーの<技能><態度>の修得に貢献する。						
1. 幼稚園教育の実際のある場を経験し、責任ある立場で子どもと共に生活する体験を得る。						
2. これまで学んだ知識・技術を生かして実習することにより、その後の学習課題を明確にする。						
3. 教員としての将来に希望をもち、その職務への自覚を深め、自己を陶冶する。						
【授業計画】						
第1週 観察実習						
(1) 実習園について理解する。						
教育の基本方針、学級の人員構成・担当教諭の学級経営、環境（物的：敷地、建物の構造、配置及び施設設備・人的：職員構成、勤務形態等）を把握する。						
(2) 観察の仕方を学ぶ。						
第2～3週 参加実習						
(1) 幼児の発達の概要を知る。						
(2) 幼稚園教育の一日の流れを把握する。						
(3) 基本的な生活習慣の援助や遊びの指導について学び、担当教諭の補助をする。						
第3～4週 指導実習（部分実習・責任実習）						
(1) 3歳児から5歳児の各年齢の保育形態を理解する。						
(2) 幼児の実態と指導計画に準じた環境の構成をする。						
(3) 様々な環境にかかわって遊ぶ幼児の姿と教師の援助を予想して指導案を立てる。						
(4) 指導上の技術を生活の指導・遊びの指導の両面から学ぶ。						
(5) 指導の反省と評価の方法について学ぶ。						
(6) 幼児の安全への配慮について理解する。（安全指導）						
(7) 保護者とのコミュニケーションの方法について学び、家庭・地域社会との連携について理解する。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	70%	実習該当園の評価表を基準にする。（上記の4週間において次の7点から評価）意欲、責任感、研究的態度、協調性、指導計画、指導技術、事務処理。			
	レポート	30%	実習日誌、指導案立案の資料をもとに評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載	教育実習における実習幼稚園の評価表、実習日誌、指導案立案、指導実習の準備や成果などを総合的に判断し、実習園での評価点60点以上の者に単位を認定する。				
【受講の心得】						
現場での実践に積極的に臨み、自己課題・目標を達成できるよう取り組む。また、今後、社会人として役立つこととして、何を大切にすべきか、互いに協力し合うこととはどのようなことを学ぶ。						

【授業外学修】

1. 幼児の活動と教師の配慮の関係性と実習生としての自分の活動を日誌に記入する。
2. その日の実習のねらいについて一日を振り返り、実習日誌に記入する。
3. 指導案等の実習指導計画を作成し、指導にあたっての教材研究をする。

以上の内容を、毎日2時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館
【担当教員の実務経験の有無】		
無		
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】		
有		
【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】		
幼稚園及び認定こども園等の実習指導者		
【実務経験をいかした教育内容】		
学生が幼稚園教諭の職務を体験し必要な知識及び技能を習得できるように、実際の幼児との生活の中で指導を行う。		

授業科目名	教育実習B	サブタイトル		授業番号	CP432
担当教員名	姫野 俊幸 満田 知茂 小川 孝司				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	4単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	実習		
【授業の概要】 大学の授業で学んだ理論や身に付けた知識や技能を基にして、実践的指導力（学習指導力」「生徒指導力」「マネジメント力」）を身に付ける。実際に児童の前で授業を展開し、実践を評価・分析することを通して、改善点を見付け、工夫・改善していく。つまりP D C Aサイクルを教育実習の中で繰り返しながら、小学校教師としての実践的指導力を総合的に高めていく。4週間の教育実習の中で、第1週には、観察実習、第2.3週には、授業実践実習、第4週には一日経営実習を行う。また、4週間を貫く教育実習課題を個々に設定し、課題意識を明確にして教育実習に取り組む。					
【到達目標】 1 「学習指導力」として、学習指導案の作成や教材・教具の工夫の仕方、分かりやすい授業のために指導技術などを修得する。 2 「生徒指導力」として、授業規律や生活規律の徹底を図るための指導方法、児童の人間関係づくりの構築方法を修得する。 3 「マネジメント力」として、学級担任になったことを想定して、学級経営の計画を立て、学習活動の組織の仕方を取 得する。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に 貢献する。					
【授業計画】					
第1週 観察実習 ・配属学級での授業観察を通して次のことを中心に観察する。 (1)指導案と実際の授業との対応。 (2)「教師－児童」の相互作用の実際。 (3)学級経営の具体的な取り組み。					
第2～3週 授業実践実習 ・授業の「設計－展開－評価－（改善）」を各教科等の授業実践を通して実習する。 ＜各段階で求められると想定する技術＞ 設計：指導案を書く技術 展開：児童に学習内容を理解させる技術 評価：授業を観察・記録する技術 ・第3週目に研究授業を実施する。					
第4週 一日経営実習 ・一日学級担任として、学級経営を中心に授業（2時間）を実施する。					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取 り組みの姿 勢／態度				
	レポート				
	小テスト				
	定期試験				
	その他	100%	教育実習校での評価（80%）、教育実習日誌（20%）		
自由記載					
【受講の心得】 小学校教師を志望する強い気持ちで教育実習に参加すること					

【授業外学修】

- 1 予習として、実習校で配付される資料を読み、疑問点を明らかにする。
 - 2 授業を実践する際に、十分な教材研究を行い、指導計画を立てる。
 - 3 授業後には、授業実践を振り返る。
- 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	小学校教育実習日誌
参考書	自由記載	

【担当教員の実務経験の有無】

有

【担当教員の実務経験】

公立小学校教諭、教頭、校長、教育委員会事務局（姫野俊幸）

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

学校、教育委員会事務局等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

授業科目名	保育・教職実践演習 (幼・小)	サブタイトル	(幼・小)	授業番号	CP428
担当教員名	姫野 俊幸 岸 誠一 齋藤 佳子 伊藤 智里 満田 知茂 小川 孝司 子X3 尾湯 千咲				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	4年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】 4年間における個々の科目の履修ならびに各種の実習において修得した専門的な知識・技能を基礎として、教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、教育活動の具体的場面で生きて働く知への総合・統合を図る。この過程でのグループ討議の中で対人的なコミュニケーション能力の向上と同僚性の涵養を図っていききたい。また、履修カルテを参照し、個別的に補完指導を行う。					
【到達目標】 保育士、幼稚園教諭、小学校教諭のいずれにも共通して、 (1)子どもを理解する力、(2)保育（授業）をデザインする力、(3)保育（授業）を実践する力、(4)保育（授業）を省察する力の4点を身につけることができる。					
【授業計画】					
<p>第1回：オリエンテーション：「教職実践演習」の目的と授業内容。 「保育者・教師への歩みと足跡」各自、保育者・教職を目指してきた思いや、履修カルテをもとにこれまでの学校生活の振り返りをワークシートにまとめる。 ※（担当姫野）</p> <p>第2回：グループワーク：「保育者・教師への歩みと足跡」について、合同グループで発表し、話し合い、自分自身の思いや覚悟を確かめる。 ※（担当満田・伊藤）</p> <p>第3回：グループワーク：「子どもの理解の方法と実際」保育者として、教師として、子ども理解することについて改めて考え、保育の事例、幼稚園の事例、小学校での事例について、合同グループで話し合い、自分自身の対応について考える。 ※（担当満田・伊藤）</p> <p>第4回：グループワーク：「問題行動の理解と対応」子どもの問題行動に関して、保育の事例、幼稚園の事例、小学校での事例について、合同グループで話し合い、自分自身の対応について考える。 ※（担当満田・小川）</p> <p>第5回：ロールプレイング：「保護者対応」保護者から苦情電話がかかってきたとの想定で、それぞれの立場でロールプレイングを行い、保護者の思いを共感的に受け止め、問題を整理し、誠実な態度で対応することについて考える。 ※（担当満田・小川）</p> <p>第6回：「これからの情報教育～保育士・幼稚園教諭・小学校教諭に向けて」情報教育、ICT教育・プログラミング教育について、今後、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭が主体となって取り組んでいかなければならない事柄について考える。 ※（担当岸）</p> <p>第7回：模擬保育・模擬授業(1) ※（担当姫野・伊藤）</p> <p>第8回：模擬保育・模擬授業(2) ※（担当姫野・伊藤）</p> <p>第9回：模擬保育・模擬授業(3) ※（担当姫野・伊藤）</p> <p>第10回：グループワーク：「幼保小の接続」幼保小の相違点、幼保小の接続の在り方、課題、接続期のカリキュラム、接続期の実践の工夫などについて、合同グループで話し合い、保育者・教師として必要な支援について考える。 ※（担当満田・伊藤）</p> <p>第11回：グループワーク：喫緊の課題(1) 課題を見出し、調べ、報告し、討論する ※（担当姫野・小川）</p> <p>第12回：グループワーク：喫緊の課題(2) 課題を見出し、調べ、報告し、討論する ※（担当姫野・小川）</p> <p>第13回：グループワーク：喫緊の課題(3) 課題を見出し、調べ、報告し、討論する ※（担当姫野・小川）</p> <p>第14回：ロールプレイング：「初めて子どもに出会う日」初めて子どもたちと出会う日という想定で、子どもたちに、また、子どもと保護者を前に、それぞれの立場でロールプレイングを行い、学級の担当者また、学級担任としての思いをどのように伝えるかについて考え、気持ちを新たにす。 ※（担当満田）</p> <p>第15回：「私のめざす保育者・教師像と今の自分、これからの自分」私のめざす保育者・教師像について、教員の講話を聴講し、最終レポートに向けて、自分の夢や決意を固める。 ※（担当姫野・小川・子ども園園長）</p>					

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	免許取得者としての意識をもった意欲的な受講態度であるか否かを評価する。
	レポート	30%	毎回の授業内容レポートの適確な把握状況について、コメントして返却する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他	40%	模擬保育・模擬授業等の実践力の達成状況を評価する。
	自由記載		グループ討論、実技指導、補完指導などの結果を踏まえ、教員及び保育者として最小限必要な資質能力が身に付いていることを確認し、単位認定を行う。
【受講の心得】 全講義への出席を基本とする。やむを得ず欠席の場合は、その状況・内容を必ず連絡すること。四月から社会人として勤務することを念頭に、向上心を持って授業に臨むこと。			
【授業外学修】 1 予習として、事前に配布された資料を読み、自分の考えを書きまとめておく。 2 復習として、授業内容を通して学んだことを振り返って書きまとめ、提出する。 3 発展学習として、授業に関連した参考資料や書籍を読み、記録に残す。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。			
使用テキスト	自由記載	随時、必要な資料を配付する。	
参考書	自由記載		
【担当教員の実務経験の有無】 有			
【担当教員の实務経験】 公立小学校教諭・校長・県生涯学習センター・県情報教育センター（岸 誠一）、（姫野）			
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無			
【実務経験をいかした教育内容】 学校現場での現場体験を通して得た実践的な知見を学生に伝えることで、実感を伴った理解を図り、学習指導力、生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。			

授業科目名	日本国憲法	サブタイトル	(立憲主義に基づく日本国憲法の基本原理を学ぶ)	授業番号	CA207
担当教員名	俣野 英二				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<p>【授業の概要】</p> <p>本科目では、日本国憲法及び他国の憲法の沿革、様々な人々の人権について講義する。また、憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し、それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。</p> <p>具体的にはまず、学生に身近な憲法問題を取り上げ、それに関する憲法の基本原理及び基礎知識について概説する。次に、各回における講義の学修目的に関する課題をグループで調査・考察する。次に、次回の講義で、各グループのグループワークの結果を紹介し、全体討議の後講評を行う。</p> <p>なお、新型コロナのまん延防止対策に伴ってオンライン授業となった場合には、MoodleあるいはGoogle Classroomを活用してグループワーク、講義における質疑を行う。</p>					
<p>【到達目標】</p> <p>憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し、それらを活用して身近な憲法問題を主体的に考えることができるようになることを目標とする。</p> <p>なお、本科目は、到達目標達成の前提として異なる価値観、文化、背景および相互関係を知り、深い認識と理解など幅広い教養の修得を伴うことから、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解>の修得に貢献する。また、憲法の視点から子どもに関わる場面などにおける様々な課題の解決を主体的に思考する力の修得を目的とすることから、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。</p>					
<p>【授業計画】</p>					
<p>第1回：ガイダンス、憲法とは何か</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学修の目標、評価方法などを説明する。 2 法律家の思考の特徴や憲法とは何かについて学修する。 <p>第2回：グループワーク1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 グループワークの仕方を説明する。 2 各グループに分かれて、課題選択、課題分析、リサーチを行う。 <p>第3回：グループワーク2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 グループワークのまとめ方を説明する。 2 各グループに分かれて、情報整理、報告書の作成を行う。 <p>第4回：国家機関としての天皇制</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 徳川時代、大日本帝国憲法下、日本国憲法下の天皇の地位について考える。 2 国民主権主義下における国家機関としての象徴天皇制について考える。 <p>第5回：憲法が目指す平和を守る仕組み——平和主義 1 ——</p> <p>非武装平和主義の採用の背景とその後について学修する。</p> <p>第6回：憲法が目指す平和を守る仕組み——平和主義 2 ——、人権を守るための組織——統治機構 1 ——</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 近年の安全保障をめぐる状況について学修する。 2 政治と国民、国会議員について学修する。 <p>第7回：人権を守るための組織——統治機構 2 ——</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 選挙、選挙制度、政党、国会について学修する。 2 内閣について学修する。 <p>第8回：人権を守るための組織——統治機構 3 ——</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地方自治について学修する。 2 裁判所について学修する。 <p>第9回：良心をもつ自由、貴く権利</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 良心の意義について学修する。 2 教師の良心を貴く権利について考える。 <p>第10回：表現の自由</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 表現の自由と名誉毀損・プライバシーの権利について考える。 2 マスメディアの自由と国民の知る権利やアクセス権について考える。 <p>第11回：営業の自由と消費者の権利</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 職業選択の自由、営業の自由と消費者の権利について学修する。 2 職業を規制することの合憲性の判断の仕方について考える。 <p>第12回：働く人の権利</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 勤労の権利や労働基本権について学修する。 2 女性や非正規労働者の問題について考える。 <p>第13回：困った時の権利、差別されている人たちへの配慮</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 憲法25条の歴史的社会的意味及び社会保障制度について学修する。 2 積極的な格差解消の取組みの合憲性の判断の仕方について考える。 <p>第14回：家庭と女性の権利</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 憲法における家庭と女性の権利について学修する。 2 同性愛者のカップルに婚姻と同じ保護を与える制度について考える。 <p>第15回：子どもの権利と学校における生徒の人権</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の教育を受ける権利、学校内外での権利について学修する。 2 いじめ問題を憲法から考える。 					

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	各講義における学修目的に関する基礎知識及び基本原理の理解、及び、意欲・関心を持ち、講義に積極的に参加する態度を評価する。
	レポート	30%	1回実施。基本原理、基礎知識の理解及び異なる意見の存在に配慮しつつ法律を使った問題解決の考え方ができているかを評価する。レポートにはコメント付して返却する。
	小テスト		
	定期試験	40%	記述式試験を実施。基本原理及び基礎知識の理解及びこれらを活用して身近な憲法問題に対して主体的かつ論理的に結論を導くことができているかを評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

- 1 講義は各章（ほぼ毎回）のグループワークを行いながら進めていくので、各自はテキスト・講義資料を予習しておくこと。
- 2 全体を通じて1回、任意に選択した発展学習をグループで調査・報告する。各自積極的に取り組むこと。
- 3 中間に1回中間レポートの課題（第7回頃レポート作成要項発表）がある。

【授業外学修】

- 1 事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み、意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。
- 2 事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め、ノートに整理して、期末テストに備える。また、発展的学習として選択した課題について、インターネット等で調査し、調査した情報や講義により修得した基本原理や情報を踏まえて、各自の情報や意見を整理する。さらに、グループワークに参加し、協力して必要事項を調査するとともに、課題に関してそれぞれの意見を交換し、グループ報告書にまとめる共同作業を行う。
- 3 中間レポート：自身の属するグループや他のグループのグループワーク報告書や質疑を整理し、疑問点を調査する。これまでの学修の結果を踏まえて課題を選択し、自分の意見を練り、レポートにまとめる。
事前学習及び事後学習を合わせて、1週間に4時間程度必要である。

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	憲法のちから—身近な問題から憲法の役割を考える—	中富公一	法律文化社	2400円＋税	978-4-589-04140-1
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	自信をもっていじめにNOと言うための本	中富公一	日本評論社	2300＋税	978-4-535-52038-7
	自由記載	右崎正博ほか編『基本判例1 憲法【第4版】』（法学書院，法学書院）			

【備考】

令和5年度改訂

【担当教員の実務経験の有無】

有

【担当教員の実務経験】

県教育委員会，県（人権・同和政策課）

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。

授業科目名	体育講義		サブタイトル	(日常生活と健康)	授業番号	CE201
担当教員名	溝田 知茂					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】 現代社会においては、技術革新に伴う機械化・情報化等が進み、日常生活における身体活動が減少するとともに、食生活のバランスの崩れも伴って、運動不足と生活習慣の乱れが深刻な問題となっている。こうした状況によって、我々の身体は危機的な状況にさえ陥っている場合もある。本講義では、からだと心の仕組みについて、身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身に付ける。						
【到達目標】 人間のからだと心の仕組みについて、日常生活で何気なく実践している事柄の意味について知ることを目的とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：「体力」について考える 第2回：「ホルモン」のはたらきについて考える 第3回：「自律神経」のはたらきについて考える 第4回：「背筋力」のはたらきについて考える 第5回：「免疫力」のはたらきについて考える 第6回：「睡眠」とスポーツ 第7回：身体形成と機能の発達 第8回：身体づくりとしての栄養・運動・スポーツ 第9回： 第10回： 第11回： 第12回： 第13回： 第14回： 第15回：						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	意欲的な受講態度			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	60%	理解度を評価する			
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 ・スポーツに関わる知識と理解を深め、スポーツ・運動への志向性を高めることを目指しているので、自らの生活と関連付けながら受講すること。						
【授業外学修】 ・「スポーツ」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し、興味関心を高める。 ・各回の授業内容に合わせた情報を収集したり、書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に使用しない。(作成資料を活用)				
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						

授業科目名	体育実技		サブタイトル	(スポーツに親しもう)	授業番号	CE202
担当教員名	溝田 知茂					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	実技	
【授業の概要】 各チームの課題を基にメンバーで協力しながら、各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。						
【到達目標】 健康的な生活を送るために、運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに、集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールを理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：バスケットボールI（ルールと基本技術の理解） 第2回：バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 第3回：バスケットボールIII（ゲームの展開） 第4回：バレーボールI（ルールと基本技術の理解） 第5回：バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 第6回：バレーボールIII（ゲームの展開） 第7回：バドミントンI（ルールと基本技術の理解） 第8回：バドミントンII（基本技術の習得とゲームの導入） 第9回：バドミントンIII（ゲームの展開） 第10回：ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解） 第11回：ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 第12回：ソフトバレーボールIII（ゲームの展開） 第13回：卓球I（ルールと基本技術の理解） 第14回：卓球II（基本技術の習得とゲームの導入） 第15回：卓球III（ゲームの展開）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり、自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している			
	レポート					
	小テスト	40%	各競技ごとに試合を実施する			
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 運動着を着用し、体育館シューズを使用する。 全員協力の上、準備・片付けをする。						
【授業外学修】 ・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め、日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。 ・各種目のルールやスキルアップを図るため、書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）				
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						

授業科目名	英語I	サブタイトル	子どもと交わす英会話I	授業番号	CD201
担当教員名	子X2				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		

【授業の概要】

本学の立地する岡山県の観光地、文化、習慣などについて、外国人に岡山を紹介する英語の対話文を扱い、英語の読解力を高めると同時に岡山についての理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ、最終的には、自ら素材を選んで紹介文を書き、簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。また、各自の英語の能力に応じた実用英語検定あるいは幼保英語検定の級の取得を目指す。

【到達目標】

- ・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。
- ・対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。
- ・岡山の観光・文化等について知識を得ることができる。
- ・各自の英語の能力に応じた実用英語検定あるいは幼保英語検定の級の取得することができる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：1-1-2 Welcome to Okayama
 第2回：1-1-4 At Korakuen
 第3回：1-2-1 Hofukuji and Sesshu
 第4回：1-2-2 Kibiji District
 第5回：1-2-4 Ohara Museum of Art
 第6回：1-3-1 Hiruzen Height
 第7回：1-3-2 A Trip to Inujima
 第8回：1-3-3 A One-day Trip to Kibitsu Shrine
 第9回：1-3-5 Yunogo Hot Spring
 第10回：2-1-3 Gift Wrapping
 第11回：2-2-3 Covering Hakuto with Paper Bags
 第12回：2-2-4 Peach Farmer's Dessert
 第13回：2-3-1 Jeans Town Kojima
 第14回：3-1-4 Eco-friendly Bags
 第15回：Tea Ceremony（茶道）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	【評価の方法1：評価規準・その他備考】 意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
	レポート	20%	課題のテーマについて調査し、整理・分析し、具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。
	小テスト	10%	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。
	定期試験	30%	講義の中間期、期末に授業内容の理解度を評価する。
	その他	10%	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

- ・予習と復習を心がけ、自らの学びの状況を把握し向上できるよう、自主的で粘り強い学習に努めること。
- ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。
- ・実用英語検定あるいは幼保英語検定の問題集を購入し、検定合格を目指して学修すること。

【授業外学修】

- 1 テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。
- 2 前時の授業内容についての練習問題を実施するので2時間以上復習しておくこと。
- 3 課題については十分に調査してレポートを作成すること。
- 4 実用英語検定あるいは幼保英語検定の問題集を購入し、予習復習を行うこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	岡山から"ハロー"	岡山ローバル英語研究会	山陽新聞社	1,000円	978-4-88197-743-9
	自由記載	各自の英語の能力に応じた実用英語検定あるいは幼保英語検定の級の問題集（授業で指定する）			
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の实務経験】 公立小学校・中学校・中高一貫教育校指導教諭 県教育委員会指導主事					
【実務経験をいかした教育内容】 英語科教員・指導主事としての実務経験を生かし、乳幼児教育施設や小学校等の英語教育に携わる指導者に求められる基礎的な英語力を育成する。					

授業科目名	生活と情報処理		サブタイトル		授業番号	CC201
担当教員名	岸 誠一					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
【授業の概要】 現代の情報社会においては、パソコンは最も基礎的なツールの一つである。この情報の持つ様々な側面のうち情報と人間社会のかかわりを明らかにする。そのため、パソコンの基本的な使い方や仕組み、さらにはネットワークの基礎的な使用方法を学ぶ。						
【到達目標】 本授業も具体的な目標は、次の3点である。 (1) パソコンに関する基礎的知識を学ぶ。 (2) ネットを利用した情報収集、加工、発信の仕方を学ぶ。 (3) 情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて学ぶ。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：ガイダンス・パソコン操作についての基礎知識I 第2回：パソコン操作についての基礎知識II 第3回：ネット利用についての基礎知識I 第4回：ネット利用についての基礎知識II 第5回：ワードの基礎知識I 第6回：ワードの基礎知識II 第7回：ワードの基礎知識III 第8回：パワーポイントの基礎知識I 第9回：パワーポイントの基礎知識II 第10回：パワーポイントの基礎知識III 第11回：デジタルコンテンツの作成の仕方I 第12回：デジタルコンテンツの作成の仕方II 第13回：デジタルコンテンツの作成の仕方III 第14回：情報の倫理とセキュリティI 第15回：情報の倫理とセキュリティII						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%				
	レポート	80%				
	小テスト		各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験		最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 新聞やTV等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。 わからないことは質問すること。						
【授業外学修】 1. 予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い、考えてくること。 2. 復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり、適宜調べ学修や実践等を行い、学びを深めていく(探究する)こと。 以上の学修を、授業1回あたり4時間以上行うこと。 3.classroomを立ち上げ次回の授業の準備物等の連絡や授業の復習用動画を情報提供するので必ず視聴すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						

子ども学部 子ども学科
幼稚園教諭一種免許状

授業科目名	子どもと健康		サブタイトル		授業番号	CP212
担当教員名	子X3					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】						
<p>本科目は、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、領域「健康」の意図する目標、ねらい及び内容についての理解を深め、保育における「健康」（安全）教育の位置づけを明確にする。また、遊びや生活を通しての幼児の健康な姿や、家庭と園との生活の流れの中での幼児にとっての健康な生活リズムについて、幼児の発達の特徴や健康に関わる指導の観点を明確にし、保育者としてどのような健康観をもち、子どもたちに接するべきか常に考え、実践力ある保育者への意識の向上を図ることを目的とする講義をする。</p>						
【到達目標】						
<p>下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマポリシーに掲げた<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期の基本的な発達特性を理解して発表できる。 2. 子どもの健康と生活の関連性を理解できる。 3. 子どもの健康を促進させる保育の基本的視点を整理し、発表できる。 						
【授業計画】						
<p>第1回：「健康」とは何か 第2回：子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(1) 乳幼児期の発達と心の安定 第3回：子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(2) 生活リズム 第4回：子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(3) 安全と食を営む力 第5回：領域「健康」の指導計画の立案 第6回：領域「健康」の環境構成の具体とその留意点について 第7回：領域「健康」における保育者の役割について 第8回：領域「健康」と保育の実際(1)子どもが安定感をもつための保育の工夫 第9回：領域「健康」と保育の実際(2)子どもが進んで戸外で遊ぶ保育の工夫 第10回：領域「健康」と保育の実際(3)子どもが自分たちで生活の場を整えていく工夫 第11回：領域「健康」と保育の実際(4)子どもの食への関心と危険や安全への関心 第12回：領域「健康」指導上の留意事項(1)子どもの体づくりと運動遊び 第13回：領域「健康」指導上の留意事項(2) 保育環境の安全性 第14回：領域「健康」指導上の留意事項(3) 子どもたちの食育 第15回：子どもの健康を育む保育の在り方</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	授業への積極的な態度や取組について評価する。			
	レポート	10%	レポートのテーマに応じた内容や構成について評価する。			
	小テスト					
	定期試験	60%	領域「健康」に関する知識・理解について評価する。			
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
<p>保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「健康」について熟読しておく。日常生活の中で「健康とはどのような状態か」「幼児期にはぐくむべき健康とは」ということについて自ら意識して考えたり、実際に子どもに接する機会を意図的にもち、子ども理解を深めたりしていく。そして、理解した内容を授業だけでなく今後の実習と結びつけていく。</p>						
【授業外学修】						
1. 毎授業の単元について事前に教科書で範囲を熟読すること。また質問事項についてノートにまとめておくこと。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	◆	◆	◆	◆	◆	
	自由記載	コンパクト版 保育内容シリーズ健康				
参考書	自由記載	『最新保育講座7保育内容「健康」』 著者名 河邊貴子・柴崎俊行・杉原隆編 発行所 ミネルヴァ書房 『新保育ライブラリ』保育内容 健康 著者名 民秋 言・小田 豊・柄尾 勲・無藤 隆 発行所 北大路書房 『保育所保育指針解説』厚生労働省 発行所 フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 発行所 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府 発行所 フレーベル館				

授業科目名	子どもと人間関係		サブタイトル		授業番号	CP214
担当教員名	廣畑 まゆ美					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】						
領域「人間関係」は人とかかわる力を養う観点から示されている。この授業では、保育内容「人間関係」のねらい及び内容について理解し、保育者の役割や指導の在り方について学ぶ。						
【到達目標】						
子どもが人とかかわる力を身に付けていく過程をとらえ、「人とかかわる力の基礎」を理解する。 保育者・教育者に求められる幅広い教養と、保育・教育に関する専門的知識を習得していく。 保育者・教育者として、子どものよきモデルとなることができるよう、明るく・前向きで誠実な態度を身につける。 これらは、ディプロマポリシーにあげている学士力の内容<知識・理解><態度>の習得に貢献する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能><態度>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：「人間関係」のねらいと内容…幼児期に求められる人間関係について理解する。 第2回：子どもの人間関係をめぐる現代的課題…多様な家族形態が抱える諸問題 第3回：子どもの人間関係の発達課題（1）…愛着関係の形成、情緒の形成、自我の発達 第4回：子どもの人間関係の発達課題（2）…いざこざを通じた育ち、いざこざに対する保育者の援助 第5回：子どもの人間関係の発達課題（3）…道徳性と規範意識の芽生え 第6回：幼児期の生活や遊びの中での人と関わる力…子どもの姿を個と集団の関係から読み解く 第7回：遊びの発達と人間関係…遊びのなかで育まれる人間関係 第8回：保育者に求められる援助の視点…年齢別の援助とは、自立を考える 第9回：子どもの協同性を育む保育者の援助…「遊んでほくらは人間になる」を視聴、グループワーク 第10回：人間関係を結ぶ保育のあり方…遊びでつなぐ友だち作り 第11回：保育場での気になる子どもとのかかわり…気になる子の人間関係と保育者の援助 第12回：乳児の人間関係；乳児期の人間関係の芽生え 第13回：子ども理解；子ども理解の視点、グループワーク 第14回：親の思いと家庭との関わり…保護者との信頼関係、子育て支援の今後の課題 第15回：定期試験にむけて；これまでの講義の振り返り、試験のポイント解説、質疑応答						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業への取組の積極性、発表、予習・復習の状況などによって評価する。			
	レポート	30%	テーマに沿って具体的に述べられている。レポートはコメントをつけて返却する。			
	小テスト					
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他 自由記載					
【受講の心得】						
「しっかりと話を聞く」「自分の考えを話す」「記録の整理」を大切にして保育者としての基礎を体得してほしい。 また、演習ではグループワーク等をおこなう。積極的に取り組み、意見交換等から知見を広げてほしい。						
【授業外学修】						
テキストの授業内容にかかわる予習をして、課題をもって授業に出席する。 授業後は授業内容の整理を行い、ノートにまとめておくこと。 人とかかわる「遊び」の計画や演習・実践後の反省など、授業前後の準備・振り返りをする。 このことについて、1時間以上の学修をすること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	保育内容「人間関係」第2版		濱名浩 編	株式会社みらい	2100円+税	9784860154455
	自由記載					
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】						
無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】						
無						

授業科目名	子どもと環境	サブタイトル		授業番号	CP216
担当教員名	齊藤 佳子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】 「環境」に関わる内容を楽しく体験的に学び、環境に関する基礎力を養成する。					
【到達目標】 下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマポリシーの<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。 1. 「環境」のねらいについて、自分の言葉で語ることができる。 2. 環境の内容について、多様な視点から述べるができる。 3. 環境に関わるいろいろな活動を体験しながら、指導のための基礎力を身に付ける。 4. 子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に会得する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
【授業計画 備考】 (1)領域「環境」についての内容、(2)自然を観察する時の基礎力として「理科ソング」、(3)実際の体験としての「工作」・「実技」の3項目を授業で行う。					
第1回：・幼児教育の基本と「環境」・幼児教育で育みたい資質・能力・理科ソング「草花」・工作など「手裏剣」 ※ (担当 齊藤)					
第2回：・領域「環境」のねらいと内容・理科ソング「七草」・工作など「紙鉄砲」 ※ (担当 齊藤)					
第3回：・領域「環境」における乳児保育のねらい及び内容・理科ソング「野菜の歌」・工作など「兜」 ※ (担当 齊藤)					
第4回：・領域「環境」における1歳以上3歳未満時の保育・理科ソング「セミの歌」・工作など「紙テープコマ」 ※ (担当 齊藤)					
第5回：・領域「環境」内容の取り扱い・理科ソング「甲虫類」・工作など「紙飛行機」 ※ (担当 齊藤)					
第6回：・植物との関わり・理科ソング「むせきつい動物」・栽培「ヒヤシンス」 ※ (担当 齊藤)					
第7回：・植物採集と標本(押し葉)づくり・理科ソング「空の雲」 ※ (担当 齊藤)					
第8回：・自然、季節とのかかわり、自然現象、季節をとらえる遊び・理科ソング(復習)・工作「押し葉絵」 ※ (担当 齊藤)					
第9回：・生き物(動物・昆虫)との関わり・理科ソング(復習)・工作「秋の自然物を使って(1)」 ※ (担当 齊藤)					
第10回：・物「素材・道具」との関わり・理科ソング(復習)・工作「秋の自然物を使って(2)」 ※ (担当 齊藤)					
第11回：・数量や図形との関わり、園行事と子ども・理科ソング(復習)・実技「お手玉」 ※ (担当 齊藤)					
第12回：・標識や文字との関わり・理科ソング(復習)・実技「あやとり」 ※ (担当 齊藤)					
第13回：・情報や施設との関わり・実技「けん玉」 ※ (担当 齊藤)					
第14回：・地域社会と文化と伝統、遊びを通しての地域社会との連携・交流・理科ソング(復習)・工作「節分」 ※ (担当 齊藤)					
第15回：・他の領域や小学校教育との関わり、領域「環境」全体のまとめ・理科ソング(復習)・工作「俵転がし」 ※ (担当 齊藤)					
【授業計画 備考2】 (1)テキスト (2)ノート (3)ハサミ (4)セロテープ (5)色マジック (6)授業時間に指示した物					

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲, 発言, 実技の態度
	レポート	20%	記述内容 (要点を押さえているか, 自分の考えを述べているか等)
	小テスト		
	定期試験	50%	環境の内容, 理科ソング 習得度
	その他	20%	植物標本, 工作物, 実技
	自由記載		

【受講の心得】

- ・環境の内容を楽しく体験しながら, 子どもの興味・関心, 主体性について考えてもらいたい。

【授業外学修】

- ・身近な動植物を意識的に探し, 子どもがどのような反応をするか, 遊びに使えるかなどを考えること。
- ・身近な物質で子どもが喜びそうな物を探し工作などをしてみること。
- ・季節の変化に注意し言葉で表現すること。
- ・地域の伝統・文化を探ぐり体験してみること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 環境	無藤隆 監修	萌文書林	本体2200円 +税	978-4-89347-258-8
	自由記載				
参考書	自由記載				

【担当教員の実務経験の有無】

無

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

授業科目名	子どもと言葉		サブタイトル		授業番号	CP218
担当教員名	伊藤 智里					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位		
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
<p>発達にともなう子どもの「言葉」の世界の広がりについて、テキストから詳しく学び、理解を深める。また、言葉を通して、豊かな表現力の育ちを支えるための具体的な保育実践のあり方について学ぶ。</p>						
【到達目標】						
<p>保育内容 領域「言葉」について理解する。幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。人間にとっての話し言葉や書き言葉の意義と機能について説明できる。</p> <p>言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。</p> <p>児童文化財について基礎的知識を身に付け、実践することができる。</p> <p>これらは、ディプロマ・ポリシーに挙げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の習得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：保育と保育内容領域「言葉」-人間と言葉-</p> <p>第2回：乳幼児期の言葉の獲得</p> <p>第3回：子どもの発達と言葉</p> <p>第4回：言葉の豊かさ-言葉遊び-</p> <p>第5回：児童文化財-お話-</p> <p>第6回：児童文化財-お話の実際-</p> <p>第7回：児童文化財-紙芝居-</p> <p>第8回：児童文化財-紙芝居の実際-</p> <p>第9回：児童文化財-ペープサート-</p> <p>第10回：児童文化財-ペープサートの実際-</p> <p>第11回：児童文化財-パネルシアター-</p> <p>第12回：児童文化財-パネルシアターの実際-</p> <p>第13回：児童文化財-文字あそび かるた-</p> <p>第14回：児童文化財-かるたの実際-</p> <p>第15回：児童文化財-絵本と子ども-</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	授業への積極的な取組（体験、発表など）による評価。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	50%	理解について評価する。			
	その他	30%	児童文化財の制作物について、保育で使用するものとして適切か評価する。			
	自由記載					
【受講の心得】						
<p>授業は自ら学ぶ姿勢でのぞむとともに、保育者・教育者として子どものよきモデルとなることができるよう前向きで誠実な態度でのぞむ。</p>						
【授業外学修】						
<p>テキスト及び参考書の授業内容にかかわる部分を予習をして、課題を把握し、授業に出席する。授業後は振り返りをし、記録の整理やレポート作成をする。</p> <p>いろいろな児童文化財による実践・演習などの授業前後の準備・振り返りをする。</p> <p>このことについて、1時間以上の学修をすること。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」		馬見塚昭久/小倉直子	ミネルヴァ書房	2400+税	978-4-623-09251-2
	自由記載					
参考書	自由記載	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」				
【備考】						
令和4年度改訂						
【担当教員の実務経験の有無】						
無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】						
無						

授業科目名	子どもと表現		サブタイトル		授業番号	CP220
担当教員名	尾瀨 千咲 子X1 織田 典恵					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】 「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことが領域「表現」の目指すものである。領域表現に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現あそびや環境の構成などについて実践的に学ぶ。なお、本講義はディプロマ・ポリシーの<思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。						
【到達目標】 (1)幼児の表現の姿や、その発達を理解する。 1)幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。 2)表現を生成する過程について理解している。 3)幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。 (2)身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。 1)様々な表現を感じる・みる・きく・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 2)身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を活かした表現ができる。 3)表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 4)協働して表現することを通して、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 5)様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。						
【授業計画】						
第1回：「表現」と出会う（伝える・受け止める を通した表現の生成過程） ※（担当尾瀨千咲）						
第2回：「表現」と身体（生活と動きの気づき） ※（担当織田典恵）						
第3回：「表現」と音楽（自然の音を感じ、楽器で表現） ※（担当尾瀨千咲）						
第4回：「表現」と色・形（素材との出会い－素材の特性を活かして－） ※（担当上岡弘明）						
第5回：「表現」と身体（言葉と動きの工夫） ※（担当織田典恵）						
第6回：「表現」と音楽（身近な音を、楽器で表現） ※（担当尾瀨千咲）						
第7回：「表現」と色・形（自然との出会い－身近な自然との関わりを活かして－） ※（担当上岡弘明）						
第8回：「表現」と身体（音と動きの楽しみ） ※（担当織田典恵）						
第9回：「表現」と音楽（リズム遊びを展開） ※（担当尾瀨千咲）						
第10回：「表現」と色・形（描画材との出会い－描画の関わりを活かして－） ※（担当上岡弘明）						
第11回：幼児表現の特徴（みて、感じて、よみとる） ※（担当織田典恵）						
第12回：「表現」と身体（イメージと動きの味わい） ※（担当織田典恵）						
第13回：「表現」と音楽（楽器を使ってアンサンブル） ※（担当土師範子）						
第14回：「表現」と色・形（イメージとの出会い－言葉や物語との関わりを活かして－） ※（担当上岡弘明）						
第15回：ICTの活用と総括 ※（担当上岡弘明）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート	60%	「幼児の表現を支える」ことについて具体的に述べていること。			
	小テスト	40%	各回のポイントの理解を評価する。			
	定期試験					
自由記載	授業内での小課題（40%）、最終レポート(60%)での学びの成果を評価する。					
【受講の心得】 「感性や創造性を豊かにする」とはということなのかについて探求してほしい。						

【授業外学修】

1. 復習として課題を課すことがある。
2. 予習として資料を配布することがある。

以上の内容を週あたり4時間以上学修することが望ましい。

使用テキスト	自由記載	幼稚園教育要領, 保育所保育指針, 保幼連携型認定こども園教育・保育要領
参考書	自由記載	適宜提示する。
【担当教員の実務経験の有無】 有		
【担当教員の实務経験】 音楽教室主宰・NPO法人日本こども教育センターリトミック認定講師(織田典恵)		
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無		
【実務経験をいかした教育内容】 幼児におけるリトミックレッスン等の経験より, 子どもの表現活動の指導としての在り方及び指導方法を修得させる(織田典恵)		

授業科目名	子どもと健康指導法		サブタイトル		授業番号	CP313
担当教員名	子X3					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】						
演習形式で、領域「健康」に関する具体的な指導法や指導計画について学習する。 また、遊びに関わるだけでなく、安全教育、食育、小学校との接続を踏まえた指導について考えていく。						
【到達目標】						
幼児期の身体に関する問題は、多様化、複雑化している。保育所・幼稚園・認定こども園における幼児期の領域健康に関する具体的な指導内容について、方法とその具体的内容について理解することを目的とする。 子どもと健康の内容を踏まえ、ねらい及び内容に沿った指導方法と指導内容について学習する。また、実践における評価について学習する。 なお、本科目は、デュプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。なお、本科目はデュプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：領域「健康」のねらい及び内容の基本的な理解 第2回：領域「健康」のねらい及び内容を踏まえた指導上の留意点 第3回：領域「健康」の具体的指導場面（基本的生活習慣）の指導と幼児理解（ICT） 第4回：領域「健康」の具体的指導場面（集団遊び）の指導と幼児理解（ICT） 第5回：領域「健康」の具体的指導場面（ルールのある遊び）の指導と幼児理解（模擬保育） 第6回：領域「健康」の具体的指導場面（身体を動かして遊ぶ遊び）の指導と幼児理解（模擬保育） 第7回：領域「健康」の具体的指導場面（身体ふれあい遊び）の指導と幼児理解（模擬保育） 第8回：領域「健康」の具体的指導場面（用具を使用した遊び）の指導と幼児理解（模擬保育） 第9回：領域「健康」に関する安全指導と保健指導 第10回：食育に関する指導（3歳未満児を対象として） 第11回：食育に関する指導（3歳以上児を対象として） 第12回：乳幼児の病気とアレルギーに対する指導 第13回：特別な支援の必要な幼児における領域「健康」の指導 第14回：小学校を見通した領域「健康」における指導 第15回：領域「健康」における評価						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	授業への積極的な態度や取組について評価する。			
	レポート	20%				
	小テスト					
	定期試験	50%	領域「健康」の指導法に関する知識・理解について評価する。			
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】						
・乳幼児の健康に関する課題や問題について興味関心をもつこと。 ・保育における領域「健康」を踏まえた指導内容と指導方法について考えること。						
【授業外学修】						
1. 毎回、授業に使用するテキストを読み、授業内容の概要を理解すること。 2. 受講後は自身のノートの記載事項を1時間以上かけて整理し、分からないところを明確にしておくこと。 以上の内容を合わせて週4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					

授業科目名	子どもと人間関係指導法		サブタイトル		授業番号	CP315
担当教員名	廣畑 まゆ美					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】						
本科目は、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、領域「人間関係」の意図する目標、ねらい及び内容についての理解を深め、子どもが「人とかかわる力」を身に付けていくための保育者の援助・指導あり方および保育者の位置づけを明確にする。						
【到達目標】						
幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：領域「人間関係」とは(1)						
第2回：領域「人間関係」とは(2)						
第3回：人とのかかわりから見る乳幼児期の発達(1)						
第4回：人とのかかわりから見る乳幼児期の発達(2)						
第5回：遊びの中の人とのかかわりの育ち(1)						
第6回：遊びの中の人とのかかわりの育ち(2)						
第7回：人とのかかわりを支える「保育者の役割」(1)						
第8回：人とのかかわりを支える「保育者の役割」(2)						
第9回：人とのかかわりを支える「保育者の役割」(3)						
第10回：人とのかかわりで「ちょっと気になる子ども」(1)						
第11回：人とのかかわりで「ちょっと気になる子ども」(2)						
第12回：人とのかかわりを支え広げる実践(1)						
第13回：人とのかかわりを支え広げる実践(2)						
第14回：領域「人間関係」における今日の課題						
第15回：定期試験にむけて；これまでの講義の振り返り、試験のポイント解説、質疑応答						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	授業に対する積極性、予習・復習への取り組みなどにより評価する。			
	レポート	30%	テーマに沿って根拠とともに具体的に述べられているかを評価する。レポートは全体に対するフィードバックを行う。			
	小テスト					
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】						
【授業外学修】						
テキストの授業内容にかかわる予習をして、課題をもって授業に出席する。 授業終了後は、授業中に記録した内容をノートにまとめるなどして復習する。 このことについて、4時間以上の学修をすること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	人間関係の指導法 改訂第2版(保育・幼児教育シリーズ)		若月芳浩・岩田恵子編著	玉川大学出版部	2400+税	4472405644
	自由記載					
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】						
無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】						
無						

授業科目名	子どもと環境指導法	サブタイトル		授業番号	CP317
担当教員名	齊藤 佳子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

幼児は身近な環境や自然に好奇心や探求心をもって関わり、発見を楽しんだり考えたり、生活に取り入れる。本授業では、幼児を取り巻く「環境」を整理し、保育者としての指導に必要な基礎的な知識と技能を具体的な活動を通して体験的に学ぶ。また具体例を取り上げ、幼児の発達段階の特徴や興味・関心、遊びの発展や展開を踏まえた環境の構成の仕方と保育者の配慮、その環境で幼児がどのような活動をするかについて考える。

【到達目標】

- ・「環境」のねらいと内容についてポイントを押さえて解説することができる。
- ・「環境」の内容を具体的な事物を使いながら、子どもの活動をイメージすることができる。
- ・子どもたちに考えさせたり、工夫させたりするポイントを明確に指摘することができる。
- ・対象物の特性や使用する道具の使い方などの基礎知識を身につけ、どのように指導すればよいかを説明することができる。
- ・「環境」の活動の楽しさを実感し、子どもにどのように接すればよいかを話すことができる。
- ・具体的な指導計画を作ることができる

なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

【授業計画 備考】

- (1)領域「環境」の基礎知識の整理 (1)子どもを取り巻く環境 (2)ねらいと内容 (3)園の環境 (4)子どもの発達と環境
(2)実際に体験する活動
(3)工夫したり、調べる活動
(4)考える活動
(5)指導計画をつくる

第1回：・保育の基本と環境 ・子どもを取り巻く環境

第2回：・「環境」のねらい及び内容

第3回：・園の環境 ・子どもの発達と環境

第4回：・自然とふれあい感動する ・植物の栽培 (体験する活動) (調べる) (考える)

第5回：・物事の法則性に気づく (体験する活動) (調べる) (考える)

第6回：・季節感を味わう (体験する活動) (調べる) (考える)

第7回：・自然を取り入れて遊ぶ (体験する活動) (調べる) (考える)

第8回：・生き物との関わり ・生命の営みに触れる ・ダムゴムシ探しと飼育 (体験する活動) (調べる) (考える)

第9回：・身のまわりの物に愛着をもつ (体験する活動) (調べる) (考える)

第10回：・科学を体感する ・かいわれ大根の水栽培 (体験する活動) (調べる) (考える)

第11回：・数量・図形に親しむ (体験する活動) (調べる) (考える)

第12回：・標識や文字の必要性を育む (体験する活動) (調べる) (考える)

第13回：・園外の活動 ・身近な情報や施設を生かし、生活を豊かにする (体験する活動) (調べる) (考える)

第14回：・指導計画をつくる(1) ・指導形態とカリキュラム ・指導計画作成手順

第15回：・指導計画をつくる(2)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な姿勢、態度
	レポート	20%	授業ごとのレポート内容、ダムゴムシの飼育、かいわれ大根の水栽培
	小テスト		
	定期試験	60%	「環境」基礎知識 習熟度
	その他	10%	指導計画（指導案）の内容
	自由記載		・授業ごとに自分で感じたこと、工夫したこと、考えたことについてのレポートを作成して提出する。 ・基礎概念の理解度についての試験を実施する。

【受講の心得】

- ・授業に前向きに取り組み、考えたり、工夫しようとしている姿勢を重視する。

【授業外学修】

- ・日常的に環境を意識し，子どもの視点で美しいものや興味を引きそうなものを探し，ノートに記録する。
- ・身近なものを使い，子どもが喜びそうな工作を考える。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	実践例から学びを深める 保育内容・領域 環境指導法	小櫃 智子 編著	わかば社	1760円（本 体 1600+税）	9784907270339
	自由記載				
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					

授業科目名	子どもと言葉指導法		サブタイトル		授業番号	CP319
担当教員名	伊藤 智里					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位		
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>模擬保育・事例などを基に、体験したり、協議したりして領域「言葉」の視点から、幼児を理解したり、環境構成、指導上の留意点及び、保育の構想などを理解する。</p>						
【到達目標】						
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼稚園教育の基本，領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 ・ 領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ，幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 ・ 指導案の構造を理解し，具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ・ 模擬保育とその振り返りを通して，保育を改善する視点を身に付けている。 <p>なお，本科目はディプロマ・ポリシーにあげた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：幼児教育の基本を踏まえ，保育内容 領域「言葉」のねらい及び内容について 乳幼児の言葉の発達から人との関わり，非言語的なコミュニケーションの重要性について</p> <p>第2回：バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションを体験し理解と援助を探る</p> <p>第3回：言葉の遅れがある幼児や障害がある幼児などの援助について</p> <p>第4回：ごっこ遊びを通して，環境構成，保育者の援助，幼児理解などを探る</p> <p>第5回：生活や遊びの中で，幼児と保育者が児童文化財を作り使う過程を知り，領域との関連，情報機器や教材活用を理解する。</p> <p>第6回：生活や遊びの中で，幼児と保育者が児童文化財を作り使う過程を知り，幼児理解と指導の援助，評価を理解する。</p> <p>第7回：読む・書くを通しての遊びや環境構成を知り，保育の構想を考える</p> <p>第8回：読む・書くを通しての遊びや環境構成，指導上の留意点など理解する</p> <p>第9回：絵本・素話から劇遊びに発展した事例をもとに，指導の経過，保育の構想を理解する</p> <p>第10回：領域「言葉」と総合的な活動とのつながり：絵本・素話を通して，劇遊びに発展した事例をもとにねらい・内容，環境構成・指導上の留意点を理解する</p> <p>第11回：いろいろな児童文化財を利用し，どう保育に取り入れるかを考える</p> <p>第12回：いろいろな児童文化財を利用し，保育に取り入れ，指導案を作成する -グループ活動-</p> <p>第13回：いろいろな児童文化財を利用し，模擬保育を行う -グループ活動-</p> <p>第14回：いろいろな児童文化財を利用し，模擬保育，評価・改善を行う -グループ活動-</p> <p>第15回：幼児期の終わりまでに育ててほしい姿の中で，領域「言葉」との関係の深い「言葉による伝え合い」と他領域との関係（総合的な指導）など小学校とのつながりを考える</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	授業への積極的な取組，発表などによる評価			
	レポート	20%	提出物が課題・テーマに沿って具体的に述べられたり，整理されていたりする			
	小テスト					
	定期試験	70%	最終的理解度を評価する			
	その他					
	自由記載					

【受講の心得】

授業は自ら学ぶ姿勢でのぞむとともに、具体的な指導を想定して保育を構想する方法を身に付けることができるよう主体的に受講する。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	

【備考】

令和4年度改訂

【担当教員の実務経験の有無】

無

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

授業科目名	子どもと表現指導法	サブタイトル		授業番号	CP321
担当教員名	尾瀨 千咲 子X1 織田 典恵				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】					
幼児教育において育みたい資質能力を理解し、領域「表現」のねらい及び内容について、関連する専門領域に触れながら、幼児の発達に即して、深い学びが実現する課程を踏まえ、具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身につける。					
【到達目標】					
(1)幼児教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 1)幼児教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2)領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。 3)幼児教育における評価の考え方を理解している。 4)領域「表現」に関わる幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び小学校の教科とのつながりを理解している。 (2)幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 1)幼児の心情、認識、思考及び動きなどを視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 2)領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。 3)指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4)模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。 5)領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：領域「表現」のねらい及び内容 –幼稚園教育要領・保育所保育指針をもとに– ※ (担当尾瀨 千咲)					
第2回：「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点 (形, 色, 手触り) (2歳児未満) ※ (担当上岡 弘明)					
第3回：「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点 (音) (2歳児未満) ※ (担当尾瀨 千咲)					
第4回：「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点 (動き) (2歳児未満) ※ (担当織田 典恵)					
第5回：「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点 (形, 色, 手触り) (3歳児～6歳児) ※ (担当上岡 弘明)					
第6回：「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点 (音) (3歳児～6歳児) ※ (担当尾瀨 千咲)					
第7回：「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点 (動き) (3歳児～6歳児) ※ (担当織田 典恵)					
第8回：具体的な指導場面と保育構想 (形, 色, 手触り) ※ (担当上岡 弘明)					
第9回：具体的な指導場面と保育構想 (音) ※ (担当尾瀨 千咲)					
第10回：具体的な指導場面と保育構想 (動き) ※ (担当織田 典恵)					
第11回：指導案の構造と作成 ※ (担当織田 典恵)					
第12回：模擬保育と振り返り (形, 色, 手触り) ※ (担当上岡 弘明)					
第13回：模擬保育と振り返り (音) ※ (担当尾瀨 千咲)					
第14回：模擬保育と振り返り (動き) ※ (担当織田 典恵)					
第15回：ICTの活用と表現の発達 (小学校との関連) ※ (担当上岡 弘明)					

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度		
	レポート	60%	領域「表現」に関わる保育について具体的に記述していること。
	小テスト	40%	各回のポイントの理解を評価する。
	定期試験		
	その他		
	自由記載	授業内での小課題（40%），最終レポート(60%)での学びの成果を評価する。	
【受講の心得】 「感性や創造性を豊かにする」とはどういうことなのかについて探求してほしい。			
【授業外学修】 1. 復習として課題を課すことがある。 2. 予習として資料を配布することがある。 以上の内容を週あたり4時間以上学修することが望ましい。			
使用テキスト	自由記載	幼稚園教育要領，保育所保育指針，保幼連携型認定こども園教育・保育要領	
参考書	自由記載	適宜提示する。	
【担当教員の実務経験の有無】 有			
【担当教員の実務経験】 音楽教室主宰・NPO法人日本こども教育センターリトミック認定講師(織田典恵)			
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無			
【実務経験をいかした教育内容】 幼児におけるリトミックレッスン等の経験より，子どもの表現活動の指導としての在り方及び指導方法を修得させる(織田典恵)			

授業科目名	保育内容総論		サブタイトル		授業番号	CP207
担当教員名	子X3					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】						
乳幼児の発達と保育内容の目標を関連付け、5領域のねらい及び内容を理解するとともに、保育の全体的な構造を理解するとともに小学校以降の教育との関連について理解する。また、指導計画について理解し、園生活全体を通して総合的な指導を行うことを理解し、幼児の姿と関連付けて考えることができる。						
【到達目標】						
1. 子どもの発達と保育の目標とを関連付けたうえで、保育内容を理解するとともに、保育の全体的な構造を理解する。 2. 保育内容の歴史の変遷について学び、保育内容について理解する。 3. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開と5歳児後半から小学校のカリキュラムとの接続について、具体的な保育実践と関連付けて理解する。 4. 保育の多彩な展開について具体的に学ぶ。なおこの科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解><思考・問題解決>の習得に貢献する。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】						
各回のテーマについての基本的事項の理解を深める。さらに、保育内容と保育の構造について総合的に学ぶとともにその具体的な内容についてワークシート等の利用により、グループ討議を実施する。						
第1回：保育の基本及び保育内容（5領域）の理解 第2回：保育の全体構造と保育内容（5領域）の関連 第3回：保育内容の歴史の変遷 第4回：子どもの発達の特性と保育内容（5領域） －乳幼児保育，満1歳以上3歳未満児－ 第5回：子どもの発達の特性と保育内容（5領域）－3歳以上児，異年齢－ 第6回：個と集団の発達と保育内容（5領域） 第7回：保育における観察と記録 第8回：養護と教育が一体的に展開する保育の在り方 第9回：環境を通して行う保育の在り方 第10回：遊びによる総合的な保育の在り方（5領域の関連） 第11回：遊びや発達の連続性に考慮した保育の在り方 第12回：家庭，地域との連携をふまえた保育－長時間保育含む－ 第13回：小学校との連携をふまえた保育の在り方 第14回：特別な支援を必要とする子どもの保育の在り方 第15回：多文化共生の保育						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	事前学習，テキストの理解，意見交換などに積極的に取り組めたかを評価する。			
	レポート	20%	自主的にワークシートを提出したかを評価する。			
	小テスト					
	定期試験	50%	振り返りシートを中心に総合的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載	期末試験・レポート（70%），受講態度（30%）により総合的に評価する。				
【受講の心得】						
発表やグループ討議など，主体的に参加すること。そのための予習，復習を欠かさないこと。						

【授業外学修】

事前学習をして授業に臨む。

授業後は振り返るシートを必ず記入する。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ 保育内容総論	開 仁志 編著	保育出版社	2270円+税	987-4- 905493- 19-8
	自由記載				
参考書	自由記載	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領			

授業科目名	保育計画I		サブタイトル		授業番号	CQ216
担当教員名	子X3					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】						
幼稚園、保育所、認定こども園等がどのような計画に基づいて保育を行っているのかについて、その意義や必要性を説明する。乳幼児の発達の特徴や各年齢にふさわしいカリキュラムについて検討する。さらに、理論的な知識をもとに、実践的な保育技術についての具体的な手法を知り、実践発表を通してスキルを身につけられるよう、保育の計画との関係性を明らかにする。						
【到達目標】						
1, 乳幼児の発達の特徴を理解し、各年齢にふさわしいカリキュラムを立案できる。 2, 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と実践的な方法について身につけられる。 3, 乳幼児にふさわしい生活や遊びの時間を構造化し、具体的な遊びや生活習慣について理解できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：保育における計画の意義 第2回：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要 第3回：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置づけ 第4回：指導計画の全体構造について 第5回：部分指導案の考え方と作成(1) 第6回：部分指導案の考え方と作成(2) 第7回：0歳児の指導計画と、遊びのプログラム開発・実践 第8回：1歳児の指導計画と、遊びのプログラム開発・実践 第9回：2歳児の指導計画と、遊びのプログラム開発・実践 第10回：3歳児の指導計画と、遊びのプログラム開発・実践 第11回：4歳児の指導計画と、遊びのプログラム開発・実践 第12回：5歳児の指導計画と、遊びのプログラム開発・実践 第13回：3歳未満児の生活と指導計画 第14回：3歳以上児の生活と指導計画 第15回：小学校との接続について						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	20%	乳幼児の発達の特徴や、各年齢に応じた保育計画を理解し、幅広い視野で考えられること。提出する指導案・レポートについてはコメントを記入して返却する。			
	小テスト	50%	保育計画に関わる知識・理解について評価する。			
	定期試験					
	その他 自由記載					
【受講の心得】						
子ども理解に努め、柔軟な発想で遊びのレパートリーを増やせるように心がけ、練習を怠らないこと。 指導案を作成する練習を積極的に行うこと。						
【授業外学修】						
1, 次回授業までに、毎回授業終了時に出す課題を行い、練習すること。 2, 指導案作成の課題については、実際にシミュレーションし、様々な角度から突き詰めて検討すること。 以上の内容を、週当たり2時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』		内閣府・文部科学省・厚生労働省	チャイルド本社	本体500円＋税	9784805402283
	自由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府 フレーベル館				
参考書	自由記載	適宜紹介する。				

授業科目名	保育計画II		サブタイトル		授業番号	CQ317
担当教員名	子X3					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】						
指導計画の作成の在り方や評価の基礎的理論を説明する。また、基本的な理論を理解した上で、各グループで作成した指導案に沿って模擬保育を実施する。その模擬保育を通して具体的な指導方法を身につけ、「その遊びによって何が育つのか」「ねらいに対する保育者の関わりや配慮、援助」を分析しながら子どもの発達にふさわしい豊かな遊びを検討し、提案できるよう解説する。						
【到達目標】						
1, 指導計画の作成について具体的に理解できる。 2, 子どもの発達の過程や特徴の理解を基にして、子どもの育ちを見通した質の高い指導計画を立案できる。 3, 計画、実践、省察・評価、改善の過程について、その全体構造をとらえ、実践できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：幼稚園の教育課程の編成の基本原則と方法 第2回：保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原則と方法 第3回：長期・短期指導計画の作成について (1)年間指導計画(2)期間指導計画(3)月間指導計画(4)週間指導計画(5)日案の作成について 第4回：幼稚園の指導計画の作成 第5回：保育所・認定こども園の指導計画の作成 第6回：様々な指導計画（個別の支援計画、異年齢編成による指導計画、行事の指導計画等） 第7回：保育の評価について 第8回：指導案の作成（グループワーク） 第9回：模擬保育の観察と記録 第10回：作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ1・2） 第11回：作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ3・4） 第12回：作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ5・6） 第13回：作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ7・8） 第14回：作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ9・10） 第15回：模擬保育及び全体を通しての評価と改善						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度、発表・討議・模擬保育への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	20%	提出する指導案複数（40%）と模擬保育についてのレポート（40%）の内容を評価する。指導案、レポートについてはコメントを記入して返却する。			
	小テスト					
	定期試験	50%	保育計画に関する知識・理解について評価する。			
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
グループ内で協力し、積極的に発言や発表を行い、自ら学ぶ姿勢で臨むこと。 指導案を作成する練習を積極的に行うこと。 模擬保育の準備、練習を怠らないこと。						
【授業外学修】						
1, 指導案作成の課題については、実際にシミュレーションし、様々な角度から突き詰めて検討すること。 2, 模擬保育については、グループ内で協力し合い、準備・練習を入念に行うこと。 以上の内容を、週当たり2時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』チャイルド本社 『幼稚園教育要領解説書』フレーベル館 『保育所保育指針解説書』フレーベル館				
参考書	自由記載	『遊びの指導』幼少年教育研究所 同文書院 その他、適宜紹介する。				

授業科目名	子どもと楽器		サブタイトル		授業番号	CN204
担当教員名	尾瀧 千咲					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】						
幼稚園教育要領等について講義を行う。子どもが豊かな音楽表現をするために楽器の種類を知る。教育（保育）現場で望ましい楽器指導を行えるようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解をする。また、楽器の扱いや奏法、応用の仕方について学ぶ。子どもの想像力を広げ、身体を使った音楽あそびを通して、「表現の楽しさ」を教える。子どもの発達段階に応じて、楽器を使用し、表現の幅を広げる指導の方法を学ぶ。						
【到達目標】						
子どもの発達に応じた楽器を理解する。言葉や身体を使ってリズムの理解ができるようになる。楽器やリズムの楽しさを理解する。子どもに「表現の楽しさ」を教えるには、指導者（保育者）自身がまず、集中して音に耳を傾ける事ができ、子どもの気持ちになって、生き生きと表現することを楽しむことができるようになることが大切である。そして、それらを教育（保育）現場で生かすことができる知識を身に付けることを目標とする。						
なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：領域「表現」と楽器の関係 第2回：様々な楽器の演奏と指導法 第3回：子どもが使用する楽器 第4回：子どもが使用する楽器と楽曲（3，4歳児） 第5回：子どもが使用する楽器と楽曲（5，6歳児） 第6回：楽器と合奏 第7回：合奏法とその留意点 第8回：日本の楽器（1） 第9回：日本の楽器（2） 第10回：日本の楽器と指導法（1） 第11回：日本の楽器と指導法（2） 第12回：世界の楽器（1） 第13回：世界の楽器（2） 第14回：生活と楽器（1） 第15回：生活と楽器（2）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度、発表・グループ課題への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	30%	出された課題で問われている事の意味が理解でき、それに合った内容を述べているかを評価する。			
	小テスト	30%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験					
	その他 自由記載					
【受講の心得】						
子ども、指導者の、教育（保育）現場での気持ちを想像する事。 音を出す時、出さない時のメリハリを大切にすること。 学ぶ者同士、お互いに、良い所を認め合う事。 日常生活の中でも、さまざまな音やリズム遊びの要素を発見し、実践できるようにすること。						
【授業外学修】						
1. 予習として、子どもの楽器について調べる。 2. 復習として、授業内容を実際の保育現場をイメージして実践する。または、授業の内容を踏まえて課題を行うことで復習とする。 3. 発展学習として、ピアノなどの楽器や、リズムの練習をする。または、単発の授業ではなく、それぞれの講義内容が繋がっていることを踏まえ、授業の内容を理解、発展させていく。						
以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。						

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト					
	自由記載	講義ごとに必要なプリントを配布します。			
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】					
無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					

授業科目名	保育者論	サブタイトル		授業番号	CP204
担当教員名	子X3				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

保育者は日々の保育実践に関し、主体的且つ同僚と対話的に深い学びをしつつ自らの資質向上に努めなければならない。このことを踏まえ、保育者の基本的な資質と役割について学び、自らの専門性を向上させる意欲の涵養を目指す学習をする。特に保育の本質、保育者になる構えといった学び続ける保育者としての事項を学習する。

【到達目標】

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は学習指導要領に記されている学習内容に比べ抽象的且つ曖昧である。すなわち、保育者は、この法令を踏まえ教育・保育課程の作成と日々の保育を工夫し、自らよりよい実践のために学び続ける意欲と資質向上を目指す意思の基礎を培うことを目的とする。保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を踏まえ、日々の保育を子どものために工夫することのできる実践を探る力と、それを実践できる保育者としての資質・能力を向上させることができる。なお本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解><思考・問題解説能力>に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：保育者になるということは
- 第2回：保育の本質
- 第3回：保育者の子ども観（対象：0歳～3歳未満）
- 第4回：保育者の子ども観（対象：3歳以上～就学前）
- 第5回：豊かな環境をつくる保育者
- 第6回：保育の展開と評価（保育課程）
- 第7回：保育の展開と評価（教育課程）
- 第8回：保育者の協働
- 第9回：小学校と連携する保育者
- 第10回：小学校との連携
- 第11回：専門職、他の機関との連携
- 第12回：保育者のキャリア形成と生涯発達
- 第13回：法令で定められた保育者の責務
- 第14回：歴史から学ぶ保育者の在り方
- 第15回：子育て環境と保育者の役割

【授業計画 備考2】

事前学習・意見発表・グループ討議などを取り入れて、学生自身の保育観の自覚を促していく方法をとる。

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な学習態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
レポート	20%	授業で提示される課題について、授業内容に関連させ、自分の考えを具体的に述べている。	
小テスト			
定期試験	50%	本科目の総合的な理解度を評価する。	
その他			
自由記載	提出物（レポートを含む）20%、授業への取組30%、試験50%		

【受講の心得】

講義の前に本日のテーマを学習しておくこと。
 保育者としての自分の在り方を探求するために、自分の考えを発表し他の意見を吸収するなど積極的な受講態度を望む。

【授業外学修】

- ・テキスト以外の各テーマに関連した情報を収集すること。
- ・授業時には自分の考えや他者の考えを踏まえて発表したり，討議したりする。
- ・できるだけ幼児と触れ合う経験を積み重ね，社会における保育の課題や保育者の資質について自主的に調べること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	シードブック改訂『保育者論』	榎田二三子・大沼良子・増田時枝	建帛社	2000円+税	978-4-7679-3295
	自由記載	シードブック改訂『保育者論』榎田二三子・大沼良子・増田時枝 編著，建帛社			
参考書	自由記載	保育所保育指針解説書・幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 他適宜紹介する。			

授業科目名	幼児理解の理論と方法		サブタイトル		授業番号	CN212
担当教員名	國田 祥子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位		
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 この授業では、特に乳幼児期における子ども達の発達支援に必要な理論および技法について、発達心理学および臨床心理学の観点から解説する。						
【到達目標】 乳幼児期の子ども達の発達支援に必要な知識および技能を身につける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：幼児理解とは 第2回：幼児の発達の理解 第3回：保育における理解と援助 第4回：幼児の観察 第5回：保育カンファレンス(1) 第6回：保育カンファレンス(2) 第7回：保育カウンセリング 第8回：中間のまとめ 第9回：障害のある幼児の理解(1) 第10回：障害のある幼児の理解(2) 第11回：障害のある幼児の理解(3) 第12回：発達臨床の現場 第13回：発達臨床にかかわる人々 第14回：家庭支援における幼児理解 第15回：期末のまとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	100%	理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 積極的な受講態度を期待します。						
【授業外学修】 毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新しい保育講座(3) 子ども理解と援助		高嶋景子・砂上史子(編著)	ミネルヴァ書房	2200円	9784623085316
自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる臨床発達心理学 第4版		麻生 武・浜田寿美男(編)	ミネルヴァ書房	2800円	978-4-623-06326-0
自由記載						
【担当教員の実務経験の有無】 無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						

子ども学部 子ども学科
小学校教諭一種免許状

授業科目名	国語	サブタイトル		授業番号	CO201
担当教員名	小川 孝司				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

小学校教員免許の取得に関係して、小学校学習指導要領（平成29年告示）に示されている小学校国語科教育の目標及び内容等について、教科書に掲載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の教材をもとに具体的に理解し、授業力の基礎を身に付ける。

グループによる話し合い等を通して、各教材の特質を理解するとともに、教材の見方や教材研究の素地を養う。

【到達目標】

教科書に掲載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の教材等を分析することを通して、各教材の特質を理解するとともに、小学校学習指導要領（平成29年告示）に示されている小学校国語科の目標及び内容を具体的に理解できるようにする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

【授業計画 備考】

一斉学習と小グループでの活動により授業を行う。

- 第1回：本科目を学ぶ目的（言葉の働き）
- 第2回：国語科教育と国語教育
- 第3回：文学的文章の指導（虚構と仕掛け）
- 第4回：文学的文章の指導（装置に反応する読者）
- 第5回：「書くこと」の学習過程
- 第6回：実用的文章を書く指導
- 第7回：生活文を書く指導
- 第8回：「話すこと・聞くこと」の指導（話し合うこと）
- 第9回：「話すこと・聞くこと」の指導（スピーチ）
- 第10回：説明的文章の特質（筆者が伝えたいこと）
- 第11回：説明的文章の特質（説得性と潤色の表現）
- 第12回：説明的文章の特質（論理的思考力）
- 第13回：読書指導の目的と方法
- 第14回：「主体的・対話的で深い学び」の趣旨と学習過程
- 第15回：「主体的・対話的で深い学び」に沿った授業改善

【授業計画 備考2】

補講や天候等により授業内容が前後したり変更したりする場合がある。

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	予習への取り組み、意欲的な学習態度や話し合い活動への参加を評価する。
レポート	30%	授業ごとの学習内容の定着度を評価する。	
小テスト			
定期試験	50%	最終的な学習内容の定着度を評価する。	
その他		授業時に作成する課題等によって評価する	
自由記載		レポートは、予習した内容や資料を写すのではなく、その授業において深まった内容や考えたことを記述するよう努力する。	

【受講の心得】

配布資料及びレポートは、整理してファイルしておくこと。

学生相互による話し合い活動では、積極的に参加し互いに考えを深めること。

【授業外学修】

1. 予習として、資料や課題に示された教科書の部分を読み、レポートにまとめ提出すること。
2. 使用した教材をきっかけに、関連する教科書教材に関心を広げること。
3. 日常的に読書に親しむこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校国語科授業研究 第五版	田近洵一・中村和弘他	教育出版	2000円+税	ISBN978-4-316-80465-1
	自由記載				
参考書	自由記載				

【担当教員の実務経験の有無】

有

【担当教員の实務経験】

岡山市公立小学校，岡山大学教育学部附属小学校

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

小学校学習指導要領の理解，教材分析

授業科目名	社会		サブタイトル		授業番号	CO209
担当教員名	紙田 路子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】 小学校社会科は、社会生活（私たちの日々の生活）を広い視野からとらえ総合的に理解することをとおして、市民としての資質（公民的資質）の基礎を養うことを教科の目標としている。小学校社会科を指導する際、身につけておくべき基礎的な内容（地理・歴史・政治・経済等）を概説する。						
【到達目標】 小学校社会科を指導する際に必要な基礎的な学力・知識を身に付ける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：小学校社会科の目標と内容 第2回：小学校社会科の特色と関連専門諸科学 第3回：地理的分野の基本的事項(1) 第4回：地理的分野の基本的事項(2) 第5回：地理的分野の基本的事項(3) 第6回：地理的分野の演習問題 第7回：歴史的分野の基本的事項(1) 第8回：歴史的分野の基本的事項(2) 第9回：歴史的分野の基本的事項(3) 第10回：歴史的分野の演習問題 第11回：公民的分野の基本的事項(1) 第12回：公民的分野の基本的事項(2) 第13回：公民的分野の基本的事項(3) 第14回：公民的分野の演習問題 第15回：社会認識について						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な授業への参加態度、グループワーク等の参加状況、毎回のミニレポートによって評価する。ミニレポートは次回にコメントをつけて必ず返却する			
	レポート	30%	社会科の目標、内容、方法について自分なりに理解し、具体的な事例を挙げながら説明できているかについて評価する。課題やレポートについてはコメントをつけて返却する。レポートにはコメントをつけて返却する。			
	小テスト					
	定期試験	40%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 社会科は社会的事象を教材とする教科である。日常から新聞、ニュース、雑誌、書籍等の情報に留意することが必要である。						
【授業外学修】 1. 予習として、次時の授業内容の教科書を読み、それに関わる情報を新聞、ニュース、雑誌等から集めておく。 2. 復習として、課題のレポートを書く。 3. 発展学習として、地域で社会科教育に関連すると思われる活動に参加して、自分の見解を述べられるようにする。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	小学校学習指導要領解説 社会編	文部科学省	東洋館出版社		4491031606	
	自由記載					
参考書	自由記載	授業において随時紹介する。				
【担当教員の実務経験の有無】 有						
【担当教員の实務経験】 小学校教諭，中学校講師						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						
【実務経験をいかした教育内容】 小・中学校における教育現場経験を生かし、主体的、対話的で深い学びを実現する社会科授業について授業を行う。						

授業科目名	算数	サブタイトル		授業番号	CO202
担当教員名	姫野 俊幸				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

小学校学習指導要領における算数科の目標及び各領域、各学年の内容、系統性について理解するとともに、具体的な授業場面において、どのように指導するのか、どのように評価するのかについても考えていく。

【到達目標】

- 1) 小学校学習指導要領における算数科の目標及び主な内容について理解する。
 - 2) 算数科の各領域、各学年の学習内容と指導上の留意点について理解する。
 - 3) 算数科の学習評価の考え方を理解する。
 - 4) 算数科の背景となる数学とのつながりを理解し、教材研究に活用しようとする。
- なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：科目を学ぶ意義，算数を学ぶ意味
 第2回：数と計算領域（1）数の概念と表記，自然数
 第3回：数と計算領域（2）数の把握，数の表記
 第4回：数と計算領域（3）たし算，ひき算，かけ算，わり算
 第5回：数と計算領域（4）小数，分数
 第6回：数と計算領域（5）各学年における数の学び
 第7回：図形領域（1）基本的な平面図形，立体図形，垂直や平行の関係
 第8回：図形領域（2）面積，体積
 第9回：測定領域（1）量と測定
 第10回：測定領域（2）量と測定の指導
 第11回：変化と関係領域（1）異種の量の割合
 第12回：変化と関係領域（2）関数の考え
 第13回：データの活用領域（1）統計と確率
 第14回：文章題，問題解決
 第15回：学習評価，数学的活動，数学的な見方・考え方，数学的リテラシー

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢/態度	15%	意欲的な学習態度，発表・討議への取り組みの姿勢を評価する。
	レポート	30%	「授業からの学び」と「自分の気づき」を評価する。
	小テスト	40%	前回の授業の主要な内容の理解を評価する。
	定期試験		
	その他	15%	ノートのまとめ方を評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

授業のはじめに小テストを行うので，前時の復習をして授業に臨むこと。
 自分が小学校で経験した算数科の授業を想起しながら，実際に問題を解いたり，教え方を考えたりすること。

【授業外学修】

- 1 配付資料や小テスト等を整理して，本時の講義内容をノートにまとめ復習する。
 - 2 発展学習として，授業で興味を持った内容について調べ深める。
- 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校学習指導要領解説 算数編	文部科学省	文部科学省	242円	9784491015507
	小学校算数科教科書1年～6年		啓林館		
	自由記載				
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の実務経験】 公立小学校教諭，教頭，校長，教育委員会事務局					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 公立小学校，教育委員会事務局等での実務経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。					

授業科目名	理科	サブタイトル		授業番号	CO210
担当教員名	佐々木 弘記				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について概括するとともに、中学・高校での物理・化学・生物・地学領域の学習内容との関連について学修する。また、小学校理科の授業運営に必要な教材研究の方法について習得する。

【到達目標】

小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について、関連した物理・化学・生物・地学領域の知識を身に付ける。また、小学校理科の授業運営に必要な教材研究の技能を習得する。

なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：光の性質
- 第2回：力のつり合い
- 第3回：圧力と浮力
- 第4回：仕事と仕事率
- 第5回：力学的エネルギー
- 第6回：電流と電圧
- 第7回：電力と電力量
- 第8回：ものの溶け方，気体の性質
- 第9回：燃焼と酸化・還元，電気分解
- 第10回：化学反応と物質質量
- 第11回：生物の分類
- 第12回：体のしくみ
- 第13回：遺伝のしくみ
- 第14回：地層の成り立ち
- 第15回：地震と災害

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度，実験・観察に取り組む態度，予習・復習の状況によって評価する。
	レポート	10%	レポートの内容と提出状況によって評価する。
	小テスト	20%	各回の主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。
	その他		
自由記載			

【受講の心得】

毎回、授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。また、返却された小テストは、ノートに貼付し、復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。
- 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省	東洋館出版	111	
	自由記載	小学校理科教科書 3～6年, 「小学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省			
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の実務経験】 公立中学校理科教諭, 県教育センター (佐々木弘記)					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 学校, 教育センター等での経験を生かして, 教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。					

授業科目名	生活		サブタイトル		授業番号	CO203
担当教員名	池原 繁延					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】						
【授業の概要】 生活科の目標・内容・指導法などの基本を学習する。その過程で、生活科の本質について理解を深め、実際の授業にどのように反映するかを考える。						
【到達目標】						
【到達目標】 (1)生活科の目標・内容・指導法など概要について理解することができる。 (2)生活科の本質、特に「気づきの質を高める」ための基礎的な指導法について理解することができる。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】						
【授業計画 備考】 (1)生活科の教科書に沿って単元ごとに具体的な授業内容をイメージし指導のポイントを把握する。 (2)各単元と学習指導要領の内容を結びつけながら、生活科の本質について基礎的な内容を習得できるように、実際の小学校における授業場面をイメージしながら学習を進める。						
第1回：(1)単元「春だ今日から2年生」小単元「校ていで春をさがそう」授業検討(2)「比較」について (3) 板書方法 (4) 教科書の活用方法 (5) 活動に入る前の留意点						
第2回：(1)単元「春だ今日から2年生」小単元「春のまちを歩こう」授業検討 (2)「比較」について (3) 気づきの質を高めるための配慮事項						
第3回：(1)単元「ぐんぐんそだてわたしの野さい」小単元「野さいをそだてよう」「野さいのせわをしよう」授業検討 (2) 表現活動の工夫について						
第4回：(1)単元「ぐんぐんそだてわたしの野さい」小単元「野さいのようすをつたえ合おう」「野さいをしゅうかくしよう」授業検討 (2)飼育・栽培活動を進めるうえで、具体的な注意点						
第5回：(1)単元「ときどきわくわくまちたんけん」小単元「まちのことを話そう」「たんけんの計画を立てよう」「まちをたんけんしよう」授業検討 (2) 表現活動の工夫や手立て (3) 「安全面」について(4)指導要領生活科 内容1について						
第6回：(1)単元「生きものなかよし大作せん」小単元「生きものをさがそう」「生きものをそだてよう」授業検討 (2)「生活科の学習と自然環境」について(3)指導要領生活科 内容2について						
第7回：(1)単元「うごく うごくわたしのおもちゃ」小単元「うごくおもちゃをつくろう」「もっとよくうごくおもちゃにしよう」授業検討 (2)「児童の活動のみ取り方、記録の取り方」について(3)指導要領生活科 内容3について						
第8回：(1)単元「みんなでつかうまちのしせつ」小単元「図書館をつかおう」授業検討(2)教科書の活用について(3)指導要領生活科 内容4について						
第9回：(1)単元「もっとなかよしまちたんけん」小単元「もういちどたんけんに行こう」「まちの人に聞きに行こう」「分かったことを話し合おう」授業検討 (2)「保護者、地域人材の活用」について(3)指導要領生活科 内容5について						
第10回：(1)「つながる広がるわたしの生活」小単元「つたえたいなまちのすてき」授業検討 (2) 内容とポイント「学校と生活」「家庭と生活」「地域と生活」について(3)指導要領生活科 内容6について						
第11回：(1)単元「つながる広がるわたしの生活」小単元「まちの人をしょうたいしよう」授業検討 (2)内容とポイント「公共物や公共施設の利用」「季節の変化と生活」「自然や物を使った遊び」について(3)指導要領生活科 内容7について						
第12回：(1) 単元「あしたヘジャンプ」小単元「大きくなった自分のことをふりかえろう」授業検討 (2) 内容とポイント「動植物の飼育栽培」「生活や出来事の伝え合い」「自分の成長に」について(3)指導要領生活科 内容8・9について						
第13回：(1)単元「あしたヘジャンプ」小単元「大きくなった自分のことをしらべよう」授業検討 (2)「年間指導計画の作成」について						
第14回：(1)単元「あしたヘジャンプ」小単元「自分のことをまとめよう」授業検討 (2)「主体的・対話的で深い学びにの実現」について						
第15回：(1)単元「あしたヘジャンプ」小単元「ありがとうの気持ちをつたえよう」授業検討 (2)「幼児教育との連携、中学年以降との接続」について						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	60%	発表内容、意欲的な授業態度			
	レポート	40%	課題に対する授業内容に沿った具体的な例を挙げたレポートであること。なお、レポート提出後の授業で全体的な傾向についてコメントを行う。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】						
【受講の心得】 小学校で実際に授業ができるよう、より具体的なイメージをもって授業に臨むこと。						
【授業外学修】						
(1)身近な自然に親しみ、植物や動物を観察しながら、地域を散策すること。 (2)身近な生活から、生活科の授業にいかせる教材を発見する取り組みをすること。						
使用テキスト	自由記載	教材用プリント				
参考書	自由記載	東京書籍 新しい生活 下・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編				
【担当教員の実務経験の有無】						
有						

【担当教員の実務経験】 小学校教諭・管理職
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無
【実務経験をいかした教育内容】 実際の小学校の授業に生かせるポイントを押さえた教育内容

授業科目名	音楽	サブタイトル		授業番号	CO204
担当教員名	川崎 泰子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

小学校音楽科における音楽科教育の意義を理解するとともに、授業を構成するために必要な知識や基礎的な技能等について学ぶ。

【到達目標】

小学校音楽科の授業を行うために必要な、基礎的な知識や技能を身に付ける。そのために「器楽・歌唱・創作」における基礎的要素を確認し、それらを応用する知識を身につけ、各人の技能に応じた伴奏法の工夫が出来るようになる。
 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：小学校における音楽科教育の目標と内容
- 第2回：教科の目標と学習指導要領
- 第3回：表現－歌唱、器楽、創作－ 1年生
- 第4回：表現－歌唱、器楽、創作－ 2年生
- 第5回：表現－歌唱、器楽、創作－ 3年生
- 第6回：表現－歌唱、器楽、創作－ 4年生
- 第7回：表現－歌唱、器楽、創作－ 5年生
- 第8回：表現－歌唱、器楽、創作－ 6年生
- 第9回：鑑賞教材－1, 2年生
- 第10回：鑑賞教材－3, 4年生
- 第11回：鑑賞教材－5, 6年生
- 第12回：音楽理論の確認と伴奏法
- 第13回：「器楽・歌唱・創作」と教材・教具の工夫
- 第14回：共通教材確認-MLでの活動をとおして-
- 第15回：コンピュータを使った授業の工夫

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な学習態度、予習及び復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	30%	各回の主要なポイントの理解を評価する。実技を含む。
	定期試験	30%	最終的な理解度を評価する。
	その他	20%	課題の理解度から評価する。添削後返却する。
自由記載	小テストでは実技も伴うため、授業中に行われる実技ポイントを理解しておくこと。		

【受講の心得】

小学校教員への教職意識を持つこと。
 授業内で適宜小テスト（実技を含む）を行うので、前時間の復習をして授業に臨むこと。
 配布されたプリントや資料を整理しておくこと。

【授業外学修】

授業で提示される次回の内容について、予習すること。
 課題を実施すること。
 上記を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集	大海由佳他	学研プラス	1,600	978-4-05-154195-8
	小学校音楽科教育法		教育芸術社		
	自由記載	小学校音楽1～6年（教育芸術社）			
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】					
有					
【担当教員の実務経験】					
公立小学校，中学校，私立中学，私立高校講師・公民館講座講師，少年少女合唱団主宰，数々の学校にて歌唱指導。					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					
【実務経験をいかした教育内容】					
実務経験を活かし，学校現場の体験を通して得た知識を伝えると共に，小学校音楽科教育に求められる専門的な知識・技能を深め，学習指導力，実践的な音楽実技指導力の向上に努める。					

授業科目名	図画工作	サブタイトル		授業番号	CO205
担当教員名	子X1				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

この講義では、小学校図画工作科で行われる教科書題材を取り上げながら、実際の活動を通して、「造形的な見方・考え方」について身につけることを目的とする。

【到達目標】

(1)「造形的な見方・考え方」を理解する。

1-1)表現及び鑑賞の活動を通して「造形的な見方・考え方」に関して深い認識をもつことができる。

1-2)「感性」や「想像力」をもとに思考することができる。

1-3)自分にとって新しいものやことをつくりだすように発想や構想することができる。

2)表現及び鑑賞の活動を通して、子どもの表現を支えるための感性を豊かにする。

2-1)自分らしく、創造的に表現活動をすることができる。

2-2)「造形的な視点」について理解することができる。

2-3)材料や用具の適切な使用方法について理解することができる。

2-4)表し方などの工夫について理解することができる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：表現と鑑賞とは

－図画工作科の目的と内容－

第2回：図画工作科におけるICT活用

第3回：低学年における表現と鑑賞1

－造形あそび－

第4回：低学年における表現と鑑賞2

－絵にあらわす－

第5回：低学年における表現と鑑賞3

－立体にあらわす－

第6回：低学年における表現と鑑賞4

－工作にあらわす－

第7回：中学年における表現と鑑賞1

－造形あそび－

第8回：中学年における表現と鑑賞2

－絵にあらわす－

第9回：中学年における表現と鑑賞3

－立体にあらわす－

第10回：中学年における表現と鑑賞4

－工作にあらわす－

第11回：高学年における表現と鑑賞1

－造形あそび－

第12回：高学年における表現と鑑賞2

－絵にあらわす－

第13回：高学年における表現と鑑賞3

－立体にあらわす－

第14回：高学年における表現と鑑賞4

－工作にあらわす－

第15回：「造形的な見方・考え方」の振り返り

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な授業態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	30%	各回の主要なポイントの理解をコメントペーパーの記述内容によって評価する。
	定期試験		
	その他	30%	各階の表現活動における作品
	自由記載		

【受講の心得】

この講義を通して「造形的な見方・考え方」について探求してほしい。

【授業外学修】

1. 復習として課題を課すことがある。
 2. 予習として事前に資料を配布することがあるので理解しておくこと。
- 以上の内容をもとに，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	適宜，提示する。
参考書	自由記載	適宜，提示する。

【その他】

はさみ，のり，テープ，色鉛筆，水彩絵具，定規，コンパス，カッター，スケッチブックなど，様々な画材，素材，道具を使用する。詳しい準備物は適宜授業の中で提示する。

授業科目名	家庭	サブタイトル	家族や家庭、衣食住、消費や環境など生活事象の理解	授業番号	CO211
担当教員名	齊藤 佳子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】					
家庭科教育で児童に何を指導し、何を学ばせ、どんな資質・能力を育むのかについて、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して明らかにする。また、小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識及び技能を実習・実験等を通して身に付ける。					
【到達目標】					
家庭科教育の意義を理解し、家庭生活を中心とした人間の生活を健康で豊かに営むことができる能力と社会の変化に対応できる家庭科力を身に付ける。また、家庭科に関心をもち、学んだことを生活に生かし、自分の生き方や生活改善に役立てる。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。					
【授業計画】					
【授業計画 備考】					
最初の授業日に、学年歴で定められた授業日と回数を示し、各回のテーマや具体的な内容、教室及び準備物を記載した授業予定表を配付する。					
第1回：小学校家庭科において育成を目指す資質・能力、小学校家庭科の内容構成					
第2回：「A家族・家庭生活」：自分の成長と家族・家庭生活、生活時間、家庭生活と仕事、地域との関わりについて					
第3回：「B衣食住の生活」：基礎縫いとボタンの付け方					
第4回：「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための製作／フェルトを使った小物作り					
第5回：「B衣食住の生活」：緑黄色野菜の調理実験とじゃがいも、ゆで卵のゆで時間による変化					
第6回：「B衣食住の生活」：材料に適した炒め方					
第7回：「B衣食住の生活」：米飯及びみそ汁の調理					
第8回：「B衣食住の生活」：栄養を考えた食事、1食分の献立作成					
第9回：「B衣食住の生活」：衣服の着用と手入れ					
第10回：「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」：快適な住まい方、環境に配慮した生活、実験・実習（通風・換気実験）					
第11回：「C消費生活・環境」：物や金銭の使い方と環境					
第12回：「B衣食住の生活」：子どもの学びを高めるICTの活用					
第13回：「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた製作(1)（エコバッグ・手提げバッグ等）					
第14回：「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた製作(2)（エコバッグ・手提げバッグ等）					
第15回：「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた製作(3)（エコバッグ・手提げバッグ等）					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な姿勢・態度		
	レポート	20%	実験・実習、課題		
	小テスト				
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他	20%	基礎縫い：5%、フェルトの小物：5%、エコバッグ・手提げバッグ等：10% 作品についてはコメントを記入して返却する。		
	自由記載				
【受講の心得】					
家庭科は、家庭生活を主な学習対象としている。講義で学んだことを日常生活でも実践するとともに、常に「自分が授業するなら、どの題材を用いて、どのような授業をしたいか」を考えながら受講する。					

【授業外学修】

シラバスで計画的な学修を促すため、授業予定表に、具体的な内容とその内容に該当する小学校家庭科の教科書のページと、中学校家庭科の教科書のページを明記しているため、予習として授業前に読んでおくことと、授業後に復習として習った箇所のページを再度読んで確認する。この活動を毎回実施する。

以上の内容を、週当たり2時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	わたしたちの家庭科	著作者代表内野紀子他	開隆堂	274円	9784304080647
	小学校学習指導要領解説家庭編	文部科学省	東洋館出版社	103円	9784491023748
	自由記載	「私たちの家庭科」と小学校学習指導要領解説家庭編は絶対必要なテキストである。			

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	新編 新しい技術・家庭（家庭分野）	佐藤文子・金子佳代子他	東京書籍	646円	9784487122820
	平成29年改訂小学校教育課程実践講座 家庭	岡 陽子・鈴木明子編著	ぎょうせい	1944円	9784324103104
	自由記載	中学校の家庭科教科書「新編 新しい技術・家庭 家庭分野」は、受講者全員に購入させる必要はないが、採用試験を受験する人は購入して欲しい。採用試験には、中学校の内容からも出題されているからである。			

【担当教員の実務経験の有無】

無

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

授業科目名	体育		サブタイトル		授業番号	CO206
担当教員名	溝田 知茂					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】 小学校学習指導要領に示されている各種運動領域について、子どもの「教育的系統」に立脚する立場からその内容について追及する。まず、各種運動領域のそれぞれについて、領域の特性と教材の内容についての理解を図る。次に、運動自体の理解とともに、学習者の側に立ってそれぞれの内容を追求し理解することを企図して授業を行う。						
【到達目標】 それぞれの教材の技能的特性を理解するとともに、自らも示範することができるようになる。 なお本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：戦後学習指導要領にみる学習内容の変遷 第2回：ボール運動：ゴール型（バスケットボール）の理解 第3回：ボール運動：ゴール型（バスケットボール）の内容とその実践 第4回：ボール運動：ネット型（バドミントン）の理解 第5回：ボール運動：ネット型（バドミントン）の内容とその実践 第6回：ボール運動：ネット型（ソフトバレーボール）の理解 第7回：ボール運動：ネット型（ソフトバレーボール）の内容とその実践 第8回：体づくり運動の理解・内容とその実践 第9回：器械運動：マット運動の理解 第10回：器械運動：マット運動の内容とその実践 第11回：器械運動：跳び箱運動の理解 第12回：器械運動：跳び箱運動の内容とその実践 第13回：陸上運動：短距離走の理解 第14回：陸上運動：短距離走の内容とその実践 第15回：子どもの側に立つ教材づくり						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度			
	レポート	30%	各領域ごとに学んだことを具体的に述べていること			
	小テスト	30%	全15回の授業を踏まえ、レポートを作成する			
	定期試験					
	その他 自由記載					
【受講の心得】 実技を伴うので、各運動領域に対して積極的に取り組むこと。						
【授業外学修】 ・各領域ごとで取り上げる内容をしっかり教材研究をする。 ・運動に対する興味関心を高め、運動する習慣づくりを心がける。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）				

参考書	自由記載
【担当教員の実務経験の有無】 無	
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無	

授業科目名	英語	サブタイトル		授業番号	CO212
担当教員名	子X2				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

小学校高学年の現在の外国語活動が、2020年度から、高学年では教科となり、中学年では活動型の外国語活動が導入された。本講義では、小学校教師、小学校等の外部講師や一般英会話学校講師を目指す学生に、「英語に関する背景的な知識」と「授業実践に必要な英語力」の修得を行う中で、毎回、音声学に関する理解をもとに数分の発音練習を行い継続的に英語の音声に慣れることにより、授業実践に必要な英語運用力の向上を目指す。発音練習では、発音トレーニング、スピーキングトレーニング、クラスルーム・イングリッシュ、ALTとの会話、授業実践に必要な単語、目標表現、Teacher talkなどを扱うようにする。

【到達目標】

- ・「英語に関する基本的な知識」、「児童文学（絵本、子供向けの歌や詩等）」、「異文化理解」、「第二言語習得に関する基本的な知識」などの英語に関する背景的な知識を理解する。
- ・学級担任と外部指導者のTTについての考察
- ・外国語活動・外国語の授業実践に必要な「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）」「読むこと」「書くこと」から成る、CEFR A2（英検準2級）程度の英語力を身に付ける。

本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション 自分の英語力を知る。（聞くこと・話すこと〈やりとり・発表〉・読むこと・書くこと）自分の英語学習経験を振り返る。発音練習

第2回：音声に関する基本的な知識（1）、歌・チャンツの指導（1）（聞くこと・話すこと）、発音練習

第3回：音声に関する基本的な知識（2）、歌・チャンツの指導（2）（聞くこと・話すこと）、発音練習

第4回：発音と綴りに関する基本的な知識（1）、歌・チャンツの指導（3）（聞くこと・話すこと）、発音練習

第5回：発音と綴りに関する基本的な知識（2）、歌・チャンツの指導（4）（聞くこと・話すこと）、発音練習

第6回：文構造・文法に関する基本的な知識、活動体験を通じた児童とのやりとり（話すこと・やり取り）（1）、発音練習

第7回：語彙に関する基本的な知識、活動体験を通じた児童との英語のやりとり（話すこと・やり取り）（2）、発音練習

第8回：第二言語習得に関する基本的な知識（1）、自己紹介・地域紹介・（多）文化紹介（話すこと・発表）（1）、発音練習

第9回：第二言語習得に関する基本的な知識（2）、自己紹介・地域紹介・（多）文化紹介（話すこと・発表）（2）、発音練習

第10回：児童文学（絵本、詩）に関する基本的な知識、絵本の読み聞かせの方法と実践（1）（聞くこと・話すこと・読むこと）、発音練習

第11回：異文化理解に関する基本的な知識、絵本の読み聞かせの方法と実践（2）（聞くこと・話すこと・読むこと）、発音練習

第12回：異文化コミュニケーションに関する基本的な知識、絵本の読み聞かせの方法と実践（3）（聞くこと・話すこと・読むこと）、発音練習

第13回：場面や目的に応じたALTやJTLとの会話（話すこと・やりとり）、発音練習

第14回：正書法に関する基本的な知識 板書・掲示物における英語の表記（書くこと）、発音練習

第15回：発音練習、まとめ

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	予習の状況、発表などの受講態度によって評価する。
レポート	30%	レポートに記述された学びの状況を評価する。	
小テスト	50%	発音・教師の使う英語・絵本の読み聞かせといった技能に関する小テストで評価する。	
定期試験			
その他			
自由記載			

【受講の心得】

予習・復習と授業中の積極的な発言を強く求める。

【授業外学修】

- 1 教科書のうち、次回の授業内容に相当する部分を事前に目を通しておくこと。
 - 2 1の予習をする中で、疑問に思う点をまとめておくこと。
 - 3 授業後に、2の疑問点が明らかになったことを見直すこと。
 - 4 英語検定準2級程度の英語力取得に向けて、英語の4技能に関する学習を行うこと
- 以上の学修に、週あたり4時間以上の時間をかけること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ小学校外国語科内容論	酒井英樹・滝沢雄一・亘理陽一	三省堂	2,090円	
	自由記載				

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	子どもと英語	松香洋子	(株) mpi	1,452円	
	小学校外国語教育の指導と評価	直山木綿子	文溪堂	2,200円	
	小学校英語とストーリーテリング：絵本の読み聞かせに始まる指導案・活動・評価	小野尚美, 田縁眞弓	研究社	2,420円	
	小学校英語 だれでもできる英語の音と文字の指導	山本玲子, 田縁眞弓	三省堂	2,090円	
	先生のための授業で1番大切な英語発音 (楽しい英語授業をつくるシリーズ)	山崎祐一	Jリサーチ	2,200円	
	自由記載				

【担当教員の実務経験の有無】

有

【担当教員の実務経験】

公立小学校・中学校・中高一貫教育校指導教諭 県教育委員会指導主事

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

英語科教員・指導主事としての実務経験を生かし、乳幼児教育施設や小学校等の英語教育に携わる指導者に求められる総合的な英語力を育成する。

授業科目名	国語科教育法	サブタイトル		授業番号	CO313
担当教員名	小川 孝司				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

教科書に記載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」等の教材分析を具体的に行い、それぞれの教材の特質を理解するとともに、それをもとに学習指導案を作成し、模擬授業をするという一連の経験を通して、授業力の基本を身に付ける。

【到達目標】

教科書に記載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」等の教材を具体的に分析し、理解した教材の特質をもとに学習指導案を作成することができるようにする。このことにより、教材を分析する力、単元構想力や単位時間の学習指導案を作成する力を身に付ける。さらに、模擬授業を通して、学習過程に沿って授業を展開する力や学習者に対応する力等を身に付けることができるようにする。

【授業計画】

- 第1回：授業を支える要素と求める学習者像
- 第2回：基本的な学習過程
- 第3回：学びの深まりと教師のかかわり
- 第4回：説明的文章の教材研究（1）
- 第5回：説明的文章の教材研究（2）
- 第6回：説明的文章の授業構想
- 第7回：説明的文章の模擬授業
- 第8回：「話すこと・聞くこと」（話し合い）の教材研究
- 第9回：「話すこと・聞くこと」（話し合い）の授業構想
- 第10回：「話すこと・聞くこと」の模擬授業
- 第11回：物語の教材研究
- 第12回：物語の授業構想
- 第13回：物語の模擬授業
- 第14回：「漢字の組み立て」の教材研究
- 第15回：「漢字の組み立て」の模擬授業

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	予習課題の提出，模擬授業への積極的な参加・協力等を評価する。
レポート	30%	授業ごとの学習内容の定着度を評価する	
小テスト			
定期試験	40%	最終的な学習内容の定着度を評価する	
その他			
自由記載	グループによる教材分析や授業構想，模擬授業等に積極的に参加する姿勢を評価する。これが、授業力及び教師力の向上と深く関係する。		

【受講の心得】

グループの学生と協力して、教材分析、授業の構想、授業準備、模擬授業に積極的に取り組むこと。
教材を繰り返し読み込み、教材の特質を理解するように努めること。
模擬授業を1回は行うこと。

【授業外学修】

1. 事前に配布された資料や指定された教材などをしっかり読み込み、授業に臨むこと。
2. 予習課題は、資料をしっかり読み込み、丁寧に仕上げ必ず提出すること。
3. 模擬授業のリハーサルや準備に積極的に参加すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説	文部科学省	東洋館出版社	162円＋税	978-4-491-03462-1
	自由記載	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 小学校国語教科書5年（光村図書）			
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の实務経験】 岡山市公立小学校，岡山大学教育学部附属小学校					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 教材研究，学習指導案の作成，模擬授業の実施					

授業科目名	社会科教育法	サブタイトル		授業番号	CO314
担当教員名	紙田 路子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

小学校社会科は、社会生活（私たちの日々の生活）を広い視野からとらえ総合的に理解することとおして、市民としての資質（公的資質）の基礎を養うことを教科の目標としている。小学校学習指導要領に規定されている社会科教育の目標・内容や指導法及び学習指導案の作成について、模擬授業をとおして基礎的な理解を深め、指導技術を身につけさせる。

【到達目標】

小学校社会科の目標・内容・指導法及び学習指導案の作成について理解し、授業展開に関する基礎的な知識と技能を身に付ける。

なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：小学校社会科の意義と役割
- 第2回：小学校社会科の目標と内容（小学校学習指導要領 社会）
- 第3回：第3学年及び第4学年の目標と内容（地域の社会的事象）
- 第4回：第5学年の目標と内容（我が国の産業や国土）
- 第5回：第6学年の目標と内容（我が国の歴史、政治、国際理解）
- 第6回：問題解決的な学習過程
- 第7回：社会科の評価の観点と評価規準
- 第8回：小学校社会科学習指導案の作成
- 第9回：社会科の多様な学習活動
- 第10回：模擬授業
- 第11回：模擬授業
- 第12回：模擬授業
- 第13回：模擬授業
- 第14回：模擬授業
- 第15回：社会科学習指導法の課題とまとめ

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な授業への参加態度、グループワーク等の参加状況、予習復習の状況によって評価する。
	レポート	30%	社会科教育に関わる理論を理解できているか、それを科学的な根拠に基づき批判・分析できているかの2点で評価する。レポートについてはコメントをつけて返却する。
	小テスト		
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

「なぜ社会科を学ぶのか」「なぜ学校教育に社会科が必要か」という問いをもって毎時間の授業に臨むこと

【授業外学修】

1. 予習として、課題に必ず取り組むこと。（各自が取り組んだ課題をもとにグループワークを行う）
2. 復習として、課題のレポートを書く。
3. 発展学習として、社会科授業の指導案を読んだり自分で指導案を作成したりすることが望ましい。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校学習指導要領解説 社会編	文部科学省	東洋館出版社		4491031606
	小学社会3, 4年上		日本文教出版		
	小学社会5年上		日本文教出版		
	小学社会6年上		日本文教出版		
	自由記載				
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の実務経験】 小学校教諭, 中学校講師					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 小・中学校における教育現場経験を生かし, 主体的, 対話的で深い学びを実現する社会科授業について授業を行う。					

授業科目名	算数科教育法	サブタイトル		授業番号	CO315
担当教員名	姫野 俊幸				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

算数科の学習指導に関して小学校教員として必要な基礎的な能力を育成するために、小学校算数科の目標や指導内容、教材研究や指導計画、学習評価・学習指導法等について実践的に学習していく。

【到達目標】

- 1) 算数科の指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的な事項を理解する。
- 2) 算数科の教材研究や学習指導案の作成等について知り、授業実践に活かそうとする。
- 3) 算数科に関する児童の実態及び学習指導についての考えを深める。

なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：算数教育の意義，目標，内容，略案の書き方
 第2回：算数指導の心構え，教材研究，模擬授業（1）
 第3回：準備物，時間の使い方，机間指導，効果的な発問，模擬授業（2）
 第4回：板書の仕方，発表，習熟，模擬授業（3）
 第5回：学習指導案の書き方，模擬授業（4）
 第6回：ノート指導，家庭学習，模擬授業（5）
 第7回：指導と評価の一体化，模擬授業（6）
 第8回：授業改革の二大論点について，模擬授業（7）
 第9回：教材・教具の準備と作成，ICTの活用，模擬授業（8）
 第10回：数学的活動，数学的な見方・考え方，模擬授業（9）
 第11回：授業実践力・授業評価力，授業を支える基礎技術，模擬授業（10）
 第12回：授業改革の二大論点についての提案と協議（1）
 第13回：授業改革の二大論点についての提案と協議（2）
 第14回：授業改革の二大論点についての提案と協議（3）
 第15回：授業改革の二大論点についての提案と協議（4）

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	15%	意欲的な受講態度によって評価する。
	レポート	10%	「授業からの学び」と「自分の気づき」を評価する。
	小テスト	25%	前回の授業の主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験		
	その他	50%	模擬授業とグループ提案，協議のパフォーマンスを評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

小学校の教員として、子どもたちに算数科の学習を仕組むときに、どのようなことに留意しなければならないかについて具体的に理解し実践する意志をもって授業に臨むこと。

【授業外学修】

- 1 配布資料や小テストを整理して、本時の講義内容をノートにまとめて復習する。
 - 2 教材研究等、模擬授業の準備を積極的に行うこと。また、他学生の模擬授業の単元についても教科書を確認する等の予習を行うこと。
 - 3 「7つの提言」についてグループで読み込み、検討・議論し、提案できるように協力して取り組むこと。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校学習指導要領解説 算数編	文部科学省			
	小学校算数教科書1年～6年		啓林館		
	自由記載	小学校学習指導要領解説 算数編, 小学校算数教科書1年～6年は, とともに, 「算数」で使用したものである。下巻等, 所有していない教科書のみ購入すること。			
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】					
有					
【担当教員の実務経験】					
公立小学校教諭, 教頭, 校長, 教育委員会事務局					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					
【実務経験をいかした教育内容】					
公立小学校, 教育委員会事務局等での実務経験を生かして, 教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。					

授業科目名	理科教育法	サブタイトル		授業番号	CO316
担当教員名	佐々木 弘記				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】					
小学校学習指導要領に示された目標を分析し、育成すべき資質能力について概括する。また、理科の学習内容について教科書に沿って説明する。いくつかの単元を採り上げて、観察・実験の方法を習得し、教材研究の技能を身に付ける。その上で、学習指導案の作成に取りかかり、観察・実験を取り入れた模擬授業を行う。					
【到達目標】					
小学校学習指導要領に示された理科の目標及び、理科教育において育成を目指す資質・能力について理解する。また、学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：小学校理科の目標 第2回：小学校理科の内容 第3回：育成すべき資質・能力 第4回：理科の学習理論 第5回：理科の学習指導法 第6回：問題解決能力の育成 第7回：教科書での題材の配列 第8回：教材研究の仕方 第9回：学習指導案の作成 第10回：物質・エネルギーにかかわる教材研究 第11回：生命・地球にかかわる教材研究 第12回：模擬授業1 第13回：模擬授業2 第14回：模擬授業3 第15回：模擬授業4					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度，模擬授業，実験・観察に取り組む態度，予習・復習の状況によって評価する。		
	レポート	10%	レポートの内容と提出状況によって評価する。		
	小テスト	20%	各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載				
【受講の心得】					
毎回、授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。また、返却された小テストは、ノートに貼付し、復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。					
【授業外学修】					
1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省	東洋館出版	111	
	自由記載	小学校理科教科書 3～6年, 「小学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省			
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の実務経験】 公立中学校理科教諭, 県教育センター (佐々木弘記)					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 学校, 教育センター等での経験を生かして, 教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。					

授業科目名	生活科教育法	サブタイトル		授業番号	CO317
担当教員名	池原 繁延				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】					
(1)学習指導要領の内容を踏まえながら、生活科の教科書に沿って、単元ごとに授業の具体的な内容・事例を検討し、指導案が作成できるようにする。					
【到達目標】					
(1)生活科における「新しい学習指導要領が期待するもの」について実際の授業と結びつけながら習得することができる。					
(2)生活科における学習評価の在り方を習得することができる。					
(3)上記の内容を踏まえ生活科の教科書に沿って具体的な授業についてイメージし指導案が作成できるようにする。					
【授業計画】					
【授業計画 備考】					
【授業計画 備考】					
(1)生活科の教科書に沿って単元ごとに具体的な授業内容をイメージし指導のポイントを把握する。					
(2)各単元と学習指導要領の内容を結びつけながら「新しい学習指導要領が期待するもの」について具体的に習得できるように実際の小学校における授業場面と結びつけながら学習を進める。					
(3)評価と指導の一体化について学習し、実際の授業において一人一人の児童の持つ「良さ」を見出すポイントを身に付ける。					
第1回：(1)生活科 学習指導の要点 観察カードの内容に対するコメントの書き方					
第2回：(1)単元「きれいにさいてね」小単元「たねをまこう」授業検討 (2)「生活科の栽培活動」について					
第3回：(1)単元「きれいにさいてね」小単元「はなのようすをつたえよう」「たねをとろう」授業検討					
第4回：(1)単元「なつがやってきた」小単元「こうていでくさばなやむしをさがそう」授業検討 (2)「評価規準」について					
第5回：(1)単元「なつがやってきた」小単元「みんなのこうえんであそぼう」「みずであそぼう」授業検討					
第6回：(1)単元「なつがやってきた」小単元「たのしかったことをつたえよう」授業検討 (2)「振り返りの活動、交流活動」について					
第7回：(1)単元「いきものとなかよし」小単元「むしをさがそう」授業検討 (2)「動物飼育」について					
第8回：(1)単元「いきものとなかよし」小単元「みんなでどうぶつをかおう」授業検討(2)「気づきの質を高めるための板書の構造化」について					
第9回：(1)単元「たのしいあきいっぱい」小単元「こうていであきをさがそう」授業検討 (2)気づきの質を高めるために					
第10回：「たのしいあきいっぱい」小単元「こうえんであきをさがそう」「はっぱやみであそぼう」「いっしょにあそぼう」授業検討 (2)「比較」について					
第11回：(1)単元「じぶんでできるよ」小単元「じぶんのいちにちをみつめよう」「じぶんでできることをしよう」授業検討 (2)「実態把握、家庭との連携、家庭環境への配慮」について					
第12回：(1)「新しい学習指導が期待するもの」について					
第13回：(1)「スタートカリキュラム」について					
第14回：(1)単元「どきどきわくわく1ねんせい」小単元「がっこうのことがしりたいな」「みんなとなかよくなりたいな」授業検討 (2)「スタートカリキュラム」について					
第15回：(1)単元「もうすぐ2ねんせい」小単元「あたらしい1ねんせいを しょうたいしよう」「しょうたいしたことをはなしあおう」「1ねんかんをふりかえろう」授業検討					

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢/態度	60%	意欲的な授業態度
	レポート	40%	課題に対する授業内容に沿った具体的な例を挙げたレポートであること。なお、レポート提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		
【受講の心得】 小学校で実際に授業ができるよう、より具体的なイメージをもって授業を受けること。			
【授業外学修】 (1)身近な自然に親しみ、植物や動物を観察しながら、地域を散策すること。 (2)身近な生活から、生活科の授業にいかせる教材を発見する取り組みをすること。			
使用テキスト	自由記載	教材用のプリントを用意する	
参考書	自由記載	東京書籍 新しい生活 上・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編	
【担当教員の実務経験の有無】 有			
【担当教員の实務経験】 小学校教諭・管理職			
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無			
【実務経験をいかした教育内容】 小学校における授業で実際に生かすことができるポイントを押さえた教育内容			

授業科目名	音楽科教育法	サブタイトル		授業番号	CO318
担当教員名	川崎 泰子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

小学校学習指導要領、小学校における音楽科教育の意義、目標、指導内容について理解を深め、小学校音楽科で育成すべき資質や能力、そのために取り扱う内容、題材の構成(指導計画の作成)、教材の選択と配列及び指導法・評価法について理解する。学習指導案を作成し模擬授業を行う。

【到達目標】

小学校学習指導要領の目標を理解した上で、教材研究から指導案・模擬授業への指導の流れを理解する。

(1)小学校学習指導要領について説明することができる。

(2)第1～6学年の系統性を踏まえ、発達段階に対応した教科指導の在り方を検討することができる。

(3)小学校音楽科における学習指導上の基本的な留意点及び「表現」「鑑賞」の各活動における基本的な指導方法について理解し、児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を確実に修得させるための学習指導案を作成することができる。

(4)上記の理解に基づいて作成した学習指導案を模擬授業において実施できる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：小学校における音楽科教育の意義と目標、内容
 第2回：日本の音楽科教育の歴史／学習指導要領の変遷と新学習指導要領の理解
 第3回：授業設計と指導上の留意点
 学習指導案の書き方・授業の進め方について
 年間学習指導計画と題材の評価規準
 第4回：教材研究と指導法/「表現(歌唱)」の活動 伴奏法
 第5回：教材研究と指導法/「表現(歌唱・器楽)」の活動
 第6回：教材研究と指導法/「表現(音楽づくりとコンピュータ)」の活動
 第7回：教材研究と指導法/「鑑賞」の活動
 第8回：評価規準の意義と設定
 第9回：学習指導案の作成方法/指導計画の作成と内容の取扱い
 第10回：学習指導案の作成
 第11回：模擬授業と討議 1－第1学年、第2学年
 第12回：模擬授業と討議 2－第3学年、第4学年
 第13回：模擬授業と討議 3－第5学年
 第14回：模擬授業と討議 4－第6学年
 第15回：模擬授業後の研究討議と全体のまとめ

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	授業に取り組む姿勢、態度、発表。
レポート	10%	課題・レポート・指導案の、理解度・定着度。添削後、返却する。	
小テスト	50%	課題の到達度を評価する。実技を含む。	
定期試験	10%	知識の理解度・定着度。	
その他	20%	模擬授業の内容。	
自由記載			

【受講の心得】

小学校教員への教職意識を持つこと。

使用教科書の『小学校学習指導要領解説 音楽編』に目を通しておくこと。

【授業外学修】

授業で提示される次回の内容について、予習すること。

授業で提示された課題を実施し、復習すること。

上記の内容を、週当たり4時間程度学修すること。

使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校学習指導要領平成29年公示解説 音楽編			平成29年6月、文部科学省		
	小学校音楽1～6年			教育芸術社		
	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校音楽科教育法			教育芸術社		
	自由記載					

【その他】

ソプラノリコーダーを持参すること。

【担当教員の実務経験の有無】

有

【担当教員の実務経験】

公立小学校、中学校、私立中学、私立高校講師・公民館講座講師、少年少女合唱団主宰、数々の学校にて歌唱指導。

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

実務経験を活かし、学校現場の体験を通して得た知識を伝えると共に、小学校音楽科教育に求められる専門的な知識・技能を深め、学習指導力、実践的な音楽実技指導力の向上に努める。

授業科目名	図画工作科教育法	サブタイトル		授業番号	CO319
担当教員名	子X1				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

この講義では、小学校図画工作科で行われる教科書題材を取り上げながら、「造形的な見方・考え方」を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質能力を育成する指導のあり方を修得することを目的とする。

【到達目標】

- (1)学習指導要領に示された図画工作科の目標や内容を理解する。
1-1)図画工作科の学習指導要領における目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
1-2)個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
1-3)図画工作科における学習評価の考え方を理解している。
(2)基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。
2-1)子どもの認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
2-2)情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
2-3)学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
2-4)模擬授業の実施と振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：図画工作科の学習指導要領
－教科の目標と内容，全体構造－
第2回：図画工作科の授業構造
第3回：図画工作科における教師の支援
－指導上の留意点－
第4回：図画工作科における評価
－学習評価の考え方－
第5回：図画工作科における安全指導
第6回：「造形あそび」の授業の組立と支援
－教材研究と指導上の留意点－
第7回：「絵にあらわす」の授業の組立と支援
－教材研究と指導上の留意点－
第8回：「立体にあらわす」の授業の組立と支援
－教材研究と指導上の留意点－
第9回：「工作にあらわす」の授業の組立と支援
－教材研究と指導上の留意点－
第10回：「鑑賞」の授業の組立と支援
－教材研究と指導上の留意点－
第11回：図画工作科の学習指導案 1
－学習指導案の構成の理解－
第12回：図画工作科の学習指導案 2
－学習指導案の作成－
第13回：模擬授業の実施と振り返り 1
第14回：模擬授業の実施と振り返り 2
第15回：図画工作科教育法の振り返り

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な授業態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	60%	各回の主要なポイントの理解をコメントペーパーの記述内容によって評価する。
	定期試験		
	その他	20%	模擬授業の準備・発表について評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

「造形的な見方・考え方」が活かした授業はいかにして実現することができるかについて探求してほしい。

【授業外学修】

1. 復習として課題を課すことがある。
 2. 予習として資料を配布することがある。
- 以上の内容をもとに，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	文部科学省『学習指導要領解説・図画工作編』
参考書	自由記載	適宜，提示する。

【その他】

はさみ，のり，テープ，色鉛筆，水彩絵具，定規，コンパス，カッター，スケッチブックなど，様々な画材，素材，道具を使用する。詳しい授業の準備物は授業の中で提示する。

【担当教員の実務経験の有無】

無

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

授業科目名	家庭科教育法	サブタイトル		授業番号	CO321
担当教員名	齊藤 佳子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

小学校家庭科の授業を通して、「生きる力」や「確かな学力」を育成するという強い理念をもって、学習指導要領に求められる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」等、学ぶ意欲を児童に身に付けさせる授業を構想することができるようにする。

授業構想を具体化するために学習指導案を作成して模擬授業を行い、模擬授業の実施・評価・分析を通して、授業実践力を身に付ける。

【到達目標】

小学校家庭科の授業開発を通して、児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を確実に修得するためには、どのような学習の工夫が必要かしっかり検討し、効果的な家庭科の授業を模擬授業を通して創造することができる。

なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

【授業計画 備考】

最初の授業日に、学年歴で定められた授業日と回数を示し、各回のテーマや具体的な内容、教室及び準備物を記載した授業予定表を配付する。模擬授業の実施・分析・評価については、模擬授業の実施日が決定した時点で、実施日と授業者の名前を記載したプリントを改めて配付する。

第1回：学習指導要領家庭編の目標及び内容の取扱いについて

第2回：年間指導計画と題材指導計画，学習指導案の書き方と指導上の留意点及び評価項目

第3回：既成の家庭科指導案を基に細案を作成

第4回：細案を基に模擬授業を実施1・2「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」(5・6年生)

第5回：細案を基に模擬授業を実施3・4「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(5・6年生)

第6回：細案を基に模擬授業を実施5・6「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(5・6年生)

第7回：細案を基に模擬授業を実施7・8「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(5・6年生)

第8回：指導案の作成(1)「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」領域の内容理解(5・6年生)

第9回：指導案の作成(2)「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」領域の内容理解(5・6年生)

第10回：模擬授業の実施・分析・評価1・2「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」(5年生)

第11回：模擬授業の実施・分析・評価3・4「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(5年生)

第12回：模擬授業の実施・分析・評価5・6「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」(6年生)

第13回：模擬授業の実施・分析・評価7・8「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(6年生)

第14回：模擬授業の実施・分析・評価9・10「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(5・6年生)

第15回：模擬授業の総括：模擬授業全体の振り返りと授業改善

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な姿勢，態度について評価する。
	レポート	20%	指導案，模擬授業を通して身に付けたことや改善点などの記述について評価する。
	小テスト	10%	指導要領の内容理解について評価する。
	定期試験	50%	最終的な理解度について評価する。
	その他	10%	模擬授業：教師としての授業態度，発問，板書の字，声の大きさ等について評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

教材研究の深さが学習指導案と密接に関連し、更に児童の学習意欲とも深く関係していることを理解する。また、授業開始時に配付する授業予定表に、授業内容に該当する小学校と中学校の教科書のページを明記しているので、授業の事前・事後に必ず目を通して授業に臨む。

【授業外学修】

- 1 事前に、模擬授業で取り上げる内容についてしっかり教材研究をする。
- 2 模擬授業についての感想を、授業後に数人発表する。
- 3 模擬授業について、学生に迅速で建設的なフィードバックを行い、次の模擬授業に活かす。
- 4 模擬授業についての感想を毎時間書かせ、授業者に一言コメントとして、良かった所や改善して欲しい所を書いたプリントを渡す。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	わたしたちの家庭科	著作者代表内野紀子他	開隆堂	274円	9784304080647
	小学校学習指導要領解説家庭編	文部科学省	東洋館出版社	103円	9784491023748
	自由記載				

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	新訂 新しい技術・家庭 (家庭分野)	佐藤文子・金子佳代子他	東京書籍	646円	9784487122820
	自由記載	中学校の家庭科教科書「新編 新しい技術・家庭 家庭分野」は、採用試験を受験する人は購入して欲しい。採用試験には、中学校の内容からも出題されている。			

【その他】

採用試験には、具体的な指導方法を問う問題が出題される。模擬授業には、「自分ならどうするか」と考えながら参加する。小学校家庭科の内容は、全て実践して身に付けておくことが望ましい。

【担当教員の実務経験の有無】

無

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

授業科目名	体育科教育法	サブタイトル		授業番号	CO320
担当教員名	溝田 知茂				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法の変遷を踏まえた上で、現代の子どもたちが抱えているからだと心の問題について体育科が果たすべき役割と責任性について理解する。

また、低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解し、指導案の作成並びに模擬授業、授業評価と授業を展開するうえでの一連の過程を実践する能力を身に付ける。

【到達目標】

体育科における、「目標-内容-方法」について理解するとともに、子ども一人ひとりが意欲的に学ぶことのできる授業展開を計画・立案することができる。

なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：学習指導要領の変遷（総則）
- 第2回：学習指導要領の変遷（体育科の目標）
- 第3回：学習指導要領1・2年生の内容と目標の理解と具体例
- 第4回：学習指導要領3・4年生の内容と目標の理解と具体例
- 第5回：学習指導要領5・6年生の内容と目標の理解と具体例
- 第6回：3～6年生の保健の内容と目標の理解と具体例
- 第7回：体育科の年間計画及び指導案作成について
- 第8回：指導案の作成
- 第9回：模擬授業打ち合わせ
- 第10回：模擬授業（1）1・2年生について
- 第11回：模擬授業（2）3・4年生について
- 第12回：模擬授業（3）5・6年生について
- 第13回：模擬授業（4）3～6年生の保健について
- 第14回：模擬授業の授業評価・修正
- 第15回：授業評価を加味した指導案の作成

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度
	レポート	60%	指導案の理解・指導要領の理解
	小テスト		
	定期試験		
	その他	20%	模擬授業の教師としての授業態度
	自由記載		

【受講の心得】

小学校体育科において、教師が運動の知識を有していることはもちろん、からだと心の仕組みに対する理解を深めていくことも重要である。これらの点を踏まえつつ、将来の子どもからだを育てていくという強い意欲をもって受講すること。

【授業外学修】

- ・授業で行われる領域について「学習指導要領解説 体育編」を授業前に読んでおくこと。
 - ・事前に模擬授業で取り上げている内容をしっかり教材研究する。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校学習指導要領解説体育編	文部科学省	東洋館出版社		
	自由記載				
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】					
無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					

授業科目名	英語科教育法	サブタイトル		授業番号	CO322
担当教員名	子X2				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

授業実践に必要な知識を修得することに加え、授業観察や指導教員による授業体験を児童の立場で体験することを通して、小学校の外国語活動・外国語の授業について体験的に理解するとともに、教師の立場で模擬授業を行い振り返り授業改善を行う。さらに、小学校での授業観察や授業参加などを通して、理論に裏打ちされた教師認知と実践力を備えたりフレキシブルな教師となる基本を身に付ける。

【到達目標】

- ・「現在の小学校外国語教育についての知識・理解」や「子どもの第二言語習得についての知識・理解」に関する小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な知識を理解する。
- ・「指導技術」と「授業づくり」の基礎を身に付け、計画・授業実施・省察・改善のサイクルを通して、理論に裏打ちされた教師認知と実践力の基本を身に付ける。

なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション 外国語教育導入の経緯・理念・現状
 第2回：学習指導要領（外国語 活動と外国語科） 小・中・高等学校との連携と小学校の役割
 第3回：主教材、ICT教材の活用について、学習到達目標 指導計画 技能統合型の活動
 第4回：授業映像視聴
 児童や学校の多様性への対応 子どもの学び方の特徴（言語使用を通じた言語習得、類推から理解へ 音声によるインプットの在り方） 児童の認知発達に即した指導法
 第5回：授業模擬体験
 ことばの学ばれ方の特徴（場面に合った意味のあるやり取り、受診から発信 音声から文字へと進むプロセス）
 第6回：授業模擬体験
 英語での語りかけ方 児童の発話の引き出し方 児童とのやり取りの進め方 文字言語との出会わせ方 読む活動・書く活動への導き方 言葉の面白さや豊かさへの気付き
 第7回：授業映像視聴（小学校・中学校・高等学校）
 小・中・高等学校の連携、ALT等とのチームティーチングによる指導の在り方、異文化理解の視点、第二言語習得理論についての知識とその活用
 第8回：評価の観点と評価規準
 第9回：題材選定、教材研究
 第10回：指導計画（年間指導計画、単元計画、学習指導案、短時間学習等）の作成方法 学習指導目標、指導計画作成（1時間の学習指導案作成）
 第11回：授業準備 教材作成
 第12回：模擬授業（1） 振り返り 授業改善（1）
 第13回：模擬授業（2） 振り返り 授業改善（2）
 第14回：小学校での授業参観・授業参加
 第15回：振り返り、まとめ

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	積極的な気づきや改善案への建設的な議論に参加する態度を評価する。
	レポート	50%	授業を通しての気づきや学びの記述を評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

教師になる自覚と意欲をもって参加すること。

【授業外学修】

- ・指導案・指導細案の作成や、模擬授業の練習を行うこと。
 - ・教師が使用する英語技能の習得に努め、実用英語検定準2級の取得をめざすこと。
- 以上の学修を、週4時間以上行うこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校英語 はじめる教科書 外国語科・外国語活動指導者養成のためにーコアカリキュラムに沿ってー	小川隆夫・東仁美	mpi	2, 420円	
	Here We Go! 5		光村図書	587円	
	Here We Go! 6		光村図書	587円	
	『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』平成29年7月—平成29年告示	文部科学省	東洋館出版社	141円	
	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校外国語・外国語活動	国立教育政策研究所教育課程研究センター		880円	
	自由記載	・ Let's Try 1 文部科学省 東京書籍 ・ Let's Try 2 文部科学省 東京書籍			

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	小学校英語の教育法	アレン玉井	大修館書店	2, 420円	
	子どもと英語指導ハンドブック	外山節子（監修）	旺文社	6, 386円	
	自由記載				

【担当教員の実務経験の有無】

有

【担当教員の実務経験】

公立小学校・中学校・中高一貫教育校指導教諭 県教育委員会指導主事

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

英語科教員・指導主事としての実務経験を生かし、小学校の英語教育に携わる指導者に求められる総合的な英語力を育成する。

授業科目名	教職概論	サブタイトル		授業番号	CP209
担当教員名	小川 孝司				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

教職概論は、教職の意義と教師の役割、教師の職務内容について、関係するテキスト及び実際の側面から学ぶ。教職を目指す学生が、職業論（教職の全体像をつかむとともに、教職に関する基礎的な知識）を身に付け、教職に対する意欲を喚起し、専門職としての基礎を身に付ける。

【到達目標】

教職の意義、教師の役割、職務内容など教職に対する理解を深めるとともに、教師としての使命や責任を知り、教職に対する自らの意欲や適性を見つめ直すことを到達目標とする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：本科目を学ぶ目的
- 第2回：最近の子どもの生活
- 第3回：学校の中での子ども（1）
- 第4回：学校の中での子ども（2）
- 第5回：学習指導の意義と役割
- 第6回：学習指導と指導過程
- 第7回：学習指導と学習形態
- 第8回：生徒指導の目的と内容
- 第9回：生徒指導の方法
- 第10回：キャリア教育の目的と内容
- 第11回：教育相談の目的と方法
- 第12回：学級経営の内容と方法
- 第13回：学級経営と特別活動
- 第14回：教師に求められる資質・能力
- 第15回：教師の地位と身分

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な学習態度や予習に対する取り組みを評価する
	レポート	30%	授業毎の学習内容の理解を評価する
	小テスト		
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

テキストを読んだり、グループで話し合ったりするすることを通して、教職や教師のあり方等について考えを深めること。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書の授業内容にかかわる部分を読み、課題をレポートにまとめる。
2. 教育に関するニュースに関心をもち、自分の考えや感想を話すことができるようにする。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	新版（改訂2版）教職入門教師への道	藤本典裕	図書文化	1980円	978-4-8100-9720-7
	自由記載				
参考書	自由記載	授業において随時紹介する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の实務経験】 岡山市立公立小学校，岡山大学教育学部附属小学校					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 国語科教育の指導内容及び指導方法，学級経営，学校運営					

授業科目名	道徳教育指導論	サブタイトル		授業番号	CO323
担当教員名	小森 順子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】					
道徳教育は大きな転換期を迎えた。道徳教育の改善・充実を図るため、小学校は平成30年度、中学校は令和元年度から、特別の教科 道徳(「道徳科」)が教科化された。この改訂の内容を踏まえ、道徳教育の意義について全講義を通して明らかにしていく。道徳教育と道徳科の目標や内容・指導について講義する。また、学習指導案作成と模擬授業の演習を通して、指導方法の要点や道徳科の授業について講義し、授業実践力を身に付けることを目的とする。					
【到達目標】					
道徳教育の改訂の要点について理解し、道徳教育の意義について考えることができるようになる。 道徳教育と道徳科の目標・内容・指導について学び、道徳教育指導全般について理解できるようになる。 道徳科の学習指導の在り方や工夫について演習を通して身に付け、授業実践ができるようになる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：道徳とは何か 自分と道徳(1) 道徳教育の歴史 道徳教育の改訂の基本方針・要点 「特別の教科 道徳(道徳科)」への改訂の基本方針・要点・「考え議論する道徳」について理解する。					
第2回：道徳教育と道徳科の関係・つながり 道徳教育の目標 道徳科の目標 学校における道徳教育は道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであるということ、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」という道徳教育・道徳科の目標について理解する。					
第3回：道徳科の内容 内容項目の指導の観点(1) 人間として他者と共に生きていく上で学ぶことが必要と考えられる道徳的価値を整理した内容項目の全体像を把握する。					
第4回：内容項目の指導の観点(2) 内容項目ごとに概要や指導の要点をまとめて発表する活動を通して、道徳性を養う手掛かりとなる内容項目について理解する。					
第5回：道徳科の授業 示範授業に参加し授業を体験することを通して、道徳科学習指導案・一般的な学習指導過程・発問の工夫・板書の工夫など、道徳科の学習指導について理解する。					
第6回：指導計画の作成 指導方法の工夫 道徳科の授業のつくりかた(1) 指導計画作成の意義、道徳科に生かす指導方法の多様な工夫の具体例、学習指導案作成の手順について理解する。					
第7回：道徳科の授業のつくりかた(2) 内容項目の分析・児童の実態・教材分析・ねらい・主題名などについて理解し、学習指導案を作成する。					
第8回：道徳科の授業のつくりかた(3) 学習指導過程の導入・展開前段・展開後段・終末について理解し、学習指導案を作成する。					
第9回：道徳科の評価 道徳性の発達 指導の配慮事項 道徳科における評価の意義や評価の基本的な考え方について理解する。よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うための指導の配慮事項について理解する。					
第10回：授業実践 模擬授業(1) 模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して、授業改善の視点(指導方法の工夫など)について理解する。					
第11回：授業実践 模擬授業(2) 模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して、授業改善の視点(多様な学習指導など)について理解する。					
第12回：授業実践 模擬授業(3) 模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して、授業改善の視点(教材・教具の活用など)について理解する。					
第13回：授業実践 模擬授業(4) 模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して、授業改善の視点(個に応じた指導・教態など)について理解する。					
第14回：教材に求められる内容の観点 教材づくりの演習を通して、教材の開発と活用の創意工夫について、教材に求められる内容の観点について理解する。					
第15回：よりよく生きるための基盤となる道徳性の育成 自分と道徳(2) 全講義内容をKJ法でまとめる活動を通して、道徳教育の意義や道徳教育指導の理解、授業実践力の変容について明らかにする。					

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加態度によって評価する。			
	レポート	50%	各回の講義の主要なポイントをまとめていること・自分の考えを述べていることで評価する。レポートはコメントを記入して返却し，次の講義で記述内容を紹介したり補足説明をしたりして活用する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	40%	模擬授業の学習指導案の内容・工夫や模擬授業実践態度で評価する。模擬授業内容については一人一人にコメントを返す。			
	自由記載					
【受講の心得】 様々な事象や出来事に対して自分の意見や考えをもち，授業実践とつないで考え，真剣に受講する。						
【授業外学修】 1 予習として，「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」「4年小学どうとく 生きる力」のうち，次回の授業内容に関わる部分を読み，課題を把握しておくこと。 2 授業の始めに前回の授業内容に関する小テストを行うので，復習をしておくこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	4年小学どうとく 生きる力			日本文教出版株式会社		
	自由記載	小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 平成29年7月 (文部科学省)				
参考書	自由記載					
【備考】 令和5年度改訂						
【担当教員の実務経験の有無】 有						
【担当教員の実務経験】 公立小学校教諭・教頭・校長，岡山市教育研究研修センター						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						
【実務経験をいかした教育内容】 道徳科の授業実践や教職員研修の講師等のこれまでの経験を，講義内容（道徳科授業の指導の在り方，指導方法の工夫，学習指導案作成，模擬授業改善の視点等）に生かして指導する。						

授業科目名	特別活動・総合的な学習の時間の指導法		サブタイトル		授業番号	CP210
担当教員名	佐々木 弘記					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位		
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 特別活動及び総合的な学習の時間の教育的意義、目標、内容、学習過程、指導計画、家庭・地域等との連携、評価について演習を通して講義する。						
【到達目標】 特別活動及び総合的な学習の時間の教育的意義、目標、内容、学習過程、指導計画、家庭・地域等との連携、評価について理解することができるようになる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：教育課程としての特別活動の領域 第2回：特別活動の目標と内容 第3回：特別活動の特質と教育的意義 第4回：特別活動と各教科等との関連 第5回：学級活動の目標と内容 第6回：学級活動の指導計画と指導過程 第7回：児童会活動、クラブ活動の目標と内容 第8回：学校行事の目標と内容、家庭・地域等との連携 第9回：特別活動における評価 第10回：総合的な学習の時間の意義と教育課程における役割 第11回：総合的な学習の時間の目標と内容 第12回：総合的な学習の時間と各教科等との関連 第13回：総合的な学習の時間の学習過程 第14回：総合的な学習の時間の単元計画と年間指導計画 第15回：総合的な学習の時間における評価						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	10%	学習指導案作成の適切さを評価する。			
	小テスト	20%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。 2 学修したことや自分の考えなどをまとめ、振り返りシートを書くこと。 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。 4 配付する資料を整理しておくこと。						

【授業外学修】

- 1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として、テキストやノート、資料を読む。
 - 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校学習指導要領解説特別活動編	文部科学省	東洋館出版	141円+税	978-4-491-03469-0
	自由記載				
	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間	文部科学省	東洋館出版	126円+税	978-4-491-03468-3
	自由記載	授業において随時紹介する。			

【担当教員の実務経験の有無】

有

【担当教員の実務経験】

公立中学校理科教諭，県教育センター（佐々木弘記）

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

学校，教育センター等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。（佐々木）

授業科目名	生徒指導・進路指導の理論と方法		サブタイトル		授業番号	CP211
担当教員名	住野 好久					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位		
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義及び教育課程における位置づけを『生徒指導提要』等を用いて学習するとともに、他の教職員や関係機関と連携しながら集団的・個別的な生徒指導・進路指導・キャリア教育を、組織的に進めていくために必要な知識・技能を具体的な実践事例を通して学習する。						
【到達目標】						
生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義及び教育課程における位置づけを理解するとともに、他の教職員や関係機関と連携しながら集団的・個別的な生徒指導・進路指導・キャリア教育を、組織的に進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。						
なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：生徒指導の意義と課題 ※（担当住野）						
第2回：教育課程における生徒指導の位置づけ（1）学習指導と生徒指導 ※（担当住野）						
第3回：教育課程における生徒指導の位置づけ（2）道徳・特別活動等と生徒指導 ※（担当住野）						
第4回：生徒指導の実践形態と方法原理 ※（担当住野）						
第5回：子ども理解に基づく開発的生徒指導（1）小学校低学年 ※（担当住野）						
第6回：子ども理解に基づく開発的生徒指導（2）小学校中学年 ※（担当住野）						
第7回：子ども理解に基づく開発的生徒指導（3）小学校高学年 ※（担当住野）						
第8回：学校における生徒指導体制 ※（担当住野）						
第9回：暴力問題への取組と生徒指導に関する法令 ※（担当住野）						
第10回：いじめ問題への取組と生徒指導に関する法令 ※（担当住野）						
第11回：不登校問題への対応と関係機関との連携 ※（担当住野）						
第12回：進路指導・キャリア教育の意義 ※（担当住野）						
第13回：キャリア・ガイダンスの理論と実践 ※（担当住野）						
第14回：キャリア・カウンセリングの理論と実践 ※（担当住野）						
第15回：まとめ ※（担当住野）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト	40%	毎回の授業後に、授業内容に関する小テストを行う。			
	定期試験	60%	授業内容に関する記述式の試験を行う。			
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
1) 事前・事後にテキストや参考資料を読むこと。						
2) 発表や討論に積極的に取り組むこと。						
3) 配付する資料を整理しておくこと。						

【授業外学修】

- 1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として、課題のレポートを書く。
 - 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	生徒指導提要	文部科学省	教育図書	276円+税	978-4-87730-274-0
	自由記載				
参考書	自由記載	授業において随時紹介する。			

【担当教員の実務経験の有無】

無

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

国際教養学部 国際教養学科
中学校教諭一種免許状（英語）
高等学校教諭一種免許状（英語）
共通科目

授業科目名	国際英語論	サブタイトル		授業番号	LJ208
担当教員名	竹野 純一郎				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

15回の授業の前半は主に、それぞれの国が公用語・第2言語、あるいは国際語・共通語として英語を用いている歴史的背景や現状、そしてその問題点について学習する。後半は、国際英語の一例としてグロービッシュを取り上げ、その具体的な考え方や実際の用いられ方、そしてその問題点について学ぶ。

【到達目標】

科学技術の進歩やインターネットの普及にともない、英語を取り巻く環境は大きく様変わりしている。従来の母国語話者が用いる英語が正しい英語であるという考え方にとらわれず、非英語母語話者によるコミュニケーションツールとして用いられている英語に焦点を当てる。国際英語の一例として、ビジネスツールとして用いられている「グロービッシュ」について学び、ビジネスや国際交流の場面において用いられる国際英語を理解する。なお、本科目はディプロマシーポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：「国際英語」とは？「グロービッシュ」とは？
- 第2回：国際英語1 公用語／第2言語話者の英語（インドとその周辺地域の英語）
- 第3回：国際英語2 公用語／第2言語話者の英語（東南アジアの英語）
- 第4回：国際英語3 公用語／第2言語話者の英語（アフリカの英語）
- 第5回：国際英語4 公用語／第2言語話者の英語（カリブ地域の英語・そのほかの地域の英語）
- 第6回：国際英語5 国際語／共通語としての英語（ヨーロッパの英語・中東における英語）
- 第7回：国際英語6 国際語／共通語としての英語（東アジアの英語）
- 第8回：国際英語まとめ
- 第9回：グロービッシュ1（グロービッシュの必要性）
- 第10回：グロービッシュ2（語彙1：グロービッシュ1500語）
- 第11回：グロービッシュ3（語彙2：グロービッシュ1500語とVOAスペシャル・イングリッシュ1500語の比較）
- 第12回：グロービッシュ4（グロービッシュの求める構文・文法と日本人の構文・文法力）
- 第13回：グロービッシュ5（脱ネイティブ化する英語）
- 第14回：グロービッシュまとめ
- 第15回：まとめと振り返りのセッション

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	40%	課題のテーマについて調べ適切にまとめ，自分の考えを具体的に述べていること。課題やレポートのフィードバックは授業時に全体に対して行う。	
小テスト			
定期試験			
その他			
自由記載			

【受講の心得】

指示された予習は必ずして授業に臨むこと。与えられた課題は自ら調べ、考えて取り組むこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、テキストを読み、授業内容にかかわる部分の疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として、課題のレポートを書く。
 - 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	World Englishes 世界の英語への招待	田中春美・田中幸子	昭和堂	2400円+税	978-4-8122-1227-1
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	globish The World Over	Jean-Paul Nerriere, David Hon	東洋経済新報社	1500円+税	978-4-492-04420-9
	自由記載	大橋典晶・竹野純一郎ほか「グロービッシュの求める構文・文法と日本人の構文・文法力」中国学園紀要第10号 竹野純一郎ほか「グロービッシュ1, 500語とVOAスペシャル・イングリッシュ1, 500との比較」中国学園紀要第10号 竹野純一郎ほか「Comparing the Globish Word List with Those Commonly Used in Japan (グロービッシュ語彙リストと日本で一般的に用いられている語彙リストとの比較)」CHUGOKUGAKUEN Journal, Vol.10 佐生武彦・竹野純一郎ほか「English that Breaks Away From The Native Standard As Seen From The Perspective Of A "Culture VS Civilization" Theory (「文化」対「文明」理論という視点から見た脱ネイティブ化する英語)」CHUGOKUGAKUEN Journal, Vol.11			
【担当教員の実務経験の有無】					
有					
【担当教員の実務経験】					
公立高等学校英語科教諭					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					
【実務経験をいかした教育内容】					
学校現場での経験を生かして、効果的な英語学習法について指導する。					

授業科目名	英語学概論	サブタイトル		授業番号	LJ303
担当教員名	松浦 加寿子				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

英語をコミュニケーションのツールとしてではなく、研究の対象として扱い、これを記述するという学問の入門講座である。理論や概念ばかりに偏らないように、身近な事例から始めて、英語学の全体に広く触れる講座としたい。使用教科書は平易に書かれているので、学生は、予習の段階で内容をつかんでおき、さらに、章末の「課題」に対する各自の考え、資料を用意しておく。授業では、「課題」についてお互いに議論する中で、さらに理解を深めていきたい。授業後には、課題についてのレポートを作成して、提出することとする。

【到達目標】

英語学の分野の中でも、以下の項目について概観し、基礎的な知識を身に付けることを目標とする。このことにより、各学生の将来の研究の方向性の検討に寄与したり、教員としてのより深い英語の理解につなげたりする。

【ことばの起源と語族、人間のことばと言語研究、英語の発音とスペリング、英語の語彙、標準英語の成立、英語のバリエーション、ことばと音声、音の組み合わせとアクセント、文ができるしくみ、文の内部構造、言葉の意味とコンテキスト、まとまりのある文章、ことばのやりとりにおけるルール、英語と文化など】

本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解>に貢献するものである。

【授業計画】

- 第1回：ことばの起源と語族
- 第2回：人間のことばと言葉研究
- 第3回：英語の発音とスペリング
- 第4回：英語の語彙
- 第5回：標準英語の成立
- 第6回：英語のバリエーション
- 第7回：ことばの変化
- 第8回：ことばと音声
- 第9回：音の組み合わせとアクセント
- 第10回：文ができるしくみと文の内部構造
- 第11回：言葉の意味とコンテキスト
- 第12回：まとまりのある文章
- 第13回：ことばのやりとりにおけるルール
- 第14回：英語と文化
- 第15回：ことばと社会、まとめ

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	予習の状況、発表などの受講態度によって評価する。
	レポート	50%	教科書にある「課題」から、各自の問題意識に応じた課題を選んでレポートしていること。レポートは返却する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他	20%	教科書の中からテーマを選んで発表し、内容を評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

予習と授業中の積極的な発言を特に求めます。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として、課題のレポートを書く。
 - 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	「ベーシック 新しい英語学概論」	平賀正子（著）	ひつじ書房		
	自由記載				
参考書	自由記載	安藤貞夫・澤田治美（編）「英語学入門」開拓社			
【担当教員の実務経験の有無】					
無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					

授業科目名	英語文学概論	サブタイトル		授業番号	LJ305
担当教員名	松浦 加寿子				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

現代英語にも、言語としての発達史が刻まれている。英語がブリテン島を起源にアメリカへ、他の植民地へと引き継がれ、多様性をもつに至った歴史は、英語テキストを熟読することによってよく味わわれる。受講生は、英語の歴史を概観した英語教科書を読むとともに、英語文学とその背景をなす文化の代表的なテキストを音読して、意味の奥行、姿・形の美しさ、音楽性を感じ取る感受性を養うことを求められる。同時に、英語発達の歴史を概観し、その言語としての特徴を学ぶことが期待される。

【到達目標】

英語教員を目指す受講生が、英語原文テキストを読むことを通して、英語の背後にある文化を理解することを目標とする。英語文学に流れる基本的な人間観を英語の言語事実から読み取ってゆく。特に、音読練習は重視される。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

【授業計画 備考】

授業計画の枠組は、以下の通りである。授業の進度は適宜調整する余地があるが、基本的な枠組は守られる。音読とリスニングを重視する観点からCD、カセットテープなどネイティブスピーカーの音読素材が利用できる場合は、リスニングから入る。

- 第1回：授業方針の説明と資料の配布、初回講読練習
- 第2回：英語の起源と特徴（アングロサクソン人のブリテン島支配と古英語の成立 ゲルマン語を起源として成立した古英語の特徴：自然語と音楽性）を教科書で学ぶ
- 第3回：英語の起源と特徴（ノルマン人征服による古英語とフランス語の融合）その1 基層としての古英語にラテン語源のフランス語が加わってゆくプロセスを教科書で学ぶ
- 第4回：英語の起源と特徴（ノルマン人征服による古英語とフランス語の融合）その2 素朴な古英語に聖書のラテン語源の文化言葉が融合するプロセスを教科書で学ぶ
- 第5回：古英語とフランス語の融合によってもたらされた英語の特徴（アングロサクソン語源の言葉とラテン語源の言葉のバランス）を、現代英語文学テキストを読んで理解する
- 第6回：シェイクスピアとその時代（エリザベス朝イギリス）イングリッシュ・ルネサンスとその気風を教科書で概観する
- 第7回：シェイクスピアと欽定英訳聖書（近代英語の源流）その1 シェイクスピア劇の代表的テキストを読む
- 第8回：シェイクスピアと欽定英訳聖書（近代英語の源流）その2、ヘブライ起源の聖書が英語に翻訳され、ブリテン島に根を下ろすプロセスを教科書で辿る；中間小テスト
- 第9回：英語文学の代表的テキストを読む—その一 ワーズワスの詩を読む
- 第10回：英語文学の代表的テキストを読む—その二 テニソンの詩を読む
- 第11回：英語文学の代表的テキストを読む—その三 ディケンズの小説テキストを読む
- 第12回：英語文学の代表的テキストを読む—その四 ジョージ・エリオットの小説テキストを読む
- 第13回：英語文学の代表的テキストを読む—その五 ヘレン・ケラーの自伝を読む
- 第14回：アメリカニズムの基本的テキストを読む—その一 アメリカ合衆国独立宣言とキング牧師の演説を読む
- 第15回：アメリカニズムの基本的テキストを読む—その二 アメリカ精神の象徴としての大統領演説を読む

【授業計画 備考2】

各回の授業で学んだキーワード、フレーズを挙げ、内容のポイントをまとめるワークシートを数回課す。これを提出することを求められる。

コースの中間点で課せられる中間小テストは答案を、評点をつけて返す。

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	授業への取り組み，受講態度によって評価する
	レポート	50%	文学作品のテーマに従って内容を評価する
	小テスト		
	定期試験		
	その他	20%	テーマの発表内容によって評価する
	自由記載		

【受講の心得】

英語テキストを，辞書を引いて読み解いて，英語という言葉の多面的な特徴をつかんでもらう。事前学習としてテキストの予習は不可欠である（次週の予習範囲を予告する）。事後学習として，上記の課題レポートを提出してもらう。

【授業外学修】

英語教科書とその他の資料の予習が求められている。辞書を引くことは必須の準備である。その他，人名，歴史・宗教用語はGoogleの検索エンジンを活用すること。復習は，キーワード，フレーズと，内容のポイントの課題レポートを提出することをもって代替する。

以上の学修に週当たり4時間以上を充てること。

使用テキスト	自由記載	なし
参考書	自由記載	

【担当教員の実務経験の有無】

無

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

授業科目名	英語文学講読	サブタイトル		授業番号	LL401
担当教員名	松浦 加寿子				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	4年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

多様な英語テキストを正確に、深く読む実践練習を課す。講読テキストの内容は、文学的英語（詩、散文）を中心に、国際コミュニティの中の日本、異文化理解の観点を加える。学習方法としては、英語読解の力をコミュニケーション能力に生かすため、音読練習を重視する。同時に、受講生が英語の文体感覚を磨くため、意味の奥行、姿・形の美しさ、音楽性を感じとる感受性を養う課題を課す。

【到達目標】

英語教員を目指す受講生が、多様な英語テキストを読むことを通して、中学校、高校の英語教科書を分析・評価する力を養う。また、この力を基にして、英語授業の組み立てができるだけの素養を磨くことを目的とする。ディプロマ・ポリシーの観点から見ると、コミュニケーション能力と語学力の習得に貢献する。

なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

【授業計画 備考】

教科書は使用せず、講読資料は前もって配布する。各回のテーマに合った講読素材を提示する。受講生は予習をすることが必須である。4技能のバランスよい習得のためにCD、テープなどのリスニング用ソフトはできるだけ活用する。1) リスニング、2) 音読練習、3) 解説、文法説明、文体の見方の提示する。

- 第1回：授業方針の説明と資料の配布
- 第2回：英語テキストの読み方：文脈の中の言葉
- 第3回：英語テキストの読み方：辞書が語る意味、文脈が語る意味
- 第4回：英語テキストの読み方：語源が語る意味の奥行
- 第5回：国際コミュニティの中の日本：外国人の目に映る日本人像
- 第6回：国際コミュニティの中の日本：日本人の大切にしてきた言葉と英語訳
- 第7回：異文化理解は日本語を相対化することと裏表
- 第8回：英語読解を通して見えてくる日本語の特性、中間小テスト
- 第9回：英文法は表現の豊かさを生むスパイス
- 第10回：仮定法の曖昧な豊かさ
- 第11回：詩（ものの情趣）を読む（ものの情趣を味わう知恵）
- 第12回：歴史エッセーを読む（過去を振り返ると、未来が見えてくる）
- 第13回：生態学エッセーを読む（生物多様性の意味）
- 第14回：ユーモア、アイロニー（複眼でものを見る眼）
- 第15回：名文を音読して学ぶ意味と姿と音楽の融合

【授業計画 備考2】

- ・英語を読んで原文をそのまま受け取り、話すことができるような問題意識を求めます。音読は、そのための重要な手段です。
- ・中間点で小テストを課します。

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加によって評価する
	レポート	50%	各章の課題について取り組み、内容について評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他	20%	テーマに沿った発表内容について評価する。
自由記載			

【授業外学修】

事後学習として、授業のポイントを折々の課題レポートでまとめて、提出してもらう。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	文学で学ぶ英語リーディング	斎藤兆史・中村哲子編著	研究社	1,900円 +税	978--327- 42185-4
	自由記載				
参考書	自由記載				

【担当教員の実務経験の有無】

無

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

授業科目名	インテグレート ッド・イングリ ッシュ A	サブタイトル		授業番号	LJ102
担当教員名	森年 ポール グレゴリー チンデミ				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	4単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
<p>【授業の概要】</p> <p>Students will develop their ability to speak, listen, read and write in English to exchange simple information when introducing themselves. It will also improve their research, presentation and study skills and develop learner independence and responsibility. -CEFR A1-</p> <p>この授業では、学生が簡潔な基本的会話での話題について情報を交換するために英語で話し、聞き、読み、書く基本的な能力を伸ばす。また、調査、発表、研究の技能と自画くできる能力と責任感を開発し始める。 -CEFR A1-</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. Like playing sports, music or other skills, learning English takes time and practice. The teachers will support your learning in and out of class, but it is each student's responsibility to use and practice English as much as possible during the lessons. Students must show significant improvement by the end of the course.</p> <p>スポーツや音楽やその他の技能と同様に、英語にも時間と練習が必要である。教員は授業内外で学修のサポートをする が、授業中にできるだけたくさんの英語を使って練習することは学生の責任である。進歩がほとんどなかったり、全くな かったりする場合には、単位を与えられない。</p> <p>2. Students must also do self-study activities for every unit using the online workbook and submit their work by the deadlines. Students need to get at least 12% on self-study assignments in total to pass.</p> <p>学生はすべてのユニットにおいてオンラインのワークブックを使って自習し、締め切りまでに課題を提出しなければなら ない。単位の取得には、100点のうち少なくとも12%を自習課題で得る必要がある。</p> <p>3. This course is also connected to the 英語資格演習 A course.</p> <p>この授業は、「英語資格演習 A」の授業と関連がある。</p> <p>This course will contribute to acquiring language knowledge, understanding and skills, thinking and problem-solving skills, and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy.</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態 度〉の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					

- 第1回 : Self-introductions; Administration; Course outline (自己紹介活動及び授業の進め方と概要の説明)
- 第2回 : Unit 1 – New friends: A-B (新しい仲間: A-B)
- 第3回 : Unit 1 – New friends: C-D and review (新しい仲間: C-D 及び復習)
- 第4回 : Unit 2 – People and places: A-B (様々な人々と場所: A-B)
- 第5回 : Unit 2 – People and places: C-D and review (様々な人々と場所: C-D及び復習)
- 第6回 : Unit 3 – What’s that?: A-B (あれは何?: A-B)
- 第7回 : Unit 3 – What’s that?: C-D and review (あれは何?: C-D及び復習)
- 第8回 : Unit 4 – Daily life: A-B (日常生活: A-B)
- 第9回 : Unit 4 – Daily life: C-D and review (日常生活: C-D及び復習)
- 第10回 : Mini-test 1; Your research presentations; Individual tutorials (小テスト 1; 学生の研究発表と個別指導)
- 第11回 : Unit 5 – Free time: A-B (自由時間: A-B)
- 第12回 : Unit 5 – Free time: C-D and review (自由時間: C-D及び復習)
- 第13回 : Unit 6 – Work and play: A-B (学修と遊び: A-B)
- 第14回 : Unit 6 – Work and play: C-D and review (学修と遊び: C-D及び復習)
- 第15回 : Unit 7 – Food: A-B (食品: A-B)
- 第16回 : Unit 7 – Food: C-D and review (食品: C-D及び復習)
- 第17回 : Unit 8 – In the neighborhood: A-B (自分の地域: A-B)
- 第18回 : Unit 8 – In the neighborhood: C-D and review (自分の地域: C-D及び復習)
- 第19回 : Mini-test 2; Individual tutorials (小テスト; 個別指導)
- 第20回 : Unit 9 – What are you doing?: A-B (何をしているの?: A-B)
- 第21回 : Unit 9 – What are you doing?: C-D and review (何をしているの?: C-D及び復習)
- 第22回 : Unit 10 – Past experiences: A-B (過去の経験: A-B)
- 第23回 : Unit 10 – Past experiences: C-D and review (過去の経験: C-D及び復習)
- 第24回 : Unit 11 – Getting away: A-B (お出掛け: A-B)
- 第25回 : Unit 11 – Getting away: C-D and review (お出掛け: C-D及び復習)
- 第26回 : Unit 12 – Time to celebrate: A-B (お祝い: A-B)
- 第27回 : Unit 12 – Time to celebrate: C-D and review (お祝い: C-D及び復習)
- 第28回 : Mini-test 3; IPA test; Individual tutorials; Research presentation practice (小テスト 3; 発音記号の小テスト; 個別指導; 研究発表の練習)
- 第29回 : Research presentations (two groups) (研究発表(2グループで))
- 第30回 : Course review, evaluation questionnaires (授業全体の振り返り, 評価, アンケート)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	Active participation in English (英語を使つての授業への積極的参加)
	レポート		
	小テスト	40%	3 mini-tests (小テスト3回) (3 x 10%), IPA test (発音記号の小テスト) (10%)
	定期試験		
	その他	40%	Online homework (オンラインによる自習課題) (20%) (Students must get at least 12%) (合格には最低12%), Research presentation (研究発表) (20%)
	自由記載		

【授業外学修】

授業外で、授業の復習や準備、課題やレポート、自主学習を十分に行うこと。以上の内容を、週当たり8時間以上学修すること。

Students should spend 8 hours a week of their own time reviewing and preparing for lessons, doing homework, reports, self-study or other assignments.

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	Four Corners 1	Richards, J.C. & Bohlke, D.	Cambridge University Press	4, 000円 + 税	9781107641747
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	英検2級 での順パス単	旺文社編	旺文社	1, 300円 + 税	9784010947043
	自由記載	Students must bring all their study materials (dictionary, textbook, notebook, worksheets, files, etc.) to every class. 学生は、すべての授業に、必要な準備物（辞書、教科書、ノート、ワークシートなど）を持ち込まなければならない。			
【担当教員の実務経験の有無】					
無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					

授業科目名	インテグレート ッド・イングリ ッシュC	サブタイトル	なし	授業番号	LJ205
担当教員名	森年 ポール				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	4単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】					
<p>This course develops students' ability to speak, listen, read and write in English to communicate more easily in familiar situations and to exchange non-routine, but non-technical information about less familiar topics. It will more deeply challenge students' research and presentation skills and assume that students have become more autonomous learners able to take responsibility for their own education. -CEFR B1-</p> <p>この授業では、学生が日常慣れ親しんだ話題ではより容易にコミュニケーションができ、それほど慣れ親しんでいるとは言えない話題については、日常を離れた、ただし専門的ではない情報を交換するために話し、聞き、読み、書く能力を伸ばす。また、より深く研究し発表する技能を学生に求め、学生が自己教育力に責任を持てる自立した学習者となることを前提とする。-CEFR B1-</p>					
【到達目標】					
<p>1. As 2nd-year students, you will be expected to show increasing maturity, learner independence and ability to take responsibility for your own learning. The teachers will support you in and out of class, but it is each student's responsibility to use and practice English as much as possible during the lessons. Students must show significant improvement by the end of the course.</p> <p>2年生として、より成熟し自立して自己の学修に責任を持てるようになっていくことを期待されている。教員は授業内外で学修のサポートをするが、授業中にできるだけたくさんの英語を使って練習することは学生の責任である。進歩がほとんどなかったり、全くなかったりする場合には、単位を与えられない。</p> <p>2. Students must do self-study activities for every unit using the online workbook and submit their work by the deadlines. Students need to get at least 12% on self-study assignments in total to pass.</p> <p>学生はすべてのユニットにおいてオンラインのワークブックを使って自習し、締め切りまでに課題を提出しなければならない。単位の取得には、100点のうち少なくとも12%を自習課題で得る必要がある。</p> <p>3. This course is a progression from Integrated English A and B and is also connected to 2nd-year Tourism English A, Business English and Writing courses.</p> <p>この授業はインテグレートッド・イングリッシュAとCからの発展コースで、2年次開講の「ツーリズム・イングリッシュA」、「ビジネス・イングリッシュ」、「ライティング」と関連がある。</p> <p>This course will contribute to acquiring language knowledge, understanding and skills, thinking and problem-solving skills, and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy.</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					

- 第1回 : Self-introductions; Administration; Course outline (自己紹介活動及び授業の進め方と概要の説明)
- 第2回 : Unit 1 – Education: A–B (教育: A–B)
- 第3回 : Unit 1 – Education: C–D and review (教育: C–D及び復習)
- 第4回 : Unit 2 – Personal stories: A–B (自己に関する物語: A–B)
- 第5回 : Unit 2 – Personal stories: C–D and review (自己に関する物語: C–D及び復習)
- 第6回 : Unit 3 – Style and fashion: A–B (スタイルとファッション: A–B)
- 第7回 : Unit 3 – Style and fashion: C–D and review (スタイルとファッション: C–D及び復習)
- 第8回 : Unit 4 – Interesting lives: A–B (興味深い人生: A–B)
- 第9回 : Unit 4 – Interesting lives: C–D and review (興味深い人生: C–D及び復習)
- 第10回 : Mini-test 1; Your research presentations; Individual tutorials (小テスト 1; 学生の研究発表と個別指導)
- 第11回 : Unit 5 – Our world: A–B (私たちの世界: A–B)
- 第12回 : Unit 5 – Our world: C–D and review (私たちの世界Our world: C–D及び復習)
- 第13回 : Unit 6 – Organizing your time: A–B (時間の管理: A–B)
- 第14回 : Unit 6 – Organizing your time: C–D and review (時間の管理: C–D及び復習)
- 第15回 : Unit 7 – Personalities: A–B (性格: A–B)
- 第16回 : Unit 7 – Personalities: C–D and review (性格: C–D及び復習)
- 第17回 : Unit 8 – The environment: A–B (環境: A–B)
- 第18回 : Unit 8 – The environment: C–D and review (環境: C–D及び復習)
- 第19回 : Mini-test 2; Individual tutorials (小テスト 2; 個別指導)
- 第20回 : Unit 9 – Relationships: A–B (人間関係: A–B)
- 第21回 : Unit 9 – Relationships: C–D and review (人間関係: C–D及び復習)
- 第22回 : Unit 10 – Living your life: A–B (人生を生きる: A–B)
- 第23回 : Unit 10 – Living your life: C–D and review (人生を生きる: C–D及び復習)
- 第24回 : Unit 11 – Music: A–B (音楽: A–B)
- 第25回 : Unit 11 – Music: C–D and review (音楽: C–D及び復習)
- 第26回 : Unit 12 – On vacation: A–B (休暇: A–B)
- 第27回 : Unit 12 – On vacation: C–D and review (休暇: C–D及び復習)
- 第28回 : Mini-test 3; IPA test; Individual tutorials; Research presentation practice (小テスト 3; 発音記号の小テスト; 個別指導; 研究発表の練習)
- 第29回 : Research presentations (two groups) (研究発表(2グループで))
- 第30回 : Course review, evaluation questionnaires; Submit research report (授業全体の振り返り, 授業評価アンケート, 研究レポート提出)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	Active participation in English (英語を使つての授業への積極的参加)
	レポート		
	小テスト	40%	3 mini-tests (小テスト3回) (3 x 10%), IPA test (発音記号の小テスト) (10%)
	定期試験		
	その他	40%	Online homework assignments (オンラインによる自習課題) (20%) (minimum 12% to pass) (合格には最低12%), Research presentation (研究発表) (20%)
	自由記載		

【授業外学修】

授業外で、授業の復習や準備、課題やレポート、自主学習を十分に行うこと。以上の内容を、週当たり8時間以上学修すること。

Students should spend 8 hours a week of their own time reviewing and preparing for lessons, doing homework, reports, self-study or other assignments.

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	Four Corners 3 with Online Self-study and Online Workbook	Richards, J.C. & Bohlke, D.	Cambridge University Press	4, 000円 +税	9781107664296
	自由記載				
参考書	自由記載	Students must bring all their study materials (dictionary, textbook, notebook, worksheets, files, etc.) to every class. 学生は、すべての授業に、必要な準備物（辞書、教科書、ノート、ワークシートなど）を持参すること。			
【担当教員の実務経験の有無】 無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					

授業科目名	インテグレート ッド・イングリ ッシュD	サブタイトル	なし	授業番号	LJ210
担当教員名	グレゴリー チンデミ				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	4単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】					
<p>This course develops students' ability to speak, listen, read and write in English to exchange information on a wider range of familiar and unfamiliar non-technical topics. It will continue to challenge students' research and presentation skills and assumes that students have become autonomous learners able to take responsibility for their own education. CEFR B1+</p> <p>この授業では、学生が日常慣れ親しんだ話題、及びそれほど慣れ親しんでいるとはいえない、より広範囲な非専門的課題について情報を交換するために話し、聞き、読み、書く能力を伸ばす。また、これまで同様に、研究し発表する技能を学生に求め、学生が自己教育力に責任を持てる自立した学習者となっていることを前提とする。CEFR B1+</p>					
【到達目標】					
<p>1. As 2nd-year students, you will be expected to take responsibility for your own learning. The teachers will support you in and out of class, but it is each student's responsibility to use and practice English as much as possible during the lessons. Students who show little or no improvement will not pass the course.</p> <p>2年生として、自己の学修に責任を持てることを期待されている。教員は授業内外で学修のサポートをするが、授業中にできるだけたくさんの英語を使って練習することは学生の責任である。進歩がほとんどなかったり、全くなかったりする場合には、単位を与えられない。</p> <p>2. Students must do self-study activities for every unit using the online workbook and submit their work by the deadlines. Students need to get at least 15% on self-study assignments in total to pass.</p> <p>学生はすべてのユニットにおいてオンラインのワークブックを使って自習し、締め切りまでに課題を提出しなければならない。単位の取得には、100点のうち少なくとも15%を自習課題で得る必要がある。</p> <p>3. This course is a progression from Integrated English A, B and C and is connected with 2nd-year Tourism English A and B courses.</p> <p>この授業はインテグレートッド・イングリッシュA, BとCからの発展コースで、2年次開講の「観光英語A」と「観光英語B」と関連がある。</p> <p>This course will contribute to acquiring knowledge and understanding of English and tourism, thinking and problem-solving abilities and language and IT skills among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy.</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					

- 第1回 : Self-introductions; Administration; Course outline (自己紹介活動及び授業の進め方と概要の説明)
- 第2回 : Unit 1 – The news: A-B (ニュース: A-B)
- 第3回 : Unit 1 – The news C-D and review (ニュース : C-D 及び復習)
- 第4回 : Unit 2 – Communicating: A-B (コミュニケーション: A-B)
- 第5回 : Unit 2 – Communicating: C-D and review (コミュニケーション: C-D 及び復習)
- 第6回 : Unit 3 – Food: A-B (食品: A-B)
- 第7回 : Unit 3 – Food: C-D and review (食品: C-D 及び復習)
- 第8回 : Unit 4 – Behavior: A-B (行動: A-B)
- 第9回 : Unit 4 – Behavior: C-D and review (行動: C-D及び復習)
- 第10回 : Mini-test 1; Your research presentations; Individual tutorials (学生の研究発表と個別指導)
- 第11回 : Unit 5 – Travel and tourism: A-B (旅行と旅行産業: A-B)
- 第12回 : Unit 5 – Travel and tourism: C-D and review (旅行と旅行産業: C-D 及び復習)
- 第13回 : Unit 6 – The way we are: A-B (私たちの在り方: A-B)
- 第14回 : Unit 6 – The way we are: C-D and review (私たちの在り方: C-D 及び復習)
- 第15回 : Unit 7 – New ways of thinking: A-B (新しい考え方: A-B)
- 第16回 : Unit 7 – New ways of thinking: C-D and review (新しい考え方: C-D 及び復習)
- 第17回 : Unit 8 – Lessons in life: A-B (人生の教訓: A-B)
- 第18回 : Unit 8 – Lessons in life: C-D and review (人生の教訓: C-D 及び復習)
- 第19回 : Mini-test 2; Individual tutorials (小テスト 2; 個別指導)
- 第20回 : Unit 9 – Can you explain it?: A-B (説明できますか?: A-B) (説明できますか?: C-D 及び復習)
- 第21回 : Unit 9 – Can you explain it?: C-D and review (説明できますか?: C-D 及び復習)
- 第22回 : Unit 10 – Perspectives: A-B (ものの見方: A-B)
- 第23回 : Unit 10 – Perspectives: C-D and review (ものの見方: C-D 及び復習)
- 第24回 : Unit 11 – The real world: A-B (現実の世界: A-B)
- 第25回 : Unit 11 – The real world: C-D and review (現実の世界: C-D and review)
- 第26回 : Unit 12 – Finding solutions: A-B (解決法を見つける: A-B)
- 第27回 : Unit 12 – Finding solutions: C-D and review (解決法を見つける: C-D 及び復習)
- 第28回 : Mini-test 3; Individual tutorials; Research presentation practice (小テスト 3; 個別指導; 研究発表の練習)
- 第29回 : Research presentations (研究発表)
- 第30回 : Course review, evaluation questionnaires; Submit research report (授業全体の振り返り, 授業評価アンケート, 研究レポート提出)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	Active participation in English (英語を使つての授業への積極的参加)
	レポート		
	小テスト	30%	3 mini-tests (小テスト3回) (3 x 10%)
	定期試験		
	その他	50%	Online homework assignments (オンラインによる自習課題) (25%) (minimum 15% to pass) (合格には最低) (15%), Research presentation (研究発表) (25%)
	自由記載		

【授業外学修】

授業外で、授業の復習や準備、課題やレポート、自主学習を十分に行うこと。以上の内容を、週当たり8時間以上学修すること。

Students should spend 8 hours a week of their own time reviewing and preparing for lessons, doing homework, reports, self-study or other assignments.

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	Four Corners 4	J.C. Richards & D. Bohlke	Cambridge University Press	4, 000円	9781107644038
	自由記載				
参考書	自由記載	Students must bring all their study materials (dictionary, textbook, notebook, worksheets, files, etc.) to every class. 学生は、すべての授業に、必要な準備物（辞書、教科書、ノート、ワークシートなど）を持参すること。			
【担当教員の実務経験の有無】					
無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					

授業科目名	エクステンシブ・リーディング	サブタイトル		授業番号	LJ106
担当教員名	森年 ポール				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】					
<p>この授業では、学生が個々のレベルに応じて楽しく読むことを手助けする。また、読みの技術、速さ、理解度、流暢さを向上させる。グレード別の読み物、プリント、ワークシート、Mreader（グレード別読み物のオンライン上の小テスト）を使う。ほとんどの授業で、時間を決めたリーディング演習をして、時間を計測する。また、学生それぞれが読んできた本の内容について話し合う。この授業では、授業外で本を読むことが欠かせない。この授業で身につけた読みの技術は、「英語資格演習A」と「インテグレートッド・イングリッシュA」の授業でも使うことができる。</p> <p>This course helps students to enjoy reading in English at their own level. It improves their reading skills, reading speed, comprehension and fluency. Graded readers, handouts, worksheets and Mreader (an online quiz program for graded readers) will be used. Most lessons will include timed reading drills and reading time. Students will also discuss books they have read. Reading outside of class is essential for this course. The reading skills developed in this course can also be used in the 英語資格演習A and インテグレートッドイングリッシュA courses.</p>					
【到達目標】					
<p>学生は、この授業で学修する読みの技術を理解して使えるようになる。単位を取得するには、読みの速さ、理解度、流暢さにおいて少なくとも要求される最低限の能力を向上させなければならない。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p> <p>Students should be able to understand and use the reading skills included in this course. They must also improve their English reading speed, comprehension and fluency by reading at least the minimum required to pass.</p>					
【授業計画】					
<p>第1回：「エクステンシブ・リーディング」の説明と学生個々のグレード別読み物のレベルチェック Introduction to Extensive Reading (ER); Level placement check; The graded readers</p> <p>第2回：時間を決めての反復リーディングとMreaderの説明 Introduction to repeated timed reading and Mreader</p> <p>第3回：読みの技術：自分のためになる本を選ぶ Reading skill: How to choose a book that is good for you.</p> <p>第4回：読みの技術：総覧、登場人物紹介ページを使う、及び質問 Reading skill: Using glossaries, character pages and questions</p> <p>第5回：本に関する学生同士のグループ・ディスカッション Peer group book discussion</p> <p>第6回：読みの技術：スキミング Reading skill: Skimming</p> <p>第7回：読みの技術：スキヤニング Reading skill: Scanning</p> <p>第8回：読みの技術：文脈やその他の手がかりから未知の単語の意味を推測する Reading skill: Guessing the meaning of new words from context and other hints</p> <p>第9回：読みの技術：ビジュアル化；個別指導 Reading skill: Visualising; Tutorials</p> <p>第10回：本に関する学生同士のグループ・ディスカッション Peer group book discussion</p> <p>第11回：読みの技術：言い換えと要約 Reading skill: Paraphrasing / Summarising</p> <p>第12回：読みの技術：予測 Reading skill: Predicting</p> <p>第13回：読みの技術：内容の配列 Reading skill: Sequencing</p> <p>第14回：読みの技術：読むこと理由付け Reading skill: Reasons for reading</p> <p>第15回：本に関する学生同士のグループ・ディスカッション Peer group book discussion</p>					

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢/態度		
	レポート		
	小テスト	30%	MReader quizzes
	定期試験		
	その他	70%	授業への英語を使ったの積極的参加 20%; 読みの速さの向上 20%; 学生同士のグループ・ディスカッションのレポート (3x10%)
	自由記載		

【受講の心得】

To develop reading skills, students must try to use the skills in this course. Reading in English is at your own level and pace, so it should not be too difficult. Also, students choose the books they read, so reading should be interesting and fun. However, students must make the effort to attend, participate and use English.

【授業外学修】

Students should read for at least 35 minutes or more every day in their free time to develop their English reading skills, speed and comprehension.

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	Xreading VL		Paul Goldberg	XLearning Systems	1, 500円
	自由記載				
参考書	自由記載	プリント教材, ワークシート, 及びMreaderによる小テスト Prints, worksheets and Mreader quizzes			

【担当教員の実務経験の有無】

無

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

授業科目名	イングリッシュ・ドラマ		サブタイトル		授業番号	LL203
担当教員名	佐生 武彦					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位		
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
受講生は、グループに分かれて、一つの物語に取り組み、約4ヶ月かけて英語劇の舞台を完成させます。具体的には、日本のむかし話（「花咲じいさん」、「カサ地蔵」または「さるかに合戦」）を英語で演じます。この舞台に向けて、特に発音、イントネーション、リズム等の音声面のトレーニングを重視します。						
【到達目標】						
到達目標は、与えられた役を人前で自信をもって演じられる（音声を含む）ようになることである。そのために、英語コミュニケーション力の向上の基盤となる、発音、イントネーション、リズムを向上させ、同時に語彙力も充実させる。さらに、非言語的要素（ジェスチャー、表情など）の表現力も向上させる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<技能>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：英語の「演劇的アプローチ」とは何か？キャスティング						
第2回：読み合わせ1（音声指導）						
第3回：読み合わせ2（音声指導）、半立ち稽古1						
第4回：半立ち稽古2						
第5回：音声チェック						
第6回：半立ち稽古3						
第7回：半立ち稽古4						
第8回：セリフ・チェック						
第9回：立ち稽古1						
第10回：立ち稽古2						
第11回：立ち稽古3						
第12回：立ち稽古4						
第13回：最終音声チェック						
第14回：小返し						
第15回：総稽古						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な演技への取り組み、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他	70%	最終の上演時にセリフと演技を評価する。			
	自由記載					
【受講の心得】						
「台詞を覚えてくる」ことで他の受講生に迷惑をかけないことが大前提の授業である。						
【授業外学修】						
1 予習として、自分のセリフを暗記する。						
2 復習として、授業で受けたセリフの発音、リズム、イントネーションをのやり方、指導を受けた演出を反復し、確実に身につける。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	日本のむかし話オリジナル英語シナリオ集 Vol.1 こんな英語学習方法も「あり」かな	佐生武彦	ふくろう出版	1,300円 +税	4861863473
	自由記載				
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					

授業科目名	グラマー&ユーセ ツジ		サブタイトル		授業番号	LJ104
担当教員名	大橋 典晶					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】						
<p>授業では、次のような活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的な（既習の）文法項目と語彙・語法について再確認する ・ 平易な英語で書かれた文章を読む ・ 英語で短い文章を書く <p>予習・復習を強く推奨し、その実行具合を毎時間確認する。予習については、指名、授業中のやり取りを通して確認する。復習も同様であるが、小テストを頻繁に実施して、復習の確認とするとともに、評価の一部とする。</p>						
【到達目標】						
<p>高等学校での外国語（英語）学習を踏まえ、文法・語法の基礎を固める。その基礎を基に、英語を通してメッセージを理解し、正確な英文を書く力を養う。このことにより、1年後期以降の学習に必要な英語力の基礎を身に付ける。</p> <p>本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち〈知識・理解〉〈技能〉に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：文法の概観，品詞，動詞と時制・相</p> <p>第2回：現在時制(1) be動詞と現在進行形</p> <p>第3回：現在時制(2) 一般動詞の単純現在形</p> <p>第4回：過去時制</p> <p>第5回：未来</p> <p>第6回：語順</p> <p>第7回：名詞，冠詞など</p> <p>第8回：代名詞と所有格</p> <p>第9回：リーディング&ライティングアクティビティ(1) 時制に注意して</p> <p>第10回：形容詞と副詞</p> <p>第11回：法助動詞(1) 能力，提案，要求，許可</p> <p>第12回：法助動詞(2) 願望，可能性，助言，必要性</p> <p>第13回：準動詞（動名詞，不定詞，分詞）</p> <p>第14回：前置詞，群動詞，接続詞</p> <p>第15回：リーディング&ライティングアクティビティ(2) 話者の意図を読み取る・書く</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	60%	予習の状況，発表などの受講態度によって評価する。特に予習を重視する。			
	レポート	40%	教科書にある「課題」から，各自の問題意識に応じた課題を選んでレポートしていること。レポートは返却する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】						
予習・復習を強く求める。また小テストにもきちんと取り組むこと。						
【授業外学修】						
<p>1 復習として，小テストの学修をする。</p> <p>2 予習として，教科書の授業内容に目を通し，疑問点を明らかにすると同時に，辞書などを使って，練習問題を解く。</p> <p>3 発展学修として，自ら求めて英文法問題集を解く。</p> <p>以上の学修に，週1時間以上をかけること。</p>						

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	「GRAMMAR EXPRESS BASIC」	Marjorie Fuchs (著), Irene E. Schoenberg (著), Margo Bonner (著)	ピアソン・ エデュケー ション		
	自由記載				
参考書	自由記載	田中 茂範 (著), 「表現英文法」コスモピア			
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の実務経験】 県教育委員会, 県教育センター, 県立高等学校英語科教諭					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 高等学校・教育センターでの経験をいかして, 学生自身が文法・語法を正しく理解して使えるだけでなく, 児童生徒等とにかく伝えれば伝わりやすいかも指導する。					

授業科目名	ポピュラー・ソング		サブタイトル		授業番号	LJ116
担当教員名	大橋 典晶					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】						
<p>英語のリズム・語彙・文法の学習を、歌を通じて行う授業である。ここで言う「ポピュラー・ソング」とは、「英語の歌詞を持つ歌すべて」のことであり、特定のジャンルを意味するものではない。授業では、英語で歌われる楽曲を聞き、歌詞の内容を理解して、曲に合わせて歌ってみるなどの活動を行う。音楽の授業ではないので、歌が上手かどうかには関係なく、英語を耳と口と体全体で感じる授業としたい。最初の5回は、教員だけが楽曲を準備するが、第6回からは、学生が持ち回りで楽曲を準備し、他の学生にプレゼンテーションするという形態をとる。教員も、毎回1曲提供する。</p>						
【到達目標】						
<p>歌を上手に歌えるかどうかは、この授業の目標ではなく、評価の対象でもない。目標とするのは、英語コミュニケーション力の基礎を培うことである。</p> <p>具体的には、歌を通して英語に興味をもち、その歌詞を通して語彙や文法力を高め、歌うことを通してリズムやイントネーションを身に付けることを目標とする。</p> <p>本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <技能>に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：We are the World/USA for Africa 第2回：The Tennessee Waltz/Patti Page と Itsy Bitsy Teenie Weenie Yellow Polka-dot Bikini/Brian Hyland 第3回：Hey Paula/Paul & Paula と Yesterday Once More/The Carpenters 第4回：Annie's Song/John Denver 第5回：Hotel California/The Eagles 第6回：学生プレゼンテーションとJamaica Farewell/Harry Belafonte 第7回：学生プレゼンテーションとOh, Pretty Woman/Roy Orbison 第8回：学生プレゼンテーションとLocomotion/Little Eva 第9回：学生プレゼンテーションとEl Condor Pasa/Simon & Garfunkel 第10回：学生プレゼンテーションとSir Duke/Stevie Wonder 第11回：学生プレゼンテーションとTears in Heaven/Eric Clapton 第12回：学生プレゼンテーションとI've Never Been to Me/Charlene 第13回：学生プレゼンテーションとDon't Want to Miss a Thing/Aerosmith 第14回：学生プレゼンテーションとNever Had A Dream Come True/S Club 7 第15回：学生プレゼンテーションとCan't Take my Eyes off you/Sheena Easton</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	60%	授業中の積極的な受講態度、発表の状況によって評価する。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他	40%	曲紹介の準備とその発表の状況によって評価する。			
	自由記載					
【受講の心得】						
しっかり声を出して歌いましょう。						
【授業外学修】						
<p>プレゼンテーションの準備にはしっかり時間をかけること。</p> <p>授業後の復習として、毎週30分程度は、授業で取り扱った曲を聴いたり、さらに歌詞を調べたりすること。</p> <p>以上の学修を、15週合計で15時間以上行うこと。</p>						
使用テキスト	自由記載	指定せず、自作のプリントを配付する。				

参考書	自由記載	なし
【担当教員の実務経験の有無】 有		
【担当教員の実務経験】 県教育委員会，県教育センター，県立高等学校英語科教諭		
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無		
【実務経験をいかした教育内容】 高等学校・教育センターでの経験をいかして，英語の歌を児童生徒等に対しての教材としていかに利用するかについても指導する。		

授業科目名	ライティング	サブタイトル		授業番号	LL201
担当教員名	グレゴリー チンデミ				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

この授業は、仕事やビジネスのための、さまざまなタイプの短く簡潔な文章を書くことに焦点を当てる。これには、情報要求、招待、宿泊予約のための電子メール、入国カード、文書の付け紙、ファックス送付状、就職応募書類、履歴書を含む。学生は、毎時間出席し、毎週の英作文課題をこなすことを期待されている。これはライティングの授業であるが、学生は積極的に授業に参加し、できるだけ多くの英語を使うことを期待されている。授業中いつでも自由に必要な時は友人や教師に英語で質問するのがよい。この授業は、「インテグレートド・イングリッシュC」、「基礎ゼミ」、「専門ゼミ」などの授業と関連している。

【到達目標】

この授業の目標は、学生の英語で書く基本的な能力と、短く簡潔な文章とビジネス文書を英語で書くための文法、語彙、句読法、綴り字法の知識を伸ばすことである。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：書くことについて考える
- 第2回：導入を書く
- 第3回：様々な様式を埋める
- 第4回：感謝を述べる
- 第5回：情報を要求する
- 第6回：ユニット小テスト1；詳細な情報を得る
- 第7回：招待し、会合の手配する
- 第8回：面会時間・場所を決め、それを変更する
- 第9回：指示を与える
- 第10回：問題に対応する
- 第11回：ユニット小テスト2；描写する
- 第12回：意見を言い、推薦する
- 第13回：休暇について書く
- 第14回：趣味について書く
- 第15回：仕事に応募する ユニット小テスト3

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢/態度	25%	英語を使つての授業への積極的参加
レポート	10%	毎週の作文課題	
小テスト	45%	ユニット小テスト	
定期試験			
その他	20%	課題	
自由記載	英語を使つての授業への積極的参加 25%，毎週の作文課題 10%，ユニット小テスト3x15%，課題 20%		

【受講の心得】

学生は、毎時間出席し、毎週の英作文課題をこなすことを期待されている。これはライティングの授業であるが、学生は積極的に授業に参加し、できるだけ多くの英語を使うことを期待されている。授業中いつでも自由に必要な時は友人や教師に英語で質問するのがよい。

【授業外学修】

授業で直接指導できる時間は限られているので、学生は、自習と毎時間の授業のための準備と課題に週当たり4時間以上の学修が必要である。この学習は、一度に行つより、毎日30-40分学修するのが効率的である。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	Ready to Write 1	Karen Blanchard, Christine Root	Pearson Education	3013円	9780134400655
	自由記載				
参考書	自由記載	学生は、教科書とともに和英辞典、A4サイズのノート、授業プリントと課題を入れた授業用ファイル、自習課題を毎時間持参すること。			
【担当教員の実務経験の有無】					
無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					

授業科目名	英語ディベート	サブタイトル	なし	授業番号	LL307
担当教員名	森年 ポール				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

This course aims to develop students' ability to form, express and support their considered opinions in English and to think critically, through discussion of social issues that should be directly relevant and important to the students.

この授業は、学生が英語で自分の意見を形成し、表現し、それを裏付ける能力と、批判的に思考する能力を、学生自身に直接関係したり重要であったりする社会問題を議論することを通して伸ばすことを目標とする。

【到達目標】

Students are expected to discuss socially relevant topics such as people, society, health, fitness, children, education, science, technology, art and culture in a mature way. English should be used to communicate your ideas and the reasons for those ideas through conversation, opinion-sharing, discussion and short presentations. You will learn to reflect on your opinions, feelings and the beliefs they are based on, and to think more critically.

学生は、例えば親となること、友情、自己イメージといった社会的に関連した話題を、大人として議論することを期待されている。学生は、自分の考えやその理由を、会話、意見の共有、議論、プレゼンテーションを通して英語で伝えることになる。学生は、自分の意見や感情、そしてそのもととなる信念を熟考し、批判的に考えることができるようになる。

This course will contribute to acquiring knowledge and understanding, thinking and problem-solving abilities, skills and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy.

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

【授業計画 備考】

The course plan has a repeating format. In each lesson, students learn about and discuss a topic using the textbook. Then they take a quiz on that topic's vocabulary the following week. These quizzes are not assessed. Then every four or five lessons there is a vocabulary test. These tests are assessed (10% each). Students also have to write five short discussion reports on topics of their choice. These reports are submitted to Google Classroom and are assessed (10% each). A penalty will be applied for late submissions.

- 第1回 : Introduction to the course, Course administration (英語でのディベートの説明; 授業の進め方)
- 第2回 : Discussing personal space
- 第3回 : Personal space vocabulary quiz (1), Discussing Japanese restaurant culture
- 第4回 : Japanese restaurant culture vocabulary quiz (2), Discussing collectivism, Discussion report (1)
- 第5回 : Vocabulary quiz for collectivism (3), Discussing natural vs. artificial ingredients in snacks
- 第6回 : Vocabulary test 1 (lessons 2-5), Discussing medical masks in Japan, Discussion report (2)
- 第7回 : Medical masks in Japan vocabulary quiz (4), Discussing youth subcultures in Japan
- 第8回 : Youth subcultures in Japan vocabulary quiz (5), Discussing juku culture
- 第9回 : Juku culture vocabulary quiz (6), Discussing studying abroad, Discussion report (3)
- 第10回 : Vocabulary test 2 (lessons 6-9), Discussing cell phone etiquette in public areas
- 第11回 : Cell phone etiquette in public areas vocabulary quiz (7), Discussing vending machines, Discussion report (4)
- 第12回 : Vending machines vocabulary quiz (8), Discussing manga
- 第13回 : Manga vocabulary quiz (9), Discussing karaoke
- 第14回 : Karaoke vocabulary quiz (10), Discussing Japanese gardens, Discussion report (5)
- 第15回 : Vocabulary test 3 (lessons 10-14), Course review, Student course evaluation questionnaires (総復習)

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	Active participation in English (英語を使つての授業への積極的参加)
	レポート	50%	Five short reports to discuss topics of your choice (Discussion and writing skills) (5 x 10%)
	小テスト	30%	Vocabulary tests (English knowledge) (3 x 10%)
	定期試験		
	その他		
	自由記載	Students who fail the course because they were absent for a test without good reason or because they did not submit assessed work, will not be eligible for a retest at the end of the course.	

【授業外学修】

授業外で、授業の復習や準備、課題やレポート、自主学習を十分に行うこと。以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

Students should spend one hour a week of their own time reviewing and preparing for lessons, doing research, homework, reports, self-study or other assignments.

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	Hot Topics Japan	Stephanie Alexander	Compass Publishing		9781613525197
	自由記載				
参考書	自由記載	Students should bring their dictionaries, course file, notebook, worksheets, homework and other necessary materials to every class. This course requires active participation in English and a relatively high level of English. 学生は、すべての授業に、必要な準備物（辞書、授業ファイル、ノート、ワークシート、課題など）をすべて持参すること。この授業は、積極的な授業参加と比較的高いレベルの英語を必要とする。			

【担当教員の実務経験の有無】

無

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

授業科目名	英語プレゼンテーション		サブタイトル		授業番号	LL303
担当教員名	藤代 昇丈					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位		
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>事前に配布された新聞記事やニュースを読んだり聞いたりして的確に理解する力の養成に努め、学んだり経験したことに基づいて、その情報や自分の考え方をまとめて発表する演習を行う。また、発表された情報や提案を聞いたり読んだりして、自己の立場に基づいて質問したり意見を述べたりする活動を行う。</p>						
【到達目標】						
<p>英語を通して、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながらまとまりのある情報や提案を分かり易く伝える能力を養う。また、英語を通して、発表された情報や提案を的確に理解し、自己の立場に基づいて質問したり意見を述べたりする能力を養う。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：英語によるプレゼンテーションとは</p> <p>第2回：ニュースを読んでまとめてみよう ー新聞を読もうー</p> <p>第3回：ニュースを読んでまとめてみよう ー新聞を読もうー</p> <p>第4回：プレゼンテーションで使う表現を理解して、プレゼンテーションを実際に行おう</p> <p>第5回：ニュースを聞いてまとめてみよう ーニュースを聞こうー</p> <p>第6回：ニュースを聞いてまとめてみよう ーニュースを聞こうー</p> <p>第7回：プレゼンテーションで使う表現を理解して、プレゼンテーションを実際に行おう</p> <p>第8回：発表の仕方や討議に必要な表現を理解し、質問や意見を述べてみよう</p> <p>第9回：タイトルを決めてプレゼンテーションを行おう ータイトルを決めて必要な資料を集めようー</p> <p>第10回：タイトルを決めてプレゼンテーションを行おう ー発表内の全体像を考えようー</p> <p>第11回：タイトルを決めてプレゼンテーションを行おう ーパラグラフ毎の英文を書いてみようー</p> <p>第12回：タイトルを決めてプレゼンテーションを行おう ーパラグラフ毎の英文を書いてみようー</p> <p>第13回：タイトルを決めてプレゼンテーションを行おう ー事前配布資料を作成しようー</p> <p>第14回：タイトルを決めてプレゼンテーションを行おう ープレゼンテーションを行おう(1)ー</p> <p>第15回：タイトルを決めてプレゼンテーションを行おう ープレゼンテーションを行おう(2)ー</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する			
	レポート	20%	課題のテーマについて適切にまとめてあるかを評価する。			
	小テスト	10%	中間期、期末に授業内容の理解度を評価する。			
	定期試験					
	その他	40%	積極的に自分の考えをプレゼン発表できるかを評価する。			
	自由記載					
【受講の心得】						
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中にはペアやグループでの発表活動を実施するので積極的に参加すること。 ・事前準備では辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 ・知識から実践へと進むことができるように、積極的に授業に参加し、授業外でもしっかり練習をして欲しい。 						

【授業外学修】

- 1 課題については十分に調査してレポートを作成すること。
- 2 プレゼンテーションについては事前に作成や発表練習を行うこと。
- 3 ペアやグループで作成する課題についてよく打ち合わせること。

上記に関連して授業までに4時間以上の準備を要する。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	Successful Presentations An Interactive Guide	Mark D. Stafford	センゲージ ラーニング 株式会社	2, 200	978-4-86312-212-3
	自由記載				
参考書	自由記載				

【担当教員の実務経験の有無】

有

【担当教員の実務経験】

県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

高校の学校現場に勤務し、英語科の指導に当たった経験から、学生のニーズを的確に把握し、わかりやすい解説や指導をすることができる。また、大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また、県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として、教職員の研修や指導業務に当たった経験から、ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。

授業科目名	異文化コミュニケーション論		サブタイトル		授業番号	LJ109
担当教員名	佐生 武彦					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
【授業の概要】						
「文化」及び「コミュニケーション」という2つの言葉を、私たちは日常生活において殆どその意味を吟味しないまま口にすることが多い。理由は、両者ともに深く考える対象としては余にも私たちの身近にあり過ぎるためであろう。この授業では、「文化」や「コミュニケーション」など一連の諸概念を詳しく考察すると共に、日本人が多用するコミュニケーション型と諸外国で用いられるコミュニケーション型を比較検討し、これらコミュニケーション型の違いから生じる諸問題とその解決法について学習する。						
【到達目標】						
到達目標としては、「『異文化を理解する』とはどういうことか」、また「日本人のコミュニケーション行為の諸特徴とは何か」等の設問に答えることが出来るようになること。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<思考・問題解決能力>、<技能>、<態度>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：「異文化コミュニケーション論」とは何か？何を学ぶのか？						
第2回：文化」とは何か(1)：文化人類学的視点と動物行動学的視点						
第3回：「文化」とは何か(2)：「文化」vs「文明」						
第4回：「文化」とは何か(3)：Melford E. Spiroの文化観						
第5回：日本人のコミュニケーション(1)：コミュニケーションの動因と志向性						
第6回：日本人のコミュニケーション(2)：コミュニケーションの基本型8						
第7回：「説得 VS persuasion」から見た日米コミュニケーション比較						
第8回：文化・情報・コミュニケーション-情報代謝論						
第9回：コミュニケーションとは何か：知覚・意味・解釈						
第10回：トランプ遊びによる「擬似異文化体験」						
第11回：文化相対主義の批判的考察(1)：文化相対主義の出自と考え方						
第12回：文化相対主義の批判的考察(2)：コミュニケーション論から見た相対主義						
第13回：英語コミュニケーション(1)：「英語支配」を考える						
第14回：英語コミュニケーション(2)：認識と実践						
第15回：まとめと展望						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	毎授業ごとにフィードバック・カードを提出させる。取り組みへの評価は、その内容を吟味して判断する。			
	レポート	30%	与えた課題に関して自分の考えを具体的に述べていること。授業の中で、クラス全体にフィードバックを行う。			
	小テスト					
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
授業内で他の受講生とのディスカッションや意見交換を促すことがある。その時は、敏速に行動に移すように心掛けて欲しい。						
【授業外学修】						
1 予習として、テキストを熟読し、講義内容に関する疑問点を明らかにしておく。						
2 復習として、講義で学んだ事項を各自で再確認する。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						

使用テキスト	自由記載	毎回, プリントを配布する。			
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	異文化コミュニケーションキーワード	石井敏 他著	有斐閣		
	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】					
無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					

授業科目名	比較文化論		サブタイトル	(日米比較)	授業番号	LJ114
担当教員名	佐生 武彦					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】 米国、中国、韓国、台湾など、特に日本と密接な関係を持つ国々の文化について、日本文化との比較対照を通して、理解を深める。また、比較研究の手法を学んだ後に、チーム毎に、テーマに沿って調査を実施し、調査結果のプレゼンテーションを行う。						
【到達目標】 上記各国と日本との間に見られる文化的な相違点を、世界史と国際政治を視野に入れて、理解する。また、適切な比較研究の手法を身につける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉および〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：「文化とは何か」「異文化理解とは何か」 第2回：比較文化の手法、プロジェクトチーム作り 第3回：ケース・スタディ1 「日米比較」 第4回：ケース・スタディ2 「日中比較」 第5回：比較研究テーマの発表と決定 第6回：ケース・スタディ3 「日台比較」 第7回：ケース・スタディ4 「日韓比較」 第8回：比較研究の中間報告 第9回：ケース・スタディ5 「ファドとフラメンコの比較研究」 第10回：ケース・スタディ6 「ジブシー・スウィングとウエスタン・スウィングの比較研究」 第11回：ケース・スタディ7 「日米お笑い比較研究」 第12回：研究発表（報告とディスカッション）1 第13回：研究発表（報告とディスカッション）2 第14回：研究発表（報告とディスカッション）3 第15回：まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業での発言、授業後に提出するリアクションなどを評価			
	レポート	50%	プロジェクトの成果と指定図書2冊のブックレビューを評価。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	30%	プレゼンテーションの内容を評価する。			
	自由記載					
【受講の心得】 異文化と自文化に関する興味・関心のアンテナを常に張り、気になることは何でも調べる習慣を身につけること。						
【授業外学修】 ・授業外で、週当たり4時間以上かけて指定した書籍を読む。 ・指定書籍2冊のブックレビューを提出する。 ・授業の講義内容を必ずレビューすること。						
使用テキスト	自由記載	毎回、資料を配付する。				
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						

授業科目名	英語科教育法I		サブタイトル		授業番号	LU203
担当教員名	大橋 典晶 藤代 昇丈					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位		
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 15回の授業のうち、前半においては、教科書をよく読んでくるという予習に基づいて、授業の中で諸々の問題点を議論することを中心に進め、知識を身に付ける。後半においては、各自で読書することを求め、授業では学習指導案を作成し、それを模擬授業の形で実行してみる。						
【到達目標】 英語学習、英語教育を考えるときに、どのような要素がこれに含まれるかをまず知り、その知識に基づいて授業、教科指導を計画し、実行するための基礎的な知識を身に付ける。また、学習指導案が書けるようになることを目指す。 本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈技能〉に貢献するものである。						
【授業計画】						
第1回：英語教育の基本問題1（英語教育の位置付け、「英語とは」） 第2回：英語教育の基本問題2（指導目標、学習者、教師などの要素） 第3回：英語教育の基本問題3（言語習得理論、教授法） 第4回：スキルの習得とその指導1（発音、綴り字、語彙、文法） 第5回：スキルの習得とその指導2（4技能） 第6回：スキルの習得とその指導3（4技能の統合） 第7回：授業と学習指導案 第8回：教材と機器の活用、TT 第9回：テストと評価 第10回：小学校での英語教育とこれからの英語教育 第11回：学習指導案の作成方法 第12回：学習指導案の作成演習 第13回：学習指導案に基づいた模擬授業演習 第14回：模擬授業演習のまとめ 第15回：模擬授業、学習指導案の反省と科目授業全体の振り返り 定期試験は実施しない。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	予習の状況及び発表などの授業への貢献度により評価する。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他	40%	学習指導案と模擬授業の完成度などを評価する。			
自由記載						
【受講の心得】 予習と授業中の積極的な発言を求めます。						
【授業外学修】 必ず事前に教科書を読み、自分で調べることによって、理解できる箇所と理解できない箇所を明らかにするという予習を行うこと。この学修に、週当たり4時間以上をかけること。						

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	「新学習指導要領にもとづく英語科教育法」	望月昭彦（編著）	大修館		
	「中学校学習指導要領解説外国語編」	文部科学省	開隆館出版		
	「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」	文部科学省	開隆館出版		
	自由記載				
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】					
有					
【担当教員の実務経験】					
県教育委員会，県教育センター，県立高等学校英語科教諭					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					
【実務経験をいかした教育内容】					
高等学校・教育センターでの経験をいかして，実際の教室での授業を念頭においた指導をする。					

授業科目名	英語科教育法II		サブタイトル		授業番号	LU301
担当教員名	藤代 昇丈					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位		
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<p>【授業の概要】</p> <p>英文で書かれた英語科教育法に関する教科書を用いて、これを講読し、内容について議論したり考えを述べたりする。この活動を通して、日本語で知っているだけでなく英語でも英語科教育法に関する知識を得、これを説明したり実行したりできるようになることを目指す。</p> <p>予習を特に重要視し、DVDは各自で視聴してくるようにし、授業内で英文を読むことも可能な限り短時間で済ませられるようにして、議論や発表に時間をかけるように計画する。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>「英語科教育法I」で学習した知識を用いながら、英語で書かれた英語科教育法の本や論文が読めるようになり、知識と技能を一層深める。なお、授業で使用する本や論文は外国のものであるが、学習指導要領との関連に留意することとする。本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>に貢献するものである。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：指導の背景知識1（言語習得） 第2回：指導の背景知識2（学習者の要因） 第3回：指導の背景知識3（学習者中心の授業、動機づけ） 第4回：実際の言語指導1（新教材の導入） 第5回：実際の言語指導2（ドリルと練習） 第6回：実際の言語指導3（4技能の指導） 第7回：実際の言語指導4（詩、歌、ドラマを使った指導） 第8回：授業運営1（教師の役割、授業規律の保持） 第9回：授業運営2（授業内での評価、宿題の出し方） 第10回：授業計画と教材1（授業の流れの計画、教科書・辞書の利用法） 第11回：授業計画と教材2（言語活動の計画） 第12回：授業計画と教材3（ICT機器の活用） 第13回：言語と意味内容を統合した指導1（CLIL [言語と意味内容を統合した指導] とは何か） 第14回：言語と意味内容を統合した指導2（CLILを用いた指導の実際） 第15回：まとめと振り返りのセッション</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	100%	予習・復習の状況60%、授業中の積極性20%、発言内容20%により評価する。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
<p>【受講の心得】</p> <p>予習を強く求める。</p>						
<p>【授業外学修】</p> <p>「英語科教育法I」の教科書等も参考にしながら、必ず事前に英文を読み、意味の理解できない表現は自分で調べ、それでも理解できない箇所を明らかにするという予習を行うこと。この学修に、週当たり4時間以上をかけること。</p>						

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	「Essential Teacher Knowledge Book & DVD PAC」	Jeremy Harmer (著)	ピアソン・エデュケーション		
	自由記載				
参考書	自由記載	文部科学省「中学校学習指導要領解説外国語編」開隆館出版 文部科学省「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」開隆館出版			
【担当教員の実務経験の有無】					
有					
【担当教員の実務経験】					
県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					
【実務経験をいかした教育内容】					
<p>高校の学校現場に勤務し、英語科の指導に当たった経験から、教職員として学校に勤務する上での心構えや注意点など具体的かつ実践的な指導ができる。また、県情報教育センター及び県総合教育センターの指導主事として、教職員の研修や指導業務に当たった経験から、教職員として指導力向上に向けた取り組みなどについて指導ができる。そのため、そのため具体的事例をもとに本講座を充実したものにする。</p>					

授業科目名	英語科教育法III	サブタイトル		授業番号	LU304
担当教員名	藤代 昇丈				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

15回の授業で英語の授業と関わりのあるさまざまな内容について学習する。中でも、実際の英語授業実践に焦点を当て、中学校や高等学校の教育現場でどうすれば効果的な授業を実践できるのかを、テキストのみならずDVDを用いて授業研究、授業観察を行い、その上で、よりよい授業のあり方を検討、協議し、学生自らも模擬授業実践を行う。

【到達目標】

中学校や高等学校での英語教育実践について、テキストやDVDを用いて授業研究・授業観察を行うことによって、理論として学んできた知識を実際の教育実践に移すことができるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマシーポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：中学入門期の指導，高校入学時の指導
- 第2回：「英語で授業」の考え方
- 第3回：基本の授業パターン
- 第4回：コミュニケーション，活動を中心にした授業
- 第5回：指導技術1（全般，発音・文字指導）
- 第6回：指導技術2（文法，語彙指導）
- 第7回：指導技術3（リスニング）
- 第8回：指導技術4（リーディング）
- 第9回：指導技術5（スピーキング）
- 第10回：指導技術6（ライティング）
- 第11回：指導技術7（オーラル・イントロダクション，音読）
- 第12回：文法指導のアプローチ
- 第13回：評価，教材・教具の扱い
- 第14回：クラスルーム・マネジメント，自律的学習者を育てるための工夫
- 第15回：まとめと振り返りのセッション

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	100%	予習・復習の状況60%，授業中の積極性20%，発言内容20%により評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

積極的に議論に参加してほしい。

【授業外学修】

- 1 予習として，必ず事前に教科書を読み，自分で調べることによって，理解できる箇所と理解できない箇所を明らかにしておく。
 - 2 復習として，「英語で授業」を行うために「クラスルームイングリッシュ」を授業で扱うので，学んだ表現が自然に口から出てくるまで練習する。
- これらの学修に，週当たり4時間以上をかけること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	英語授業ハンドブック〈中学校編〉DVD付	金谷憲, 青野保, 太田洋, 馬場哲生, 柳瀬陽介	大修館書店	3, 600円+税	978-4-469-04173-6
	英語授業ハンドブック〈高校編〉DVD付	金谷憲, 阿野幸一, 久保野雅史, 高山芳樹	大修館書店	4, 000円+税	978-4-469-04177-4
	自由記載				
参考書	自由記載	文部科学省「中学校学習指導要領」東山書房 文部科学省「高等学校学習指導要領」東山書房 文部科学省「中学校学習指導要領解説外国語編」開隆館出版 文部科学省「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」開隆館出版 染矢正一「教室英語表現事典」大修館書店			
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の実務経験】 県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 高校の学校現場に勤務し、英語科の指導に当たった経験から、教職員として学校に勤務する上での心構えや注意点など具体的かつ実践的な指導ができる。また、県情報教育センター及び県総合教育センターの指導主事として、教職員の研修や指導業務に当たった経験から、教職員として指導力向上に向けた取り組みなどについて指導ができる。そのため、そのため具体的事例をもとに本講座を充実したものにする。					

授業科目名	英語科教育法IV	サブタイトル		授業番号	LU305
担当教員名	藤代 昇丈				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

15回の授業の前半は、評価の中でも「テスト」について、生徒の英語力を正確に図るテストの在り方を学習する。テスト作成の実習も組み込む。後半では、学習指導案の書き方を、より詳細に学習し、実際に指導案を書いてみて、模擬授業で実践する。模擬授業について、協議を行う。

【到達目標】

学習指導要領との関連に留意しながら、評価と学習指導案について、知識をもち、理論を実践に移すことができる。本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解> <技能>に貢献するものである。

【授業計画】

- 第1回：テストの目的と欠陥テスト
- 第2回：さまざまな「テストング・ポイント」をもつテスト（総合小問題、発音テスト、聞き取りテストなど）
- 第3回：さまざまなテストの形式（空所補充、並べかえ、書き換え、誤文訂正など）
- 第4回：さまざまなテストの形式（部分書き取り、和訳、和文英訳など）
- 第5回：テスト作成演習1
- 第6回：テスト作成演習2（協議）
- 第7回：学習指導案の基礎知識1（教育実習と学習指導案、学習指導案作成の疑問、学習指導案作成の手順）
- 第8回：学習指導案の基礎知識2（学習指導案の細目／授業実習／道徳学習指導案例）
- 第9回：学習指導案の基礎知識3（学習指導案にみる授業の“個性”／「道徳」「特別活動」「総合的な学習の時間」について）
- 第10回：学習指導案作成演習
- 第11回：模擬授業1と反省協議
- 第12回：模擬授業2と反省協議
- 第13回：模擬授業3と反省協議
- 第14回：模擬授業1～3の総括と反省協議
- 第15回：まとめと振り返りのセッション

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	100%	予習・復習の状況60%，授業中の積極性20%，発言内容20%により評価する
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

積極的に議論に参加してほしい。

【授業外学修】

第6回目までは、教科書を事前に読み、理解できる箇所とできない箇所を明らかにしてくる。
第7回目以降は、教科書に目を通すことはもちろん、実際に学習指導案を書いてみる。
以上の学修に、週当たり4時間以上を充てること。

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	テストが導く英語教育改革	若林俊輔，根岸雅史	三省堂		
	自由記載				

参考書	自由記載	文部科学省「中学校学習指導要領解説外国語編」開隆館出版 文部科学省「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」開隆館出版 金谷憲，谷口幸夫編「テストの作り方」研究社 米山朝二，杉山敏著「英語科教育実習ハンドブック新版」大修館書店
【担当教員の実務経験の有無】 有		
【担当教員の実務経験】 県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭		
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無		
【実務経験をいかした教育内容】 高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，教職員として学校に勤務する上での心構えや注意点など具体的かつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センターの指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，教職員として指導力向上に向けた取り組みなどについて指導ができる。そのため，そのため具体的事例をもとに本講座を充実したものにする。		

授業科目名	教育原理	サブタイトル		授業番号	LU102
担当教員名	中田 周作				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

講義形式で、教育の基本的な事項について学習していく。

特に、教育とは何かという根源的な問いと、教育行政や学校教育制度といった、児童・生徒の立場からは察し得ない事象に重点を置いて講義する。

【到達目標】

現代社会における教育問題は、極めて複雑な様相を呈している。歴史的に蓄積された社会構造的な問題もあるだろうし、教育の目指すべき方向を再構築しなければならない問題もあるだろう。

本講義では、こうした社会状況を踏まえつつ、これらの問題解決の一助となるよう、今一度、教育という営みの根源に立ち返ることを目的とする。

そのため、将来、教育に携わる者が、最低限、知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について学習する。

なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：教育とはなにか
- 第2回：子どもの発達と現代社会
- 第3回：教育における思想家たちの系譜
- 第4回：教育の思想と実践
- 第5回：近代の教育制度の発展
- 第6回：教育課題の歴史的背景
- 第7回：教育の課題と教育政策の動向
- 第8回：諸外国の教育
- 第9回：教育に関する法令
- 第10回：教員の養成・採用・研修
- 第11回：学校経営における地域連携の現状
- 第12回：学校経営における地域連携の制度と課題
- 第13回：学校安全の現状
- 第14回：学校安全の課題と対策
- 第15回：これからの社会と教育

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	授業への取り組み姿勢や予習に関する質問に対する応答などを考慮します。
レポート	70%	最終レポート	
小テスト			
定期試験			
その他	20%	コメントペーパー	
自由記載			

【受講の心得】

テキストを事前に読んでくること。最終レポートの課題を探しながら受講すること。

【授業外学修】

週当たり4時間以上、テキストを読むこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	よくわかる教育原理	汐見稔幸ほか	ミネルヴァ 書房	2, 800	9784623059263
	自由記載				
参考書	自由記載	『教育六法』（どの出版社のものでも良い）			
【担当教員の実務経験の有無】					
無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					

授業科目名	教職概論	サブタイトル		授業番号	LU101
担当教員名	藤代 昇丈				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

教職概論は、教職の意義と教員の役割、教員の職務内容について、制度的・実面的側面から学ぶ。教職を目指す学生が、職業論（教職の全体像をつかむとともに、教職に関する基礎的な知識）を身に付け、教職に対する意欲を喚起し、専門職としての基礎を培う。

【到達目標】

教職の意義、教員の役割、職務内容など教職に対する正しい理解を深めるとともに、教員としての責任を自覚し、教職に対する自らの意欲や適性を確認することを到達目標とする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：子どもの生活と学校
- 第2回：学習指導
- 第3回：生徒指導・進路指導
- 第4回：教育相談
- 第5回：学級経営
- 第6回：教師に何を求めてきたか、いま何が求められているか
- 第7回：児童生徒と教師—学ぶことと教えること
- 第8回：教員養成の制度
- 第9回：教職課程の仕組みと内容
- 第10回：教員の採用
- 第11回：教員の研修
- 第12回：教員の地位と身分
- 第13回：教員の待遇と勤務条件
- 第14回：学校制度
- 第15回：学校管理・運営体制

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、発表の有無、予習復習の状況によって評価する。
レポート	30%	課題に対して真摯に取り組んでいるか、自分の考えがまとめられているかの2点で評価する	
小テスト			
定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。	
その他			
自由記載			

【受講の心得】

受講期間中は現在の学校教育の課題と、学校教員の社会的使命について真剣に考えること。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
2. 復習として、課題のレポートを書く。
3. 発展学習として、教育に関するニュース収集をし、自分の見解を述べられるようにする。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	新版(改訂2版) 教職入門 教師への道	藤本典裕	図書文化社	1980円	978-4-8100-9720-7
	自由記載				
参考書	自由記載	授業において随時紹介する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の実務経験】 県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 高校の学校現場に勤務し、英語科の指導に当たった経験から、教職員として学校に勤務する上での心構えや注意点など具体的かつ実践的な指導ができる。また、県情報教育センター及び県総合教育センターの指導主事として、教職員の研修や指導業務に当たった経験から、教職員として指導力向上に向けた取り組みなどについて指導ができる。そのため、そのため具体的事例をもとに本講座を充実したものにする。					

授業科目名	教育心理学	サブタイトル		授業番号	LU103
担当教員名	國田 祥子				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

教育心理学とは、学び手としての子どもを心理学の視点から理解し、支援するための科学である。この授業では、子どもの学びと適応の支援という視点から、教育に関する心理学的知見を広く扱う。

【到達目標】

実際に教育現場に立つ際、児童・生徒の理解を助けるために必要となる、心理学的な視点の基礎を、講義を通じて身につけることを目指す。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：教育心理学とは
- 第2回：心身の発達に基づく教育心理学の考え方
- 第3回：心身の発達に応じた学びの場とその移行
- 第4回：学びの意欲
- 第5回：学びのしくみ
- 第6回：学びの諸相
- 第7回：学びの開発と体系化
- 第8回：中間のまとめ
- 第9回：主体的な学びの授業
- 第10回：個に応じた学びの援助
- 第11回：自立と社会性の学び
- 第12回：子どもを支える
- 第13回：学びと適応の評価
- 第14回：教師の成長
- 第15回：期末のまとめ

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢/態度		
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	100%	理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

積極的な受講態度を期待します。

【授業外学修】

毎回の授業の前にテキストを読み、4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる！教職エクササイズ2 教育心理学	田爪宏二（編著）	ミネルヴァ書房	2200円	978-4-623-08177-6
	自由記載				

参考書	自由記載
【担当教員の実務経験の有無】 無	
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無	

授業科目名	特別支援教育概論	サブタイトル		授業番号	LU309
担当教員名	中 典子 池谷 航介				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

講義形式で、特別支援教育の基本的なことについて学習していく。

特に、特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の理解，教育課程，支援の方法を学ぶ中で，学校と関係機関との連携のあり方について講義する。

【到達目標】

保育者・教育者は通常学級において特別な配慮をする必要のある幼児や児童生徒が学習に参加する中で将来の自立に向けて支援していく必要がある。本講義では，幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し，特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な知識や支援の方法を理解することを目的とする。

なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性 ※ (担当池谷航介)
- 第2回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の心身の発達 ※ (担当池谷航介)
- 第3回：特別支援教育に関する制度の理念や仕組み ※ (担当池谷航介)
- 第4回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ ※ (担当池谷航介)
- 第5回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の教育課程 ※ (担当池谷航介)
- 第6回：発達障害をはじめとする障害のある子どもへの支援 ※ (担当中 典子)
- 第7回：「通級指導」と「自立活動」の教育課程上の位置づけ ※ (担当池谷航介)
- 第8回：「個別指導計画」と「個別教育支援計画」の意義と方法 ※ (担当池谷航介)
- 第9回：学校と家庭との連携のあり方 ※ (担当中 典子)
- 第10回：学校と地域の関係機関との連携のあり方 ※ (担当中 典子)
- 第11回：多文化の幼児や児童生徒に対する学習や生活のしづらさ ※ (担当中 典子)
- 第12回：多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方 ※ (担当中 典子)
- 第13回：貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ ※ (担当中 典子)
- 第14回：貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒支援のあり方 ※ (担当中 典子)
- 第15回：多文化や貧困問題により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習支援 ※ (担当中 典子)

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		20%	課題に対して具体的に述べていること。課題についてはコメントを記入して返却する。
小テスト			
定期試験		80%	最終的な理解度を評価する。
その他			
自由記載			

【受講の心得】

授業内容の理解を深めるため、授業開始前までにテキストの内容を読んでおくこと。

【授業外学修】

授業開始前までに、テキストの内容を読んでおくこと。（1時間）

授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げしておくこと。（2時間）

授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	よくわかる特別支援教育	湯浅恭正編	ミネルヴァ 書房	2,400	
	自由記載				
参考書	自由記載				

【担当教員の実務経験の有無】

有

【担当教員の実務経験】

小学校教諭及び特別支援学校教諭(池谷航介)

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

小学校教諭及び特別支援学校教諭の経験をいかし、様々な障がいをもつ児童・生徒への対応について指導する。(池谷航介)

授業科目名	教育課程総論	サブタイトル		授業番号	LU202
担当教員名	住野 好久				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

教育課程の意義・編成の方法について学修するとともに、教育課程に関する法令、とりわけ、中学校・高等学校の学習指導要領総則について学修する。

【到達目標】

- ・教育課程の意義・編成の方法について理解する。
 - ・教育課程の法令、とりわけ、中学校・高等学校の学習指導要領総則について理解する。
- なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：教育課程の意義
- 第2回：教育課程に関する法令(1)－教育基本法・学校教育法－
- 第3回：教育課程に関する法令(2)－学校教育法施行規則・学習指導要領－
- 第4回：教育課程に関する法令(3)－学校教育法施行規則・学習指導要領－
- 第5回：学習指導要領の歴史的変遷(1)－～50年代－
- 第6回：学習指導要領の歴史的変遷(2)－～70年代－
- 第7回：学習指導要領の歴史的変遷(3)－～90年代－
- 第8回：学習指導要領の歴史的変遷(4)－～10年代－
- 第9回：新学習指導要領の特徴(1)－資質・能力論－
- 第10回：新学習指導要領の特徴(2)－主体的・対話的で深い学び論－
- 第11回：新学習指導要領の特徴(3)－高等学校－
- 第12回：新学習指導要領の特徴(4)－カリキュラム・マネジメント論－
- 第13回：新学習指導要領の特徴(5)－社会に開かれた教育課程論－
- 第14回：教育課程の課題
- 第15回：教育課程の未来

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する
	レポート	40%	最終レポートによって最終的な目標到達度を評価する。
	小テスト	40%	毎回の授業の最後に提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

教育課程がわかると学校の教育活動の全体構造を知ることができます。しっかりと学んで下さい。配付するプリント・資料などはファイルにとじ、整理すること。

【授業外学修】

- 1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として，課題のレポートを書く。
 - 3 発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。
- 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	高等学校学習指導要領解説 総則編	文部科学省			
	中学校学習指導要領解説 総則編	文部科学省			
	自由記載				
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】					
無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					

授業科目名	総合的な学習の時間及び特別活動の指導法		サブタイトル		授業番号	LU307
担当教員名	佐々木 弘記					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位		
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>中学校・高等学校の教育課程の編成について概観し、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の目標、内容を学習指導要領解説に基づき概説する。また、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の現代的意義を論議する。さらに、中学校・高等学校における学習活動としての道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の重要性について理解を深め、各内容の実践的課題を整理する。</p>						
【到達目標】						
<p>学習指導要領に示された道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について理解する。〈知識・理解〉 中学校・高等学校の教師として、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動（学級・ホームルーム活動や学校行事等）における諸問題に対応できる問題解決力を身に付ける。〈思考・問題解決能力〉 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
第1回：道徳教育の意義と目標・内容 第2回：道徳教育の歴史と現代社会における道徳教育の課題 第3回：道徳性の発達 第4回：総合的な学習の時間の意義と目標・内容 第5回：総合的な学習の時間の指導計画 第6回：総合的な学習の時間の学習指導案 第7回：総合的な学習の時間の指導と各教科等との関連 第8回：総合的な学習の時間の指導の手立て 第9回：総合的な学習の時間の評価 第10回：特別活動の意義と目標 第11回：特別活動と各教科等との関連 第12回：特別活動の内容 第13回：特別活動の指導と評価 第14回：特別活動の学習指導案 第15回：特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	10%	課題について、要点や自分の考えを述べたレポートによって評価する。			
	小テスト	20%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。			
	定期試験	60%	最終的な知識や理解の度合いを評価する。			
	その他 自由記載					
【受講の心得】						
<p>毎回、授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。また、返却された小テストは、ノートに貼付し、復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。</p>						

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。
- 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
使用テキスト	中学校学習指導要領解説 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき	146	978-4-908255-35-9	
	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房	209	978-4-8278-1561-0	
	高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編	文部科学省				
	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	ぎょうせい	189		
	高等学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省				
	自由記載					
	参考書	自由記載	『新しい特別活動指導論』, 高旗正人・倉田侃司 編著, ミネルヴァ書房, 2004年			

【その他】

毎回、授業ノートを提出するので、ルーズリーフのノートを用意すること。

【担当教員の実務経験の有無】

有

【担当教員の実務経験】

公立中学校理科教諭, 県教育センター (佐々木弘記)

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

学校, 教育センター等での経験を生かして, 教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

授業科目名	教育方法学	サブタイトル		授業番号	LU201
担当教員名	住野 好久				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】					
子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法、技術を教授するとともに、情報機器及び教材の活用について教授する。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法を理解する。 教育の目的に適した指導技術を理解し、身につける。 情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：教育の方法(1) 教育実践における教育の目的・目標、内容、方法、組織 第2回：教育の方法(2) 学習指導要領が求める教育の方法 第3回：教育の方法(3) 授業づくりの方法(1)教育の目標・内容の設定 第4回：教育の方法(4) 授業づくりの方法(2)教材開発 第5回：教育の方法(5) 授業づくりの方法(3)教授行為 第6回：情報機器及び教材の活用(1) 情報機器を活用した授業づくり 第7回：情報機器及び教材の活用(2) 情報機器を活用した授業の実際 第8回：教育の方法（1）すぐれた授業の分析（1） 第9回：教育の方法（2）すぐれた授業の分析（2） 第10回：教育の技術(1) 模擬授業(1) 教材研究 第11回：教育の技術(2) 模擬授業(2) 指導案の作成 第12回：教育の技術(3) 模擬授業(3) 実践検討（1） 第13回：教育の技術(4) 模擬授業(4) 実践検討（2） 第14回：教育の技術(5) 模擬授業(5) 改善案の作成 第15回：まとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート	40%	本科目で学習したことを理解し、総合的かつ論理的に叙述できること。		
	小テスト	40%	各回の授業の終盤に提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。		
	定期試験				
	その他				
【受講の心得】					
毎回、授業の最後に小テストを行うので、授業内容をしっかりと理解しようとし、不明な点は遠慮なく質問をすること。配付するプリント・資料などはファイルにとじ、整理しておくこと。					
【授業外学修】					
1 予習として、配布しているプリントをあらかじめ読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載				

参考書	自由記載	適宜, 授業の中で紹介する。
【担当教員の実務経験の有無】 無		
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無		

授業科目名	生徒指導の理論と方法		サブタイトル		授業番号	LU302
担当教員名	住野 好久					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	1単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】						
生徒指導の基本的な考え方や進め方，生徒指導に関する法制度，生徒指導上の諸問題への対応について講義する。						
【到達目標】						
一人一人の児童生徒の人格を尊重し，個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることを目指し，全教育活動を通して組織的・計画的に行われる生徒指導の基本的な考え方や進め方，生徒指導に関する法制度，問題行動等への組織的な対応について理解することができるようになる。						
なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：生徒指導の意義と教育課程における位置付け						
第2回：集団指導と個別指導の意義と方法						
第3回：生徒指導体制と教育相談体制						
第4回：生徒指導の進め方(1) -学級担任としての役割-						
第5回：生徒指導の進め方(2) -学年団等による組織的対応-						
第6回：暴力行為・いじめ・不登校への対応						
第7回：生徒指導に関する法制度						
第8回：家庭・地域・関係機関等との連携						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	20%	課題についてまとめをするとともに，自分の考えを具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。			
	小テスト					
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】						
1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。						
2 課題についてレポートを書くこと。						
3 発表や討議に積極的に取り組むこと。						
4 配付する資料を整理しておくこと。						
【授業外学修】						
1 予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。						
2 復習として，課題のレポートを書く。						
3 発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。						
以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	生徒指導提要		文部科学省	教育図書	276円+税	978-4-87730-274-0
	自由記載					
参考書	自由記載	授業において随時紹介する。				

【担当教員の実務経験の有無】

無

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

授業科目名	進路指導の理論と方法		サブタイトル		授業番号	LU303
担当教員名	住野 好久					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	1単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】						
進路指導・キャリア教育の意義や具体的な進め方について講義する。						
【到達目標】						
児童生徒が将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し能力を伸長させる進路指導と、児童生徒が学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人が社会的・職業的に自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成するキャリア教育の意義や進め方について理解することができるようになる。						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：進路指導・キャリア教育の意義と教育課程における位置付け						
第2回：学校の教育活動全体を通じた進路指導・キャリア教育の進め方						
第3回：進路指導・キャリア教育の全体計画と年間指導計画の作成						
第4回：進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制と関係機関等との連携						
第5回：進路指導・キャリア教育の視点を持つカリキュラム・マネジメントの意義						
第6回：ガイダンス機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義と留意点						
第7回：生涯を通じたキャリア形成と自己評価						
第8回：キャリア・カウンセリングの基本的な考え方と方法						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	25%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	50%	課題についてまとめをするとともに，自分の考えを具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。			
	小テスト	25%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】						
1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。						
2 課題についてレポートを書くこと。						
3 発表や討議に積極的に取り組むこと。						
4 配付する資料を整理しておくこと。						
【授業外学修】						
1 予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。						
2 復習として，課題のレポートを書く。						
3 発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。						
以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	中学校キャリア教育の手引き（改訂版）		文部科学省	教育出版	780円＋税	978-4-316-30026-9
	自由記載					
参考書	自由記載	授業において随時紹介する。				

【担当教員の実務経験の有無】

無

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

授業科目名	教育相談	サブタイトル	(カウンセリングを含む)	授業番号	LU308
担当教員名	國田 祥子				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

この授業では、教育相談についてその理念や基本的な理論を紹介する。

【到達目標】

教育相談で扱うさまざまな問題に対し、不適応状態にある子どもやその保護者に教師が対応していく際の考え方や方法について解説し、カウンセリング・マインドを身につける。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：教育相談とは
- 第2回：カウンセリングの理論
- 第3回：カウンセリングの技法
- 第4回：いじめ・不登校への対応
- 第5回：学級崩壊・学級経営の問題への対応
- 第6回：虐待・いのちの教育への対応
- 第7回：非行・学校不適應への対応
- 第8回：中間のまとめ
- 第9回：発達障害への対応
- 第10回：心の病への対応
- 第11回：校内・他機関との連携
- 第12回：アセスメント：観察・面接
- 第13回：アセスメント：心理検査
- 第14回：家庭の理解と保護者への支援
- 第15回：期末のまとめ

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度		
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	100%	理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

積極的な受講態度を期待します。

【授業外学修】

毎回の授業の前に、テキストに基づいて4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる！教職エクササイズ3 教育相談	森田健宏・吉田佐治子(編著)	ミネルヴァ書房	2200円	978-4-623-08178-3
	自由記載				

参考書	自由記載
【担当教員の実務経験の有無】 無	
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無	

授業科目名	教育実習研究 (中・高)		サブタイトル		授業番号	LU310
担当教員名	藤代 昇丈					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	1単位		
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	実習		
【授業の概要】						
中・高等学校での教育実習を有意義なものとするための事前学習である。教育実習の意義を考えることから始めて、実習に対する心構え、生徒の指導に関する技術にとどまらず、実習生としての1日の中で具体的にを行うことを身につけられるよう、講義、協議などを行う。教科の指導に関しては、教材研究・授業の計画立案から指導案の書き方に重点を置く。						
【到達目標】						
その事前学習として、実習の基盤となる知識や技術を身につける。道徳、総合的な学習の時間、生徒指導等の内容を網羅し、特に、教科の指導力の向上を図る。 本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉に貢献するものである。						
【授業計画】						
第1回：教育実習の意義と目的						
第2回：学習指導要領（総則編）について						
第3回：人権教育について						
第4回：実習校での1日（連絡、見学、日誌、心構えなど）						
第5回：生徒指導について						
第6回：道徳と総合的な学習の時間について						
第7回：教材研究の仕方						
第8回：授業の流れと教師の支援						
第9回：中学校授業見学						
第10回：学習指導案の書き方(1)						
第11回：学習指導案の書き方(2)						
第12回：マイクロティーチングの実施						
第13回：マイクロティーチングの反省と改善案検討						
第14回：学習指導案の改善について（教育実習の反省を踏まえて）						
第15回：実習のまとめと振り返りのセッション						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	積極的な発言などの授業中の取組を評価する。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他	50%	学習指導案と模擬授業の完成度などを評価する。			
	自由記載					
【受講の心得】						
予習と授業中の積極的な発言を求めます。						
【授業外学修】						
第11回目までは、在学中に学んだことの振り返りの色合いが強い。あやふやな内容については、過去の教材を当たるなどして、知識を確実なものにすること。						
第12回目以降は、しっかり準備してマイクロティーチングに臨むこと。						
以上の学修を週1時間以上行うこと。						

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	英語科教育実習ハンドブック	米山 朝二	大修館書店	2, 420	4469245755
	新編 教育実習の常識—事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	814	9784915442117
	自由記載				
参考書	自由記載	文部科学省「中学校学習指導要領解説」東山書房 文部科学省「高等学校学習指導要領解説」東山書房			
【担当教員の実務経験の有無】					
有					
【担当教員の実務経験】					
県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭（藤代昇丈）					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					
【実務経験をいかした教育内容】					
高等学校・教育センター等での経験を活かして、実際の教室での授業を念頭においた指導をする。					

授業科目名	教育実習I	サブタイトル		授業番号	LU401
担当教員名	藤代 昇丈				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	4年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	実習		

【授業の概要】

原則として、実習の2週間(中学校実習については前半の2週間)を次の3ステージに分け、それぞれのステージにおいて、取り組み方を変えながら知識や技術を身につける。

第1ステージ：観察を通して、基本的な心構えや言葉遣いなどを知る。

第2ステージ：実際に授業や指導をする中で、授業計画立案、指導案の作成などを行い、指導教諭からの指導を受ける。

第3ステージ：研究授業を行い、指導を受け、その反省を生かして授業改善のための取り組みをする。

【到達目標】

実際に学校現場で、生徒指導、教科指導、担任業務などを、指導教諭の指導の下に実習する。このことを通して、教員として働くための基本的な知識と技術を実践的に身につける。実習に入る前には、学生各自が自己課題を設定し、これを追究することとする。

なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

【授業計画 備考】

※実習校と協議し、実習期間をおおまかに次の3ステージに分ける。

第1ステージ：観察を通して、基本的な心構えや言葉遣いなどを知る。

第2ステージ：実際に授業や指導をする中で、授業計画立案、指導案の作成などを行い、指導教諭からの指導を受ける。

第3ステージ：研究授業を行い、指導を受け、その反省を生かして授業改善のための取り組みをする。

このうち、本授業では、主に第1・2ステージの内容を中学校での実習の第1週と第2週に行う。

第1週前半：学級経営、生徒指導、教科指導などを観察し、その具体的な内容を知る。また、生徒を指導する際の留意点を知る。教科指導においては、学習指導案と実際の指導の関係、教師の指導援助と生徒の反応というインタラクションを理解する。

第1週後半～第2週前半：学級経営、総合的な学習の時間、特別活動、教科指導、(中学校においては、道徳)などを実際に行う。

総合的な学習の時間や教科指導では、授業の計画立案、教材研究、学習指導案の作成、授業の実施、反省といった一連の流れの中で、よりよい学習指導案を作り、よりよい授業を実施する方法を模索する。

第2週後半：引き続き実際に指導に参加することを続ける。高等学校実習では、研究授業を実施し、広く校内の先生方の指導を受け、その反省をもとに授業改善の在り方を考察し、実践する。

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢/態度	60%	意欲的な実習への取り組み態度、授業準備状況、実習の達成度を評価する。
レポート	20%	学習指導案、実習日誌等の内容を評価する	
小テスト			
定期試験			
その他	20%	研究授業の出来具合を評価する。	
自由記載			

【受講の心得】

- ・謙虚で真摯な態度で実習に臨むこと。
- ・指導教員の指導には素直に従い、指摘された事項を授業に生かすこと。
- ・実習期間は生徒にとっては教師であることを自覚し、自らを律すること。

【授業外学修】

- 1 指導案作成に当たっては指導教員の指導に基づき、十分に調べ検討して作成すること。
 - 2 授業実践に当たっては事前によく練習を行うこと。
 - 3 授業後には指導教員の指導を必ず受け、指導された内容を記録の上振り返り、次の授業に向けて改善点を実習日誌等にまとめること。
- 上記に関連して実習期間を中心に合計で15時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト	自由記載	学内で作成した教材を使用する
参考書	自由記載	文部科学省「中学校学習指導要領解説」「高等学校学習指導要領解説」開隆堂
【担当教員の実務経験の有無】 有		
【担当教員の実務経験】 県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭（藤代昇丈）		
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無		
【実務経験をいかした教育内容】 高校の学校現場に勤務し、英語科の指導に当たった経験から、教職員として学校に勤務する上での心構えや注意点など具体的かつ実践的な指導ができる。また、県情報教育センター及び県総合教育センターの指導主事として、教職員の研修や指導業務に当たった経験から、教職員として指導力向上に向けた取り組みなどについて指導ができる。		

授業科目名	教職実践演習 (中・高)		サブタイトル		授業番号	LU403
担当教員名	藤代 昇丈					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	4年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】 教育実習を中心とした諸実習の体験及び学内での授業において修得した知識と技能を実践的能力に高めるため、討論・ロールプレイング・講義・実習・見学・調査・模擬授業等を通して、振り返りと演習を中心に授業を進める。教員としての資質の検証もあわせて行う。また、個人別カルテを作成し、個別的に補完指導を行う。						
【到達目標】 教職課程の最終仕上げに当たる科目として、次の4テーマから見て不足している知識や技能を補いながら、教員免許保有者として望ましい資質を一層高めること。 (1) 社会人としての優れた識見 (2) 教科内容の実践的指導力 (3) 教育に対する熱意と使命感 (4) 豊かな人間性と思いやり 本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解> <技能> <態度> に貢献するものである。						
【授業計画】						
第1回：これまでの学修の振り返りについての講義と自己振り返りカードの作成 第2回：教育実習成果発表とグループ討論（レポート提出） 第3回：特別支援教育の現状と課題についての講義，ディスカッション 第4回：教職を目指す人たちへ 第5回：教員としての心構え 第6回：介護等体験の成果発表とグループ討論（レポート提出） 第7回：生徒理解・生徒指導についての講義と中学校見学の課題設定 第8回：中学校授業見学1 第9回：中学校授業見学2 第10回：中学校見学の反省会，グループ討議 第11回：（教科）より良い学習指導案の研究 第12回：（教科）学習指導案の研究と模擬授業の準備 第13回：模擬授業1及び反省会 第14回：模擬授業2及び反省会 第15回：まとめと振り返り（教員としてふさわしい資質・能力の検証を含む）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業中の積極的な取組態度により評価する。			
	レポート	20%	授業ごとの課題レポートの完成度により評価する。翌回の授業でレポートを返却する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	60%	発表，発言の正確性，教授の技能が身につけている度合いにより評価する。			
	自由記載	教員として最小限必要な資質能力が身につけていると認められた場合に単位を認定する。				
【受講の心得】 教職課程の総仕上げとして、真摯に取り組んでほしい。						
【授業外学修】 それぞれの授業時間には、レポート提出、報告の準備が課される。その準備を怠りなく行うこと。また、授業後には、教員としての資質・能力のうち、不足していると気づいたことについて補足の学修を行うこと。以上の学修に、週当たり4時間以上をかけること。						

使用テキスト	自由記載	随時、資料を配付する。
参考書	自由記載	土屋澄男（編著）「新編英語科教育法入門」文部科学省「中学校学習指導要領解説外国語編」開隆館出版 文部科学省「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」開隆館出版
【担当教員の実務経験の有無】 有		
【担当教員の実務経験】 県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭（藤代昇丈）		
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 有		
【実務経験をいかした教育内容】 高校の学校現場に勤務し、英語科の指導に当たった経験から、教職員として学校に勤務する上での心構えや注意点など具体的かつ実践的な指導ができる。また、県情報教育センター及び県総合教育センターの指導主事として、教職員の研修や指導業務に当たった経験から、教職員として指導力向上に向けた取り組みなどについて指導ができる。		

授業科目名	日本国憲法	サブタイトル	(身近な問題を通して憲法の役割を考える)	授業番号	LA202
担当教員名	俣野 英二				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】
 授業は、教員の教育委員会及び県庁における人権啓発・相談経験を踏まえた身近な問題を素材に、体系的理解及び憲法的な分析方法を学修する。あわせて、身近な問題についてグループの話し合い（新型コロナ対策に伴う規制がない場合）および発表により、憲法的思考および憲法の基本原理などの理解の深化を目指す。

【到達目標】
 憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し、それらを活用して身近な憲法問題を主体的に考えることができるようになることを目標とする。
 なお、本科目は、到達目標達成の前提として異なる価値観、文化、背景及び相互関係を知り、深い認識と理解の修得を伴うので、社会の構造的変化の全体的構図を描くための幅広い知識および自分の意見を形成し、討議を通じて意見を検証することから、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解>の修得に貢献する。また、憲法の視点から身近な問題からグローバルな課題まで考察できる問題可決を思考する力の修得を目的とすることから、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：ガイダンス、憲法とは何か
 憲法とは何かについて学ぶ。
 土儀における女人禁制のルールが憲法に反しないか考える。

第2回：立憲主義、共和主義と民主主義、積極国家、象徴天皇
 立憲主義、共和主義と民主主義、積極国家、機関としての象徴天皇について学ぶ。
 「日本国の象徴」と「日本国民統合の象徴」の意味における議論を考える。

第3回：平和を守る仕組み——戦争の放棄と平和主義——
 戦争の放棄と平和主義について学ぶ。
 自衛隊等についての国会での議論、政府の答弁、国会決議等について調べてみる。

第4回：人権を守るための組織——統治機構1——
 政治と国民、国会議員、選挙権、選挙制度、政党について学ぶ。
 若者の投票率改善について考える。

第5回：人権を守るための組織——統治機構2——
 国会、内閣、裁判所について学ぶ。
 司法権の独立の必要性について考える。

第6回：国際化のなかの日本人、日本にいる外国人の権利
 日本国憲法上の人権が外国人に保障されるか、日本人と異なる扱いが許されるかを学ぶ。
 外国人労働者の受け入れに関する問題を調べる。

第7回：良心を持つ自由、貫く権利
 思想・良心の自由について学ぶ。
 学校における政教分離について考える。

第8回：表現の自由と書かれない権利
 表現の自由と名誉やプライバシーについて学ぶ。
 教師や児童生徒に関するSNSの書き込みについて考える。

第9回：知る権利とマス・メディアの自由
 知る権利とマス・メディアの自由などについて学ぶ。
 情報通信基盤（プラットフォーム）に対する規制について考える。

第10回：営業の自由と消費者の権利
 職業選択の自由、営業の自由と消費者の権利について学ぶ。
 職業を規制することの合憲性について考える。

第11回：働く人の権利
 勤労の権利や労働基本権について学ぶ。
 非正規労働者の問題について調べる。

第12回：困った時の権利、差別されている人たちへの配慮
 憲法25条の歴史的、社会的意味、社会保障制度について学ぶ。
 積極的な格差解消の取組みの合憲性について考える。

第13回：人身の自由と刑事手続き上の諸権利
 被疑者や被告人の権利について学ぶ。
 死刑制度の合憲性について考える。

第14回：家庭と女性・子どもの権利
 憲法における家庭と女性・子どもの権利について学ぶ。
 同性愛者のカップルに婚姻と同じ保護を与える制度について考える。

第15回：学校における生徒の人権
 生徒の教育を受ける権利、学校内外での権利について学ぶ。
 いじめ問題を憲法から考える。

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	講義レポートの提出（15%）、発表・質疑など（5%）に基づいて評価する。
	レポート	40%	2回実施。各20%。問題の背景（憲法上の対立点）を正確な基本的情報に基づいて、判例・学説、結論を憲法や基本原理を使って結論に対する理由が書けていることで評価する。
	小テスト	0%	
	定期試験	40%	記述式試験により最終的な理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

- 履修を希望する者は、初回到グループ分けおよびグループ発表の仕方について説明するので必ず出席すること。
- 受講者は受講期間中に1回以上発表または質問に答える機会を与えるので、担当する課題の回はグループ全員が積極的に準備しておくこと。
- 各回講義レポートがある。
- 各回グループワーク（新型コロナによる規制がないの場合）及び発表がある。
- 中間に2回（第5回、第10回頃）にレポート課題がある。

【授業外学修】

履修者は、毎回予習として

- テキスト及び講義資料内の用語の意味を調べておくこと。
- 提示した課題を検討しておくこと。発表者は、課題に関する情報を収集、整理し、発表及び質問に答えられるよう準備すること。

復習として

- 講義を踏まえて課題を整理し直すこと。
 - 興味のある課題について、追加の調査を行うこと。
 - 課題をレポートにまとめること。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	憲法のちから—身近な問題を通して考える憲法の役割—	中富公一編著	法律文化社		
自由記載					
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	自信をもっていじめにNOと言うための本	中富公一	日本評論社	2300+税	978-4-535-52038-7
自由記載	右崎正博・浦田一郎編『基本判例1 憲法 [第4版]』（法学書院、2014年）				

【担当教員の実務経験の有無】

有

【担当教員の実務経験】

県教育委員会、県（人権・同和政策課）

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。

授業科目名	体育講義	サブタイトル	(日常生活と健康)	授業番号	LA109
担当教員名	士`田 豊				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

知っているようで知らないからだと心の仕組みについて講義し、身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身につけます。また、セルフチェックで得られた結果を客観的に評価し、対処法についても学びます。

【到達目標】

人間のからだと心の仕組みについて理解し、教育の現場に出た際、子どもたちのからだと心の異変に気づき、適切に対処できる力を養うことを目的とする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：「体力」について考える
- 第2回：「ホルモン」のはたらきについて考える
- 第3回：「自律神経」のはたらきについて考える
- 第4回：「土踏まず」のはたらきについて考える
- 第5回：「背筋力」のはたらきについて考える
- 第6回：「健康診断」で分かることについて考える
- 第7回：「前頭葉」のはたらきについて考える
- 第8回：「子どものからだと心を元気にする方法」について考える
- 第9回：
- 第10回：
- 第11回：
- 第12回：
- 第13回：
- 第14回：
- 第15回：

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な受講態度・発表等授業への参加状況を評価する。
	レポート	40%	事前学習や授業で学んだことを踏まえ、自分自身の問題として具体的に述べていること。レポートは、コメントを記入して返却する。
	小テスト	30%	全8回の授業内容を踏まえ、自分自身が健康的な生活を送る上で留意することを中心にレポートを作成する。
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【授業外学修】

1. 「子ども」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し、情報を収集すること。
 2. 各回の授業内容に合わせた情報を収集したり、書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。
 3. 授業で学んだことを日常生活で実践するなどして、自分のからだと心の状態に対するセルフチェックを心がけること。
- 以上の内容を、週あたり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	その都度プリントを準備する。
参考書	自由記載	

【担当教員の実務経験の有無】

有

【担当教員の実務経験】

公立小学校教諭

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

学校現場や自然体験施設での経験を生かして、体の仕組みや健康を維持する方法などについて指導する。

授業科目名	体育実技	サブタイトル	(スポーツに親しもう)	授業番号	LA110
担当教員名	溝田 知茂				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	実技		

【授業の概要】

各チームの課題を基にメンバーで協力しながら、各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。

【到達目標】

健康的な生活を送るために、運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに、集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。
なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：バスケットボールI（ルールと基本技術の理解）
- 第2回：バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第3回：バスケットボールIII（ゲームの展開）
- 第4回：バレーボールI（ルールと基本技術の理解）
- 第5回：バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第6回：バレーボールIII（ゲームの展開）
- 第7回：バドミントンI（ルールと基本技術の理解）
- 第8回：バドミントンII（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第9回：バドミントンIII（ゲームの展開）
- 第10回：ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解）
- 第11回：ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第12回：ソフトバレーボールIII（ゲームの展開）
- 第13回：卓球I（ルールと基本技術の理解）
- 第14回：卓球II（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第15回：卓球III（ゲームの展開）

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり、自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している
	レポート		
	小テスト	40%	各競技ごとに技能テストを実施する
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

運動着を着用し、体育館シューズを使用する。
全員協力の上、準備・片付けをする。

【授業外学修】

- ・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め、日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。
 - ・各種目のルールやスキルアップを図るため、書籍や映像を活用して準備すること。
- 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）
参考書	自由記載	

【担当教員の実務経験の有無】

無

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

授業科目名	インテグレート ド・イングリッシュ ユB	サブタイトル		授業番号	LJ110
担当教員名	森年 ポール グレゴリー チンデミ				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	4単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
【授業の概要】					
This course develops students' ability to speak, listen, read and write in English to exchange simple information about familiar contexts and topics. It will also continue to improve students' research, presentation and study skills and to develop learner independence and responsibility. -CEFR A2-					
【到達目標】					
Students develop their general English ability through topics including interest, health, restaurant and personal goals.					
This course will contribute to acquiring language knowledge, understanding and skills, thinking and problem-solving skills, and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy.					
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回 : Introductions, LMS online homework set-up, Research presentations work schedule					
第2回 : Unit 7 Food: Lesson A - Breakfast, lunch and dinner					
第3回 : Unit 7 Food: Lesson B - I like Chinese food					
第4回 : Unit 7 Food: Lesson C - Meals (自分の地域: A-B)					
第5回 : Unit 7 Food: Lesson D - Favorite food					
第6回 : Unit 8 In the neighborhood: Lesson A - Around town					
第7回 : Unit 8 In the neighborhood: Lesson B - How do I get to...?					
第8回 : Unit 8 In the neighborhood: Lesson C - Fun in the city					
第9回 : Unit 8 In the neighborhood: Lesson D - A great place to visit					
第10回 : Unit 9 What are you going?: Lesson A - I'm looking for you					
第11回 : Unit 9 What are you going?: Lesson B - I can't talk right now					
第12回 : Unit 9 What are you going?: Lesson C - These days					
第13回 : Unit 9 What are you going?: Lesson D - What's new?					
第14回 : Unit test 1, Individual tutorials, Pronunciation test during the week					
第15回 : UK theme day					
第16回 : Unit 10 Past experiences: Lesson A - Last weekend					
第17回 : Unit 10 Past experiences: Lesson B - You're kidding!					
第18回 : Unit 10 Past experiences: Lesson C - Did you make dinner last night?					
第19回 : Unit 10 Past experiences: Lesson D - I saw a great movie					
第20回 : Unit 11 Getting away: Lesson A - Where were you?					
第21回 : Unit 11 Getting away: Lesson B - That's great!					
第22回 : Unit 11 Getting away: Lesson C - My vacation					
第23回 : Unit 11 Getting away: Lesson D - Travel experiences					
第24回 : Unit 12 Time to celebrate: Lesson A- I'm going to get married					
第25回 : Unit 12 Time to celebrate: Lesson B - Sure. I'd love to					
第26回 : Unit 12 Time to celebrate: Lesson C - Planning a party					
第27回 : Unit 12 Time to celebrate: Lesson D - Birthdays					
第28回 : Unit test 2, Individual tutorials					
第29回 : Group research presentations and feedback					
第30回 : Course review, Student questionnaire					

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	Active participation in English (英語を使つての授業への積極的参加)
	レポート	20%	Research Presentation (研究発表)
	小テスト	40%	Pronunciation test (発音記号の小テスト) (10%); Unit tests (小テスト2回) (2 x 15%)
	定期試験		
	その他	20%	Online homework (オンラインによる自習課題)
	自由記載		Students must do self-study activities for every unit using the online workbook by the deadlines. Students must score at least 60% to pass the course. They must also keep up with the schedule of work for the research presentations -CEFR A2-

【受講の心得】

This is a discussion-based course; thus, students are expected to actively communicate in English. As students share and discuss weekly assignments in class, the assignments must be completed in advance. Also, other tasks related to projects must be submitted on time.

【授業外学修】

授業外で、授業の復習や準備、課題やレポート、自主学習を十分に行うこと。以上の内容を、週当たり8時間以上学修すること。Students should spend 8 hours a week of their own time reviewing and preparing for lessons, doing homework, reports, self-study or other assignments.

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	Four Corners 1 (2nd edition) with Online Self-Study and Online Workbook Pack	Richards, J.C. & Bohlke, D.	Cambridge University Press	4, 000円+税	9781108560450
	自由記載				
参考書	自由記載	Handouts, worksheets, YouTube videos, PowerPoint files, online resources, etc.			
【担当教員の実務経験の有無】					
無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					

授業科目名	情報処理I	サブタイトル		授業番号	LK101
担当教員名	赤木 竜也				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		

【授業の概要】

情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ、コンピュータを利用した情報処理の一環としてワードプロセッサ、表計算ソフトなどを用いて情報処理の基本について学修する。

【到達目標】

情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために、日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの基礎的技術を学び、情報に応じて適切な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：情報処理とコンピュータの関わり
- 第2回：コンピュータの基礎知識
- 第3回：ワードプロセッサの基本（文書の作成）
- 第4回：ワードプロセッサの活用（編集機能）
- 第5回：ワードプロセッサの活用（表・図形機能）
- 第6回：表計算ソフトの基本（基本的な表の作成1）
- 第7回：表計算ソフトの基本（書式設定）
- 第8回：表計算ソフトの基本（基本的なグラフの作成）
- 第9回：表計算ソフトの基本（基本的な表の作成2）
- 第10回：表計算ソフトの応用（基本的な関数）
- 第11回：表計算ソフトの応用（応用的な関数）
- 第12回：表計算ソフトの応用（応用的な関数）
- 第13回：表計算ソフトの応用（データベース機能）
- 第14回：アプリ間のデータ活用
- 第15回：総合演習・まとめ

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	課題への取り組みおよび到達度を評価する。
	レポート		
	小テスト	10%	授業中出題する演習問題について評価する。
	定期試験	60%	習熟達成度を評価する。
	その他	10%	授業中出題する演習問題について評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

コンピュータを用いた実習を適宜行うため、遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は、必ず放課後等を利用し学修しておくこと。

【授業外学修】

授業時間の都合上、テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため、授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として4時間半以上その都度取り組み、理解度を深めておくこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	30時間でマスターWord&Excel2016 (Windows10対応)	実教出版企画開発部	実教出版	1,045円	978-4-407-34019-8
	自由記載				
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の実務経験】 公立高等学校公民・商業・情報科講師, IT講習会講師					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）等を担当した経験を踏まえ、情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。					

国際教養学部 国際教養学科
中学校教諭一種免許状（英語）

授業科目名	道徳教育指導論	サブタイトル		授業番号	LU306
担当教員名	小森 順子				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

よりよく生きていくための基盤となる道徳性を育てるにはどうすればよいか。道徳的価値についての理解を深め、単なる徳目主義に陥ることなく、価値の自覚を図るための指導の在り方を検討していく。学校教育活動全体における道徳教育の現状と課題を概観し、道徳教育、道徳科の意義と重要性について考える。道徳科の指導について、教材の選定や指導過程の工夫等、学習指導案を作成する作業を通して、ねらいとする道徳的価値について考えさせる観点と方法を身に付ける。さらに、作成した道徳科学習指導案で模擬授業をすることで、道徳科の意義と目標を理解する。

【到達目標】

価値観が多様化する社会において、よりよく生きていきたいという願いに沿うためには、成長過程における様々な体験や人的物的環境を通して、道徳的価値に繋げていくことが必要である。生きる基盤となる道徳性は、それが心に響いたとき自覚され、受け止められて実践力につながっていくものである。学校教育活動全体を通じた道徳教育の重要性や道徳科における指導の在り方や工夫を学ぶことによって意義と理解を深め、実践意欲を養う。同時に、教員を志望する者としての自覚をもち、真摯に学習しようとする姿勢と態度を養う。

現在の学校における道徳教育について知るために、道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題を学び、道徳教育及び道徳科について理解する。

人間の道徳性はどのように習得されていくか、道徳性の発達について学び、さらによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うための道徳的価値について熟慮し、学齢期の子どもたちの道徳性の修得はいかにすればよいかについて考えられるようにする。

道徳科の指導方法についての技能を習得するために、手段となる教材の選択の工夫、道徳科学習指導案の作成演習、授業展開の工夫などを学び、道徳科の授業ができるようにする。

毎時間の課題に対する記述や道徳科学習指導案作成、内容項目のまとめレポート、グループでの討議や積極的な発表ができるようになることを目的とする。

なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：道徳とは何か
- 第2回：道徳教育の歴史と現状 道徳性の発達
- 第3回：学校における道徳教育と道徳科の目標 指導計画と推進体制
- 第4回：道徳科の内容 内容項目の指導の観点(1)
- 第5回：内容項目の指導の観点(2)
- 第6回：指導の配慮事項 教材に求められる内容の観点
- 第7回：道徳科の授業のつくりかた(1) 道徳科学習指導案 一般的な学習指導過程
- 第8回：道徳科の授業のつくりかた(2) 学習指導案作成の手順 教材研究
- 第9回：道徳科の授業のつくりかた(3) 多様な学習指導 指導方法の工夫
- 第10回：学習指導案作成(1)
- 第11回：学習指導案作成(2)
- 第12回：授業実践(1) 模擬授業と振り返り 模擬授業改善の視点
- 第13回：授業実践(2) 模擬授業と振り返り 模擬授業改善の視点
- 第14回：道徳科の評価 「考え議論する道徳」
- 第15回：まとめ よりよく生きるための基盤となる道徳性の育成

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	意欲的な受講態度, 発表・討議への参加態度によって評価する。
	レポート	50%	各回の授業の主要なポイントをまとめていること・自分の考えを述べていることで評価する。授業レポートはコメントを記入して返却し, 次の講義に生かす。
	小テスト		
	定期試験		
	その他	40%	模擬授業の学習指導案の内容・工夫や教態で評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

様々な事象や出来事に対して自分の意見や考えをもち, 授業実践とつないで考え, 真剣に受講する。

【授業外学修】

1 予習として, 「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」「新しい道徳1」のうち, 次回の授業内容に関わる部分を読み, 課題を把握しておくこと。

2 授業の始めに前回の授業内容に関する小テストを行うので, 復習をしておくこと。

以上の内容を, 週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		中学生の道徳 自分を見つめる 1		廣済堂あかつき		
	自由記載	中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 平成29年7月 (文部科学省)				
参考書	自由記載					

【備考】

令和4年度改訂

【担当教員の実務経験の有無】

有

【担当教員の実務経験】

公立小学校教諭・教頭・校長, 市教育研究研修センター

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

道徳科の授業実践や教職員への研修等のこれまでの経験を, 講義内容(道徳科授業の指導の在り方, 指導方法の工夫, 学習指導案作成の手順, 模擬授業改善の視点等)にいかして指導する。

授業科目名	教育実習II	サブタイトル		授業番号	LU402
担当教員名	藤代 昇丈				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	4年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	実習		

【授業の概要】

原則として、実習の2週間を次の3ステージに分け、それぞれのステージにおいて、取り組み方を変えながら知識や技術を身につける。

第1ステージ：観察を通して、基本的な心構えや言葉遣いなどを知る。

第2ステージ：実際に授業や指導をする中で、授業計画立案、指導案の作成などを行い、指導教諭からの指導を受ける。

第3ステージ：研究授業を行い、指導を受け、その反省を生かして授業改善のための取り組みをする。

本授業では、「教育実習I」に引き続いて、主に第3ステージの内容を、中学校での4週間の実習のうち第3週と第4週に行う。

【到達目標】

実際に中学校現場で、生徒指導、教科指導、担任業務などを、指導教諭の指導の下に実習する。このことを通して、教員として働くための基本的な知識と技術を実践的に身につける。実習に入る前には、学生各自が自己課題を設定し、これを追究することとする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

【授業計画 備考】

※実習校と協議し、実習期間をおおまかに次の3ステージに分ける。

第1ステージ：観察を通して、基本的な心構えや言葉遣いなどを知る。

第2ステージ：実際に授業や指導をする中で、授業計画立案、指導案の作成などを行い、指導教諭からの指導を受ける。

第3ステージ：研究授業を行い、指導を受け、その反省を生かして授業改善のための取り組みをする。

このうち、本授業では、主に第3ステージの内容を中学校での実習の第3週と第4週に行う。

第1週・第2週（中学校での実習の第3週と第4週）：学級経営、総合的な学習の時間、特別活動、教科指導などを実際に行う。

総合的な学習の時間や教科指導では、授業の計画立案、教材研究、学習指導案の作成、授業の実施、反省といった一連の流れの中で、よりよい学習指導案を作り、よりよい授業を実施する方法を模索する。研究授業を実施し、広く校内の先生方の指導を受け、その反省をもとに授業改善の在り方を考察し、実践する。

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	意欲的な実習への取り組み態度、授業準備状況、実習の達成度を評価する。
	レポート	20%	学習指導案、実習日誌等の内容を評価する
	小テスト		
	定期試験		
	その他	20%	研究授業の出来具合を評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

- ・謙虚で真摯な態度で実習に臨むこと。
- ・指導教員の指導には素直に従い、指摘された事項を授業に生かすこと。
- ・実習期間は生徒にとっては教師であることを自覚し、自らを律すること。

【授業外学修】

- 1 指導案作成に当たっては指導教員の指導に基づき、十分に調べ検討して作成すること。
- 2 授業実践に当たっては事前によく練習を行うこと。
- 3 授業後には指導教員の指導を必ず受け、指導された内容を記録の上振り返り、次の授業に向けて改善点を実習日誌等にまとめること。

上記に関連して実習期間を中心に合計で15時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト	自由記載	学内で作成した教材を使用する
参考書	自由記載	文部科学省「中学校学習指導要領解説」開隆館出版

【担当教員の実務経験の有無】

有

【担当教員の実務経験】

県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭（藤代昇丈）

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

高校の学校現場に勤務し、英語科の指導に当たった経験から、教職員として学校に勤務する上での心構えや注意点など具体的かつ実践的な指導ができる。また、県情報教育センター及び県総合教育センターの指導主事として、教職員の研修や指導業務に当たった経験から、教職員として指導力向上に向けた取り組みなどについて指導ができる。